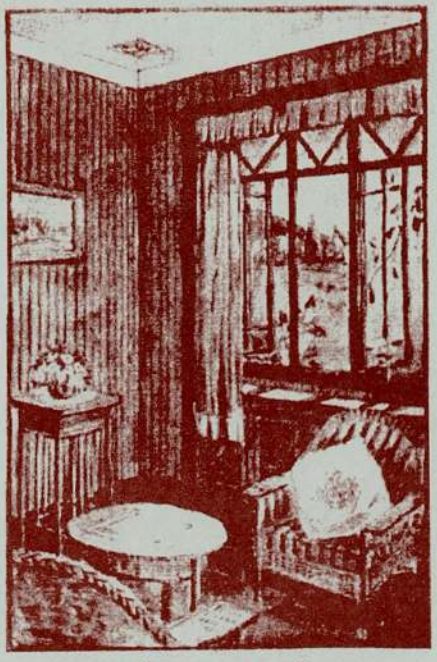
建築ト社會

第五輯　第七号



せかよろ

大正十一年七月一日

日本建築協會

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ノ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記載ス

會員タラントヲ希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ニ於テ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ賛成シ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金參百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身賛助員タラントスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラントスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラントスル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ會内ニ於ケル其資行ニ付會外ニ於テ責ヲ任ゼザルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ經過及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ股會セムトスル者ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルヽ者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ股會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十條　股會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免ガルヽコトヲ得ズ

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名

四　理事　十名（理事長ヲル理事ヲ含ム）

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選擧ス但會頭、副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

理事長ハ理事之ヲ互選ス　但シ理事長ニ付テハ一年トス

役員ノ任期ハ二年トス

理事ノ改選ハ毎年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主計　一名

二　編輯　三名

三　編輯補　若干名

四　書記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長、理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給ト爲スコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應シ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託委員ト爲スコトヲ得

委員長ハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ毎月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ガ必要トス認ムルトキハ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ報告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラズ

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

二　建築ニ關スル重要事項ノ議決

三　決議事項ノ實行促進

四　會誌ノ發刊

五　建築ニ關スル圖書ノ刊行

六　建築ニ關スル講演會ノ開催

七　建築ニ關スル展覽會ノ公開

八　建築ニ關スル視察

九　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十　理想的建築ニ關スル有益ナル事項

十一　其他建築ニ關スル有益ナル事項

十二

第二十條　會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ醵出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金貳百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ル

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別賛助員ハ特別賛助員年額金九圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助員年額金六圓ヲ前納スベシ

但六期以内ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助員其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產積立義務及毎月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

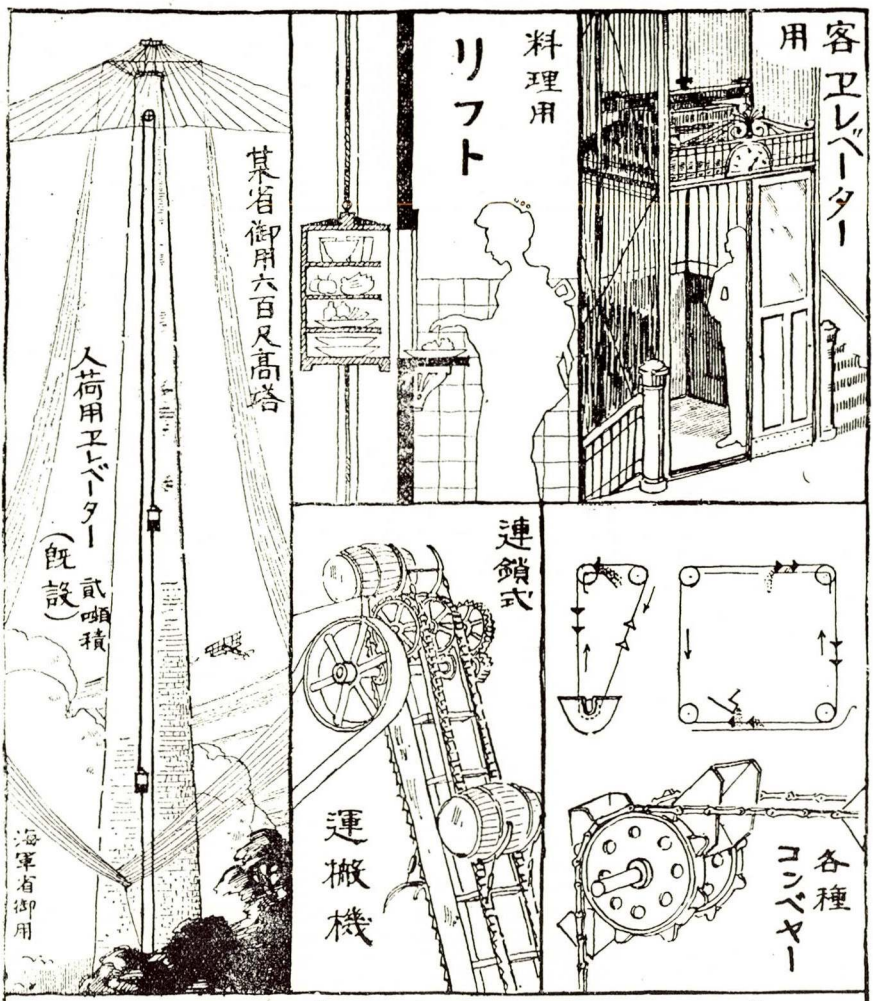
本會ノ財產積立義務及毎年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

本邦エレベーターの權威

（專賣特許六件）



大阪東區玉造

日本エレベーター製造株式會社

電話・南三八〇五番・南五四三五番

建築と社會　第五輯第七號目次

△口　繪……（三色版）
〇そよかぜ……（寫眞版）
〇藤井厚二氏の新邸「翔雲莊」……

〔卷　頭〕

□一筆啓上仕候……

〔論　說〕

□日本の郊外生活……法學士　小川市太郎……二
□伯林郊外の發達に關する研究（下）……法學博士　關　一……六
□講堂の研究を望む……武藏高等學校學生監　山本良吉……一五
□現場工事管理に就いて（中）……會員　本田　登……一八
□社會として觀たる住宅の改善……山田信次……二一
——如今の住宅改善問題に忘れられたるもの——

〔研　究〕

□建築物の內外に於ける日射關係並に「サナトリウム」建築上の應用に就いて（二）……京都大學醫學部　醫學士　富永　孟……二五

□美術工業の諸問題……川村種三郎……三二
——建築裝飾としての美術工業品に就いて——
〔都　市〕
□亞米利加の都市計畫（畢）……Z　Y　生……四〇
〔住　宅〕
□住宅と色彩（七）……工學士・建築士・葛野壯一郎……四八
□藤井厚二氏の新邸「翔雲莊」……それがし……五二
〔資　料〕
□大阪のビルディング細見（上）……華城閑人……六〇
〔漫　錄〕
□東京建築だより（二）……文學士・鵬心生……六七
□田園都市の憧れ……太田寬吾……七〇
□行脚の跡……建築士・津田鑿……七六
□生活の整理……實業家外山捨造氏夫人・外山春子……八一
○時　報
〔附　錄〕
○會　報
□住宅改造博覽會記事……

繩田式 エレベーター

型錄進呈

技術優秀!!
價格低廉!!

多年研究ト經驗トヲ重ネタル結果全ク外國品ヲ凌駕スル完全ナル繩田式裝置ヲ完成シ多大ノ好評ヲ得ツヽアリ
能的作業ニ依リ特ニ低廉ニ供給ス

繩田式エレベーター各種
繩田式コンベヤー各種
石川式安全索道
各種捲揚機械
其他輸送機械專門
設計製作工事請負

大阪市西區市岡町八九番地

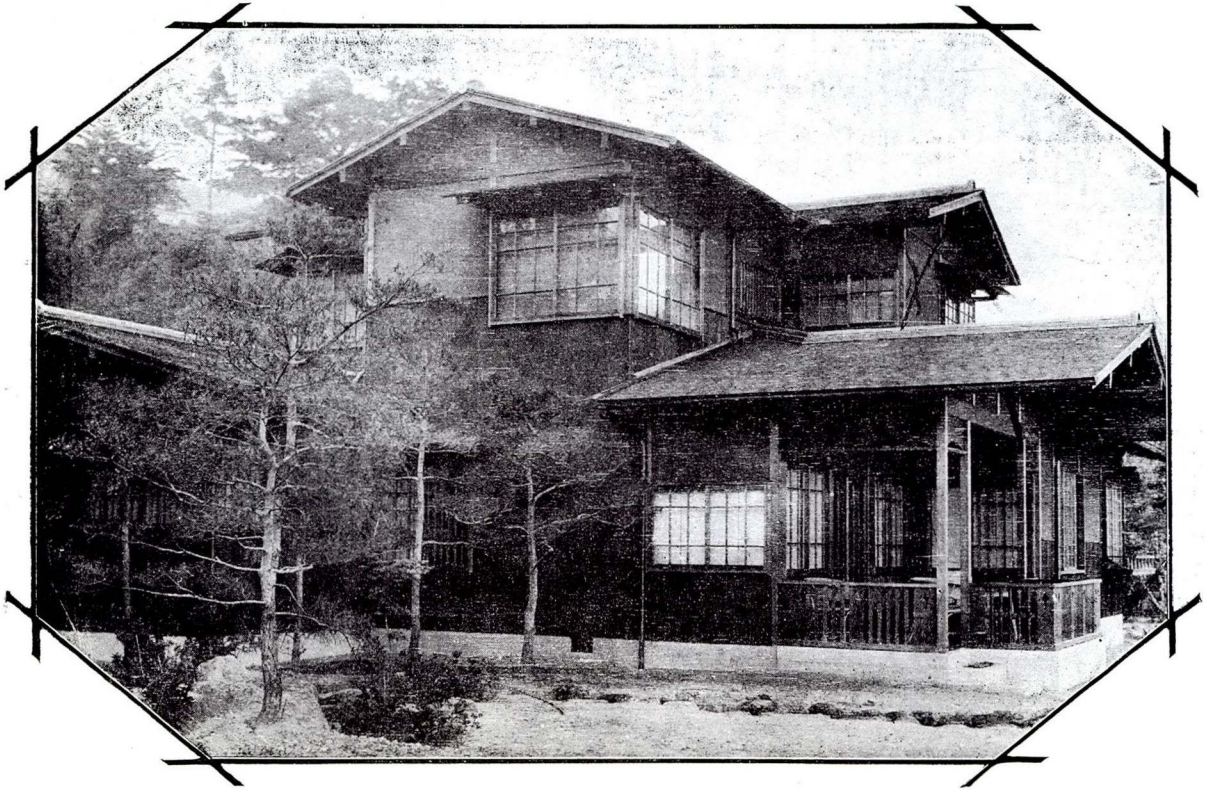
日本コンベヤー製作所

所主 繩田竹一

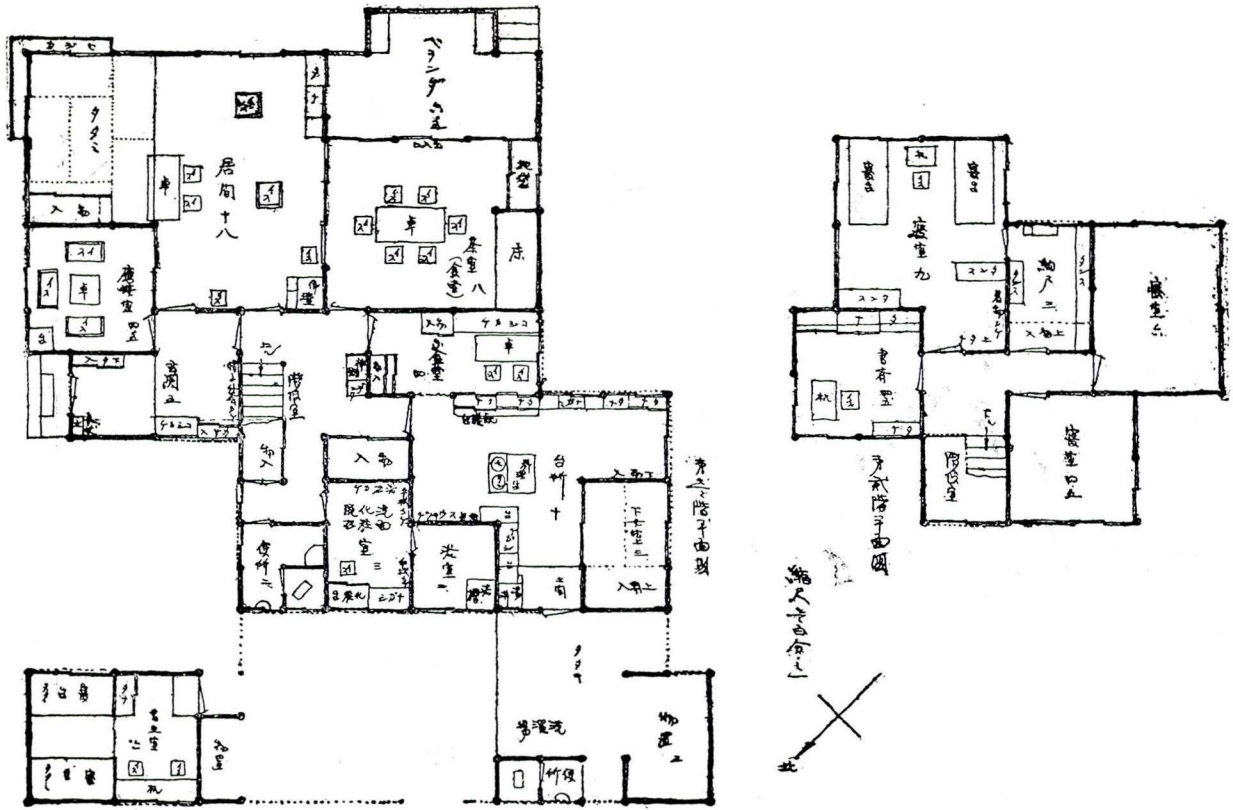
電話西九三六番

最近繩田式採用先

株式會社多木製肥所　森永製菓株式會社　父井原金山鑛業所
日本航空運動株式會社　甲陽土地株式會社　信貴生駒電氣鐵道株式會社



藤井厚二氏新邸『翔雲荘』



其の二

住宅改造博覽會開催に就いて

我日本建築協會ハ方今ノ世情ニ鑑ミ本年秋季ヲ期シ住宅改造博覽會ヲ開催シテ聊カ社會ニ貢献スル所アラムトス。

抑モ我國住宅改善施設ニ就テハ二重生活ノ苦痛ヲ脫却セム爲近年一般社會ノ輿論漸ク勃興シ來リ生活改善ノ運動ト共ニ眞摯ナル研究ニ入リツツアリ從ツテ住宅改善ノ問題ハ最早論議ノ時期ニ非ズシテ實行實現ノ時代ナルコト既ニ識者ノ唱導スル處タリ本協會ハ茲ニ觀ル處アリ前後三回ノ懸賞募集ヲ斷行シ其ノ優秀案ヲ參考トシテ改良住宅ノ成案ヲ實現シ一般公衆ノ觀覽ニ供ヘ且我建築界ノ現狀ヲ紹介シ以テ將來ノ向上促進ニ寄與セントスルノ目的ニ依リ茲ニ住宅改造博覽會ノ擧ヲ企圖シ着々其ノ準備ニ從事シツツアリ翼クハ本會會員賛助員各位ノ熱心ナル御後援ト懇切ナル御賛助ニ依リ本會ノ斯ノ目的ヲシテ着實有意義ナル事業タラシメムコトヲ熱望ス

大正十一年七月

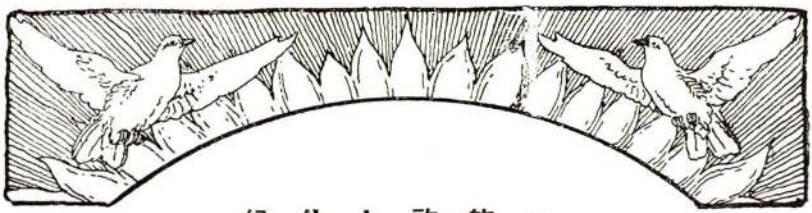
日本建築協會

住宅改造博覽會寄附御申込會員

左ノ通

一金參圓也　田邊滿一殿
一金壹百圓也　森上浩行殿
一金五圓也　前內文二郎殿
一金五拾圓也　久保田繁亮殿
一金拾圓也　荒川義夫殿
一金拾圓也　小松靜殿
一金拾圓也　長澤榮作殿
一金拾圓也　小林悉殿
一金壹百圓也　橫濱勉殿
一金壹百圓也　瀨戶文吾殿
一金壹百圓也　內藤太郎殿
一金壹百圓也　吉木久吉殿
一金六拾圓也　野呂長四郎殿
一金六拾圓也　竹腰健造殿
一金六拾圓也　中西甚作殿
一金拾圓也　小川安一郎殿

尙會員各位の至急御申込を御願申上候



一筆啓上仕候

炎威日に加はり私共の活動一段と力を加へ來候事同慶に禁へざる處に御座候

左候へば近來建築界に於ける著しき傾向の一つは住宅建築が或多少な除外を別と致候て今や一轉向を劃せむとする一事に御座候勿論大觀上よりの皈納に候へども住宅改善問題は最早種々に論議し盡され候て現下各所に相亞ぎ具現化致され居候事は殊に近來に於ける一傾向に御座候斯く夫等住宅の[illegible]は各樣各種の思想の反映を開が上に表現致し居り候へども其處に或統一と大同の傾向を幾微の裡に示し候は確に日本住宅改善問題の歸着點を生ずる核子と存ぜられ候て是より愈々實行時代に入ること、敬賀至極に存候

草々不宣



論說

日本の郊外生活

法學士　小川市太郎

一

郊外生活と云へば、人は先づ必ず自然と健康と經濟と云ふことを聯想する。雷に聯想するばかりでなく事實又そうでなければならぬ筈である。然るに我國の大都市附近の郊外生活は如何。空氣の新鮮と自然の美とは或は之あらう。併しながら健康と經濟とは何處に之を求めることが出來やうか。

二

大阪市の調査(大正七年)に據つて見ても市内の人口死亡率は千人につき二十三人の割合であるのに、郊外の住宅區である所の玉手町の死亡率は三十五人三分であり、又その附近の粉濱村と、住吉村と、墨江村との死亡率は、各三十六人四と、三十五人七と、四十二人三の高率を示して居る。之れは一見實に不可思議のやうに思はれるけれども、その實決して不可思議でも何でもない。第一に我國の都會の郊外

では、水道が行渡つて居らないために、居住民は大概井戸水を飲むで居る。しかも其の井戸水たるや中には不良のものが多く、平時ですら砂漉をして僅かに飲料に供して居るほどであるから、永雨でも續いた場合には井水が混濁して殆んど飲むに堪へない。そこへ持つて來て、下水道の設備の不完全なことは之れ實に亦驚くべきものであつて、一朝豪雨でも到ると、下水は路上に汎濫して所在に汚物を撒布するそれに汚物の掃除が全く行屆いて居らない爲めに、犬猫の死骸と牛馬の糞が路傍の其處此處に散亂し夏分などになると、蠅と蚊が屋内屋外の差別なく亂飛襲來する。之れでドウして衛生とか健康とか云ふことが期し得られやうか。

三

しかも郊外は都會に比して經濟的であるかと云ふに、ナカ〳〵ドウしてそうでない。日用品なども市内に比して却て高い。私は今濱寺に住つて居るが、濱寺邊りでは別莊値と稱して出入の商人が無暗に暴利を貪る。之れは獨り濱寺ばかりでなく、郊外生活をする人の親しく經驗せられる所であらうと思ふ。それから電車賃にしても、ナカ〳〵高い。決して馬鹿には出來ない。私は新聞社に居る關係上、フリーのパスを貰つて居るから問題外だが、正直に金を拂つて切符を買ふ人のことを考へて見ると、それは實に勘なからざる失費である。毎日郊外から市内の會社に通ふものは、先づ第一に市電と郊外電車と二重に料金を拂はなくてはならない。しかも日本の郊外電車の料金は外國に較べて極めて高い。而して郊外電車に限つて學生勞働者の割引かないから、子弟を都會の學校に通はせるものに取つては、之れも少からざる負擔である。

四

取分け日本の郊外生活で最も困るのは、急に病人の出來た場合である。日本の郊外の町村などには、

碌な病院もなければ、又醫者らしい醫者さへ居らない。(濱寺のやうに特種の病院の在る處は別だが)ソコで第一病人でも出來た場合には、大阪から醫者を呼ばなくてはならぬのであるが、餘程の富豪か權力家でない限り、鳥渡名のある醫者は容易に來て呉れない。シカも病人を都會の病院に運ぶと云ふことは交通機關の不備な郊外地では至難のことである。

五

此等のことを考へると我國の郊外生活は實にミジメ極つたもので、唯吾れ〳〵は都會の塵土の裡に居るよりは青い物を見られるだけはいくらかマシだと云ふ考へで郊外に住つて居るに過ぎない。それから日本の郊外生活に於て、吾れ〳〵の最も苦痛を感ずるのは道路である。大都市の郊外町村と云へば、事實都會で働く人の住む場處であつて、その營業所と住宅とを結付ける道路は、最も完全なものでなければならぬ。現に米國の如きは大都市の郊外は何處まで行つても鏡のやうな道路であるために、鳥渡した人は大概五六十哩隔たつた住宅から毎日自動車でオッフイスに通つて居る。然るに日本の郊外地の道路と來ては、その不良劣惡殆んど言語に絶し、道幅の極めて狹隘な上に、牛馬車の破壞するに委かして居るために砂煙のヒドイのと、到る處龜裂縱横で、ウッカリ歩けない。偶々吾々が自動車で通ることがあつても、狹い田舍道の眞中をば牛車や肥桶車の行列がノタリ〳〵やつて居るので、之を突切るのが大變な騒ぎである。ソコで吾れ〳〵の知つた濱寺邊りの懷具合のいゝ連中なども、此頃は自動車で大阪に通ふことを止めて、自宅から難波までは電車で通ひ、其處から驛に待たして置いた自動車に乘替へてオッフイスに行くやうにして居る。言ふまでもなく大阪は人口百三十萬を有する世界有數の都會であつて、日本商工業の中心である。シカも大阪の商業區から濱寺までは僅かに二十哩に過ぎない。然るにそれが自動車の通らないために、コンな馬鹿氣た事までもしなくてはならぬに至つては、何たる非文明、又何たる不經濟であらう。

六

之に於て私は西洋の郊外生活を想出さゝるを得ない。前年私は『テームス』河の上流『チツデントン』と

云ふ町(倫敦の『ウオタールー』の停車場から約三十分)に下宿して居つたことがある。其處は小さな町で私の居つた邊などは、鬱蒼と茂つた樫の木やいろ〳〵の樹木の間から約半町隔き位に、僅かに二階建の煉瓦造の家が隱見するほどで、私に取つては寧ろ閑寂過ぎる感があつた。それでありながら道路は立派に舖飾せられて居るのみならず、電燈、瓦斯何一つ不自由はなく、二三町行くと、其處には鳥渡したホテルもあり、店舖も並んで居つて、日用品などは何でも辨せられる。無論日本とは生活の程度も違ひ、私の居つた處は下宿料も相應に高かつたが、今日大阪の郊外に於て不愉快極まる茅屋生活をして居る私には永く倫敦の郊外生活の靜穩と便宜を忘れることは出來ない。

七

尤も日本でも此頃になつて、郊外電車の沿道には其處此處に閑靜な宅地區の經營が行はれるやうになつて來たので、之れは郊外生活の改善上、且つは又都會の人々を分散する上に於て、大に望ましいことである。併し唯私の之について遺憾に思ふのは、此等の郊外の住宅區經營なるものが、何れも會社若くは個人の營利本位で行はれて居ることである。即ち獨逸の學者の言葉を借りて云へば、日本の郊外の住宅區は何れも資本的田園市(Kakita litische Garten Stadt)の卵のやうなものであつて、殆んど一の公益を目的とする郊外都市、若くは田園都市の建設を見ないのは、重ね〳〵惜しむべき次第である。而してその結果は如何かと云へば、今日最も必要な小住宅は建たず、建られる家は一萬五千圓乃至二三萬圓のもので、餘り多くの資本を有しない一部中流以下の人々に對して濟崩の方法で住宅を提供するの便宜があると云ふに過ぎない。

八

之れも至極結構な方法ではあるが、それよも今日吾れ〳〵の最も要求して居るのは、中流以下の人々の郊外住宅である。そうして之れがためには、先づその前提として、政府の低利資金融通と、公益的住宅會社の設立を必要とするが、之と同時に市内に於ける高速度電車の開設と、郊外電車の料金及び輸送力の改止改良を更に一層必要とするのであるが、この事については又改めて本誌に於て卑見を陳べる機會があらうと思ふ。(完)

伯林郊外の發達に關する研究（下）

法學博士　關　一

第二章　一八八七年以降の投機時代（二）

第二節　其他の原因（二）

以上の建築令に關する制度を見れば伯林の郊外市町村は最近十年間に於て全く伯林の制度を眞似たものであることは明白である、一八八七年並に九二年の建築令に依つて大きな貸長屋が法律上容認せられ警察及市町村行政上の實際に於ても、種々の關係上から小家屋を建築することは殆ど全く出來なくなつて、大きな貸長屋のみが建築されるやうになつたのは當然である、又下水の完成及建築禁止の制度に依つて伯林市内の如く其接近した市町村に於ても、小家屋は經濟上の理由からも建築することは出來なくなつた、又今日でも幾分か小家屋の存在する稍離れた郊外地に於ても大きな貸長屋が段々に增加して來る形勢である。

建築令の外に當時行はれた資金貸付の制度も亦大きな貸長屋の建築を奬勵した、元來不動產資金供給の業務が主に土地抵當銀行の手にある時は小さな土地に對する必要な資金を得ることは非常に困難であつて、不動產銀行は債券を發行して小さな資金を集めるが小口の貸附をすることを好まぬ小口の貸金は手數が多くて面倒が起る、反之大きな土地に對して一度に相當の金額を貸すことが出來れば手數が少くて之に對する利子も多い譯である、そこで多數の銀行は常得意の土地會社を持つて居つて、土地會社は常に自分の關係ある銀行から必要な資金を引出すやうな方法を採つた此方法を發明したのは極く少數の

大相場師であつて、是等の少數の人がシャルロッテンブルヒとかエーネペルヒ等に於て土地を買入れ、之を區劃して、自分の名義か又は他人の名義で五階の大きな貸長屋を建築し、場合に依りては一つの町全部の開發建築事業を實行し、其資金は自分の關係して居る不動銀行から引出した、そこで一回に發行する不動產銀行債券の募集金は全部ある一町内の建築費に投ぜられたこともあつた。

一八九三年發布の不動產銀行に關する法令は比較的に多額の貸付をする途を開いて地價の騰貴を促がした。是等の貸付資本の豊富であつたことが投機を非常に奬勵し投機者は土地を抵當として資金を借入れ投機の利益を確實に前取りすることが出來た。其當時迄は土地の貸付又は賣却を終つた後始めて確實に利益を得る外なかつたが、不動產銀行に抵當として貸付賣却をなす以前に資金を回收、利益を確實に收得することが出來た爲めに一層地價騰貴を促がすに至つたことは當然である。

一八八七年の建築令、一八九一年の伯林附近の交通機關の改良、並に當時建築行政と一般の經濟上の發達、人口の增加、不動產銀行の豊富なる資金貸出等は伯林附近の土地に對する投機熱を昂進せしめた主たる原因であつて、一八八七年——一八九八年の十年間に伯林附近の地價の騰貴した總額は約十億馬克に達した。

土地投機の組織として箇人の投機業者の外に會社組織が一般に行はれた、而して此時期に於ては各種の會社組織中有限責任會社が株式會社よりも投機者の好んで採用したものである、第一期の投機時代の遺物である六會社の外に八〇年代から新會社が起つた、一八八九年から九五年及六年迄が此種の會社の最も盛に起つた時であつて一八九八年にも尙ほ新會社が起つて、是等の新會社は前の時代と違つて建物會社と云ふやうな名稱を付けないで、明に土地會社と稱して居つた、又當時株式會社法の改正が行はれ株式會社に關する最も悪い缺點は除去せられた、併し大銀行が土地投機者と特別の關係を結ぶことになつた爲めに新現象が起つて來た、此大銀行の中には最も敏捷なる獨逸銀行 DEUTSCHE BANKが先づ

クワフユールランダム會社の設立に參加し他の大銀行DIE DISKONTO-G, DIE DRESDNER BANK DIE DARMSTADTER BANK RERLINER HANDELS GESELLSCHAFT も此例に倣ひ銀行業者とは土地會社の間に餘程密接の關係が起つて來た尤も土地株券中券面價額と其實際價額との間に著しい相違のあるものは是等の大銀行から一般に賣出されることはなかつた、又土地會社の營業方法は前時代に較べると著しく進歩し、無闇に廣告をすると云ふ方法は餘り用ゐられず又年々配當をすると云ふ誤つた方法は廢められた、此配當をする代りに年々の利益金は資本を償還する爲めに用ゐられ之に依つて各々の株式に對する眞正の利益が計算された、即ち土地會社に於ては工場、鑛山、銀行の如き毎年決つた營業上の收入を得るものでないから、年々配當をする方法は非常に間違つたものであつて、土地會社は始から一定の年限の後には相當の利益を上げて之を株主に配當し、會社は之に依つて消滅すべきものであることが明白に了解された譯である。

又土地會社を設立するに當つて不動產銀行は土地を擔保のないものとして土地會社に讓渡し、其値段も元の買入値段を以て計算せられた。隨つて銀行は土地會社の株券を券面金額以上に發行することに依つて利益を得やうとした、此株券は通常千馬克又は二千馬克の大きな株券であつて土地投機と共に株券の投機を行つたのである　此現象は如何なる株式會社に於ても免れない所であるが前の時代の如く株券相場を投機の中心としたやうなことはなかつた、隨つて前の時代に較べれば土地會社の設立に關する弊害を減少し其株券を買入れた公衆も此變化の利益を受けた譯であるが、大銀行が土地會社と密接な關係を結んだ爲めに、地價並に家賃の著しい騰貴を惹起し、後に至るまで弊害を殘した。

當時、土地會社の株券が一般に賣行いた原因が種々あるが、其以前に獨逸では希臘アルゲンチーナ等の外國債を買入れて損をしたものがあり、又二三の銀行が倒れて是等の銀行の預金者が損をした爲めに此方面に放資すべき資金が土地會社の方面に向つた譯である。又不動產銀行の債券の賣行の宜かつたこ

とも間接に土地會社の發達を助けた。

併し伯林の郊外市町村に於ける土地投機は隨分不確實なものもあつて殆ど詐欺行爲に類したものもあつた、殊に伯林の市内に於けるよりは郊外に於て一般の發達が著しかつた爲めに投機者は郊外の土地に就て容易に投機を行ふことが出來た殊に火災保險會社が建物に就て其價格以上の保險を付する爲めに投機者は之を利用して建物の價格の騰貴を圖つた、保險業と土地投機との關係は頗る密接のものがあつて殊に保險業者は自分の資金を不動産に放資する場合があつて、不動産銀行と火災保險會社が密接の關係を結び、火災保險業者は實際價格以上に保險價額を定めて土地の騰貴を圖ると云ふ實例もある、斯の如くに土地の投機業、不動産抵當、銀行火災保險會社の制度が土地の價格の非常な騰貴を促す方法として利用せられたことは一八九〇年の土地投機の特色である。

第三節　結論

最近十年間伯林郊外市町村の發達の狀況を總括して見れば次の如くである。第一に伯林の經濟上の迅速なる發達、人口の顯著なる增加、伯林市外に於ける商業區域（シテー）の成立等に依つて市民の大部分が郊外に移住したこと、第二に前に屢々述べた如く各種の建築令並に投機の流行が新なる建築の樣式を發生せしめたこと、第三に交通機關の發達が其他の原因と共に郊外市町村に場所的發達の方向を定めたことである。

一八八五——九〇年間に伯林市は二六三、五〇〇人警察地域は一〇五、〇〇人の增加を見た、即ち大伯林の人口の增加中伯林市内は其七割二步、郊外は其二割八步を示して居つた、然るに一八九〇——九五年間には伯林市内の人口增加は九八、〇〇〇人、警察地域の人口增加は一六〇、〇〇〇人であつて、伯林市内の人口增加が郊外の人口增加より少いことになつた、其步合は市内の人口の增加は全體の三割六步で郊外の人口增加は六割四步となつて、郊外增加人口が市内よりも多い、且つ警察地域に含まれて居る市町村の外に尙ほ一層遠い地域に於ける町村の人口も著しく增加して來た。

斯の如く伯林市外の迅速なる發達と共に行政上の組織を改めなければならぬと云ふ議論が起つて一八八〇年代頃から郊外市町村を伯林市に編入する企があつて、一八九一——九五年の間に此編入問題に就て政府と伯林市の間に種々な交渉を重ねたが、遂に其目的を達すること能はずして政府は此編入問題を抛棄した、其結果政府は伯林附近の町村に市制を布く方針を採つて幾つかの町村を市にした、又シャルロッテンブルヒ市に其近傍の町村を編入しシャルロッテンブルヒは著しく其地域を擴張し人口も廿萬人を算するに至つた、是等の方法に依つて伯林市と其周圍の町村を一つの市にする必要は幾分か減少して來て結局是等の市町村を合せて特別なる市町村組合を拵えると云ふ方法を採る外ないやうな狀態になつて來たのである。（附記、伯林の行政組織は其後著者の豫想した如く一九一一年七月十九日の大伯林一部事務組合法（Zweckverbandges. für Gross-Berlin）の發布となり、軌道鐵道、建築線都市計畫、空地に關する事務の市町村組合を設くることになつたが、戰爭後昨年四月廿七日終に從來の伯林市の外七市、五十九の町村廿七の私領地を合せて新伯林市を設くる法律 Ges über die Bilding einer neuen Stadtgemeinde Berlin を發布した、此法律に依り新伯林は二十の行政區域を有し三百八十萬人を包擁する一自治體となつた。

斯の如く行政組織に於ては殆ど變化を見なかつたが、附近町村の內部の狀態は著しく變つて來て前の時代の小さな町又は村は行政上相當の財源を持つた町村、中都會又は大都會となつた、是等の市町村は伯林の例に倣つて種々の市町村事業を起し、シャルロッテンブルヒの如きは其著しいものである、上水下水事業を經營する外に街路に完全なる舖裝をなし街路の掃除、點燈等を經營し、自ら瓦斯事業を經營する市町村も出來て來た、それから或る町村に於ては電氣事業をも經營し市內の電燈業を營んだ、其他敎育制度に於ても著しき進步を見ることゝなり、多くの町村に於ては國立又は市町村立の中學校、實業校、女學校の設立を見た、尤も多數の市町村に於ては尙ほ小學校以外に市町村立の學校を有しないで

稍々高い程度の學校は個人の經營に任せて居つたものもある、其他病院救貧制度等に於ても著しく進歩し立派な市役所、學校病院等の建物が郊外市村の財力の發達して來たことを示す表徴となつた。

さて、伯林郊外の發達に關して以上述べた所を綜合して觀察するに當つて郊外市町村VORORTEの意義を明かにして置く必要がある、一體郊外市町村と云ふ言葉は全く經濟上の見地から決めるべきものである、即ち接近した市と經濟上離るべからざる關係を有し、家屋の續いて居らない獨立した政治上の行政機關を有つた自治體を郊外市町村と云ふのである、伯林の場合であれば、首府の周圍に在つて或る程度に於て行政上では獨立し場所の上から見れば幾分離れて居るが、大伯林の經濟上又は社會上の組織の一部と見らるべき市町村を郊外市町村と云ふのである、勿論是等の町村の中或るものは前に述べた定義に適はないで伯林市と境界が全く分らない程度迄連檐の家屋があり、寧ろ獨立した町村と見るよりは、伯林の周圍部Vorstädte と見る方が適當であるやうなものもある、例へばシエーネベルヒ及シャルロッテンブルヒの西南部の如きは伯林と區別することが出來ないで、郵便管區に於ても伯林の西部として取扱はれて居るものがある、又リツクスドルフ、リヒテンベルヒと伯林市とは全く軒續きである、是等の郊外市町村は其住民の性質に於ても伯林に接近した部分と殆ど違がない、隨つて郊外市町村は伯林の周圍部と同樣な性調を有つて居る、即ち伯林の北部及東部の勞働者の住居區域に接近して居る郊外市町村には勞働者の住居する者が多い、此方面に於ては伯林の市内にも亦市外にも同じやうな單調の飾のない大きな貸長屋が連續して居つて、晴天の日には街路上に非常に澤山の子供が遊んで居ると云ふ狀態であつて、此方面に於ては市の内外に亘つて一樣に從來の小さな家が兵營式貸長屋に依つて驅逐されて行き廣い空地は段々其犧牲に供せられると云ふやうな狀態である、勿論是等の郊外市町村の住民の社會的地位は伯林市民に較べると幾分か低く、又其生活程度も町村の周圍に近付くに從つて段々と低くなつて行く傾がある、又シャルロッテンブルヒ、シエーネベルヒの方面に於ては伯林の西部の上流階級の住まつ

て居る街路と同じやうな狀態を見ることが出來る、此方面に於ては新しい街路に立派な住居を有つた大規模の貸長屋が澤山に建られて居る、尤もシャルロッテンブルヒの内の多數の街路には大きな庭園を有つた別莊風の家もあるが、一般に此區域の住民は伯林の西部と同じ生活程度の人々が住つて居つて、東北部の如く周圍へ赴くに從ひ生活程度の低い者が住まふと云ふ現象を見ることが出來ない、斯の如くに伯林の北、東、西に於てはそれ〴〵特色を有つた郊外市町村の發達を見た。

伯林の郊外の發達の方向を左右した主なるものは鐵道の布設と伯林市の境界線の狀態である、即ちスプレー河の南部に在りては、其北部よりも市の境界内に空地が少く、一八六一年に市の區域を幾分か南方に擴張したが六〇年七〇年代に此地域は全建物を充たさるゝことになつて、其南はテンペルホッフの國有地練兵場等があつて、此方面に發展の餘地がなく、終に東南、西南の方面に在る、リックスドルフシェーベネルヒの方向に發達した。

八〇年代の始にスタットバーン(市内從貫鐵道)の開通は西部の發達を促がし、モアビットは忽ち建築せられ、チーアガルテンは南北から家屋で包圍せられ郊外のシャルロッテンブルヒ迄延びた。東部に於ては七〇年に幾分發達を見たが一時建築熱の沈靜を見、一八九五年頃から更に世人の注目を惹くことゝなつた、反之北部に於ては最近迄殆ど發達を見ずして東北部に伯林市と廣き空地を隔てたノイワイセンゼーがあるに過ぎない。

以上述べた伯林に接近せる郊外市町村は漸次に伯林の周圍部と化したが其外稍々離れたる郊外市町村がある、前者を内輪とすれば後者は外輪であつて、此外輪の市町村の内或者は、内輪の市町村と連續して居るものもあるが、其大部分は伯林とも、町村相互の間にも相當の空地等があつて明に區別されて居る、又此等の町村は伯林の周圍に一樣に配置せられても居らず、其成立の原因、其發達の年限、其大小建築の樣式、發達の緩急及住民の社會階級も千差萬別であつて、各町村の農村的の特質、所有權の分布

關係、交通發達の狀況、投機の行はるゝ程度等の原因から各町村各樣の發達をなしつゝある。

伯林の郊外市町村を概括して觀察すれば、田舍的趣味に富み、且つ交通の便多き地方として次の三者を擧げ得ると思ふ

第一　伯林狀線、ウエツラー、ポツツダム及アンハルト鐵道等の數條の線路を有し丘陵起伏し天然の風景に富む西部地方は主として上流階級の住居地域にして此地域は田舍家地域と指定せられ工場の如きは殆ど見る能はず、此地域は伯林市外に於て點々田園都市の散在を見テルトウ湖又はワン湖の沿岸に及び遙にポツツダム市の近傍迄伯林の郊外町村と認め得る。

第二　東部東南部に於てスプレー川及ダーム川にシンジヤ及ゲーリツツ鐵道の便を有する森林帶ありて、此地域は風景の美なきにあらざるも、伯林上流階級は西南部の郊外程に此地方を好まず、從つて其外觀は西南部の如く一樣に住宅のみを見る能はずして、スプレー及ダームの沿岸には多數の大工場ありて其近傍に是等工場に通勤する勞働者住宅ありて、工場地域に介在し田舍建築地域と指定せられたる中流級の住宅地域を見る。

第三　北部鐵道の通過する北部郊外は大體第二の東南部郊外に酷似し、人口稍稀薄なる差あり、テーゲル湖畔には工場建設せられ其周圍には勞働者住宅の發生を見る。

以上の三方面に於ては伯林市の勢力は四乃至五獨哩(我約七里乃至九里)の範圍に及ぶと雖も、其他の方面に於ては一乃至一獨哩半(我約一里半乃至二里半)にして經濟上の獨立純然たる農村を見るを得べく地價の相違は明に之を示して居る。

郊外町村の其從屬する都市並に周圍の農村との關係は明確でない、伯林の一大經濟組織の勢力は其郊外町村と認むべき地域の範圍を超えて遠距離の地方迄種々の深き影響を及ぼすことは勿論である、又其反對に郊外町村が伯林に從屬する程度も一樣でない、多數の郊外町村に在りては尙ほ盛に農業が行はれ

且つ伯林市に販路等の關係なき獨立した種々の産業を營んで居る、加之伯林と郊外町村との關係も常に變化して年々密接の關係を增し、從來の農村が數年の內に伯林郊外町村となり終に全く市街化し、又毎年純然たる農業地の中に新しき田園都市が起つて、此農業地に在つた舊來の村落を郊外化して行くのである、幾千條の糸は廣き地域に散在する村々を緊しく伯林に結び付け、年々新しき糸が紡き出される、而して此結び付ける糸の強さは都市の附近の村々を郊外町村と認むべきものと然らざるものとに區別するのである。

斯の如くして伯林の人口は一八九八年市內百八十萬人に對し接近町村四十二萬人、稍々離れた郊外町村十二萬人となり、大伯林は二百五十萬人の大都會となつた。（完）

自得するものは守る所堅固……

……自信するものは行ふ所疑はず

講堂の研究を望む

武藏高等學校
學生監　山本良吉

氏は、多年我教育界殊に最高學府に在り、其教育上の識見と併せて、學校々舍建築の實際に抱負頗る深きものあり、這回本編を寄せられて、其蘊蓄を讀者に實さむとす、幸に精讀を祈る……編輯者

新たに學校を建てようとしてまづ困つたのは講堂である。從來の學校講堂は、人も知る、單純な長方形の大室であつて、天井も全くこれに似合つた平面のものである。趣味も深味も何もない。討論會場としても十分とは言へぬ　活動寫眞場としても物足りない。講堂が教會上に於てもつべき資格は一つも備へて居ないといつてもよろしい。從て生徒は講堂に入つても何等尊いといふ感じは得ぬ。わが生徒は何年間學校に在學しても、尊いといふ氣分はどこでも與へられぬ。實をいへば、尊いとか深いとかいふ味はたゞ學校に於て缺乏して居るのみでなく、わが社會どこにもない。わが國民には一生尊いといふ事を知らずに過ごす人が多い。學校に尊みのないのは、社會に尊みのない反映であり、學校その物の責任ではない。

長方形では隅々がすつかり、はつきり見え互つて居る、どこの壁面も、裸にわれ等に對して居る。尊いといふ氣持はわれ等から少し奥まつた或物を要求する。尊いといふ性質は露骨で平板ではなく、深みを含むことを豫定する。この二は長方形とは相容れぬ。もし講堂が尊く深くならんとするには、少くも正面の或一部分が深く奥まつて、われ等とは違つた地位にあり、そしてその奥に、われ等には測り知り難い或聯想を與へ得るものがなくてはならぬ。

正面がそんな部分を要求すると、それとつり合ふために天井が亦平面ではなくて、深さに差異のある事を要求するだらうと思はれる。獨り正面や天井が深みを表するのみならず、建築一帶が餘りに平面式であつてはならぬ。大洋の眞中は壯な或物を表す、しかしどう考へてもそこに尊いものや深いものがあるとは考へられぬ。種々眼を遮る物が途中に存在するによつて深みが增すことは日常の經驗である。しかしそれが騷しさや煩瑣な性質を多く含んではならぬ。深みとか落ちつきとかは通常白色ならぬことを要求する。しかし講堂が必ずしも白壁を用ひてはならぬとは思はぬ。白色を打ち消すだけの設けがあればよい。これ等の點に於て、外國の敎會堂はさすが二千年の經驗を積んだだけあつて、誠にゆかしい温い深みを與へる。外國敎會の勢力の消長については人々種々の看方をなすことが出來る。しかし全體として、今でも最も強く歐米人の氣分を支配するものは敎會である。それは聯想からも歷史からも來ようしかし最も強く敎會の建築から來る。

わが國の神社はどうも熱帶の氣分を帶びて居る。從て深いとか奥ゆかしいとかの氣分は表し得ない。日本人は純熱帶的露骨な氣分だけでは滿足し得ない。その缺を補つたものがバラモン宗から出發した佛敎の建築であつた。佛敎の寺は建築全體としては長方形が多い樣であるが、その一方へ佛體及びその置場處が飛び出して居る、しかもそれに深みを與へるだけに種々の飾物をつける。その結果恐ろしい、神秘な、時には煩瑣な氣分を與へる。それはその出發點の遺物もあり、敎義からも來、そしてそれが行はれた時代に相當するだけの尊さは與へ得たのに相違ない。わが講堂の演壇は寺に幾分似通つても居ようしかし周圍も背景もなしに壇を一つもつて來ても、いかにも借物の感を與へて、異樣とか滑稽とかには感ずるが、それが期待した氣分は適當に與へぬ。そこで神聖とかそれに近い感じを起さんとすると、反て反對の氣分を起すことは、敎育に長い經驗ある人の均しく氣づいて居る處ではあるまいか。

維新の思想上の革命は神道と宗敎とを混同した、そして佛敎を破壞することをその任務の一と心得た

かれ等は成功した。宗教は可なり有効に破壊された。そしてそれと共にわが社會の宗教的氣分も破壊された。わが國體の中心たる忠孝の思想は恩の念を中心として居る。恩の念は生のあらがたみを根柢とする。これ等はその起りに於ては知らず、それが當時發育して現存した處では果して單純な神聖思想である。これ等はその起りに於ては知らず、それが當時發育して現存した處では果して單純な神聖思想であるか、抑も全く宗教心を基礎とし背景としないで、これ等の感じが味はれ得らるべきか。これ等の解決は歷史の證明に待つより外はないが、ともかくも維新は宗教的氣分をわが社會から奪ひ去つた。そしてあり、今の講堂である。しかしわが民族が眞正の意義に於て自己文化を保持せんとするならば、決してこれ等の氣分なしでは行かれぬ。砂漠の中から原野は生れ出ぬ。何等かの形に於てわが社會はこれを與へられねばならぬ。寧ろ今となつては創造せねばならぬ。この要求は建築上に於ては講堂の新研究となつて現れねばなるまい。

わが教育は今でも啓蒙主義の極端なものである。生徒が坐る席さへあてがへば、それで教育ができると思はれて居る。かゝる思想の結果が、いかなる形式に於てわが社會に現はれたと識者は見るか。われ等は今少し物を全體的に見ねばならぬ。因果の關係を包含的に調べねばならぬ、理學的、法律的の物質觀から脫出せねばならぬ。長方形の講堂は長方形の人を造る。それは尊さもなく、深みもなく、人生を乘除で計算する人に過ぎない。（一一、五、二四）

木立古る……月半輪に傾きて……

現場工事管理に就いて（中）

會員　本田　登

(四)標準作業時間測定

職工作業の動作は單純なる變化なき一種の運動の如く見ゆれども詳細に觀測すれば數多の異れる動作は繰返し行はるゝものである。

フラレク、ビー、ギルブレス氏は職工動作の運動を研究した有名な人である。氏は煉瓦工の作業に於て其職工の運動の數と種類とを一々緻密に調査したのである。即ち氏の研究は大約次ぎの様なものであつた。最初煉瓦工の煉瓦積みを爲すに必要なる動作を分解し其運動の數を測定した。而して其結果職工の疲勞を出來得る限り小量ならしむるの目的にて運動の變化を最小限度に減じた。次ぎには、運動を最小限度に減する爲め煉瓦の配給順序、職工間の作業距離、道具の位置等に細心の注意を拂ひ、數多の實驗を爲し遂に運動の數と運動の距離を最小限度ならしむる施工法を案出したのである。又、フレデリック・タブルユ・テーラー氏は記秒時計を利用して職工の運動に要する時間を測定した。彼れは運動に要する平均時間を測定したのみならず種々の運動を案出し、之れを實驗的に調査して遂に種々の運動に要する最小限の時間を測定し得た。次ぎに氏は此最小限度の時間を以て標準作業時間と定め或る仕事を完成するに要する時間を豫測するの根本標準を作つたのである、尙附言して曰く、此研究法に基き職工を訓練指導して作業の爲さしめなば必ず標準時間にて豫定の仕事は完成するものであると主張し、且つ又之れが方法を實際に應用して成功したのである。

ハーリングトン・イマーソン氏も同じ様な研究を行ふた人である、氏は標準作業出來高に要する時

間を測定する目的で先づ第一に普通の狀態に於ける作業の時間を測り第二に同じ作業を爲すに當りて其動作を變更して運動の數及び其距離を減じ且つ又運動の速度をも加算し而して第一第二の作業に要せし時間を比較研究し之れによりて仕事の標準時間を統計的に見出したのである。標準時間より多くの時間を費したる仕事に就て、其作業狀態を調査し、其動作の欠陷を發見するに大に便宜を得たのである。彼れの測定は百分率によりて計算した即ち岩石鑿穿工事に於て長十呎を穿つに六十分を要するを標準時間と定めたるに若し其作業は九十分を要したりとせば 60÷90＝66.7% と算定し以て標準時間に對して此仕事の時間を比較し得たのである。以上述べたる實驗は何れも價値のある科學的研究と云はねばならぬ而して今後之等の實驗的研究を應用し職工の作業能率を高め工事の進渉を計る事は監督者又は管理者に取て尤も必要な事でなければならぬ。

(五)工事施工計畫

凡て工事の實施は其着手前如何なる計畫の基に施工すべきかを充分た研究せねばならぬ。過去に於ける施工上の計畫は管理者又は專門技術者に依て企劃せられた事は稀有であつた。多くの場合は工事施工に於ける實際の作業者たる職工又は職工長の意見を參酌し又は殆んど其計畫を彼等に一任された傾向があつた。斯かる時代に於ては此種の施工計畫は寧ろ合理的方法と考へられたのであらう。實際歷史が說明する如く過去の偉大なる建築物にして其時代の優秀なる工匠等によりて熱誠に築き仕上げられたるものは決して少くはない。過去の工匠に必ずや自己の技倆を錬磨するに孜々汲々として而かも多年の研鑽と經驗とによる努力の結果でなければならぬ。然るに最近の多くの職工は漸次技倆の鍛錬はもとより其技術の研究に至つては益々淺薄に傾き、單なる勞力の供給者に過ぎざる感あるは事實であらう。

テーラー氏は工事の施工は最善の計畫のもとに而かも計畫は必ず管理者又は最高技術者に於て企劃され放縱なる職工をして統一ある組織のもとに專ら彼等を指導し養成して其技倆を向上せしめねばならぬと力說して居る。

工事施工上の普遍なる失策は經營者又は管理者に於て其工事を擔當する職工長又は監督者の才能經驗等を實際に調査せざる場合、若しくは單純なる表面的觀察に依て充分なる技能を有するものと推斷し工事を委任したる場合に尤も多く起り易いものであらう。故に工事施工計畫は學力と經驗を兼備せる最高技術者により自ら企劃されねばならぬ。而して此技術者は又經濟的に行はれ得る改良と發明の智識及び興味をも具備する人でなければならぬ。

工事實施の計畫は工事の大小又は其條件によりて常に異なる場合に多い。故に此れが計畫者は細心の研究と努力を要する事は自明の理である。

吾人は一般に苦痛と疲勞を覺ゆる事なく得達を求んとせば最善の練習と努力を要す。永年の經驗を有せざる仕事は單に從業者に疲勞と苦痛を感せしむるのみならず、剩へ其仕事に對し趣味と愉快を與へざる場合に多い。而し〃職工又は職工長等は仕事の得達を求めんが爲め如何なる苦痛も疲勞も犧牲に拂ひ研究に沒頭するの覇氣精神に乏しきもので從て其研究の結果は粗暴に走り却て不効果に終る場合が多いものであらう。

作業中の職工は監視の有無によりて其作業振りを異にするものである。殊に吾が國定傭制度に於て著るしい。之は職工一般の通有性と見認むべきものである。此通有性は彼等に仕事に對する先入偏見を與へ施工の研究改良に努力するの精神を殺滅するものである。加之彼等は管理者又は技術者によりて研究計畫されたる新規なる施工法は恰も彼等の豫想を打破し却て過重の仕事を與ふるものなるかの如く曲解し彼等の單純なる經驗又は先入性によりて之れを實行するの得策を愚說して誘りとなす場合多く、此等の點が施工上に於ける計畫を實現するに困難を來すのみならず更らに危險と損害を招く原因となる場合は實際問題とし吾々の經驗する所である。

テーラー氏の主張せる如く工事の施工は最善の計畫に基き立案され、管理者は作業職工を自己の計畫に向て專ら指導訓練せねばならぬ。之れ即ち現代の施工法であり工事の迅速工費の節約を來す所以である。（未了）

社會として觀たる住宅の改善

——如今の住宅改善問題に忘れられたるもの——

山田信次

○日本建築物が木造本位の建築なるが故に、種々な理由よりして、建築材料の改善も近來一層切實な問題と成り來れるは住宅改善問題の一つ、約り、構造上の問題も其中に含まれてある。そして、間取りと設備等も、亦亞いで、改善問題の要衝と成つて居り、其他、隨分とも諸多の點に於て論議され或は之を實際に試みられたる住宅建築をも見受けるのであるが、茲に、吾人の甚だ遺憾に考へる事は其改善の焦點が、只、文化的設備の利用と便宜、隨つて、生活の要約といふ事に在りて、眞に住宅其ものを一社會なりとする觀念と、斯の觀念によりて爲さるべき或るものを忘れてゐるかの觀がある。

○約言すれば、住宅改善の物的方面に多く意を注がれて、意的方面をば餘り顧みない、といふ遺憾がありはしないか。蓋し一家は、要するに、自然の階級と治者被治者の關係こそあれ、等しく或る共同目的の爲に結合されたる小社會に外ならない、斯の意味に於ては、一家の家長も、子供も、婢僕も、其處に何等の異りはない。婢僕が只報酬と自己生活の爲にのみ其家族——小社會——の一員と成るとは、素朴的に觀た事實かも知れぬが、一家の目的に背馳する事を許されずして、其一家營爲のために働く事は、軈て、其共同の目的に參加するに外ならない。

○されば、一般社會を支配する思想も、斯の一小社會を Control することを注意せなくてはならぬ。蓋し、近時、社會思想の潮流は、此の一小社會をも洗ふて、個人的價値觀念に餘程の覺醒を與へてゐる、隨つて、一家は、從來の如き家長と家族及家僕との服從關係にのみよつて斯の一小社會を Control する譯には往かない。どうしても、制度と自然の服從關係の外、何處迄も其人格的價値を尊重して、それ等

の生活の上にも、相當な用意を與へなくてはならぬ。

○然るに、今日の住宅改善の論議を聽き、其實際を觀るに、少なからざる點に於て斯の思想に背馳する傾向の著しきを遺憾とする。

○之を具體的に二三の事實を擧げむか、例へば、主婦室の如き、殊に酷き感を與ふるは彼の女中部屋の如き、或は子供部屋の如き、多くの場合他の部屋に於ける設備と位地とに於て、甚しく遜色あるを見受ける。或は論議の是に觸れざるものがある。殊に他の部屋其ものに表現されたる所の住宅改善の事實は寔に賛嘆禁じ能はざるものある低な住宅建築にして、一旦び女中室を覗かば、其處に、殆んど何等の改善を見出し得ず、甚しきは、「あらずもがな」の感を以て纔に住宅の一隅を與へられたるにあらずや、との感じを懐かしむるものがある。

○主婦室に於ても、道に、相當な改善の跡を見受くるものあるも、他の部室に比して甚しく遜色を發見する事殆んど常套なるの感がある。蓋し、此處にも、人格價値意識の婦人に對するものが、過渡期に在る日本現代の思想を示して面白き現象だ、と肯かしめる。何と云つても、主人の居間、應接室、書齋——云ひ換ゆれば、家長本位の傾向が、今尚ほ所謂住宅改善なる事實の裡にも依然として其蔭翳を宿してゐる。

○殊に最も遺憾に思はる事は、主婦室の如き一箇の部屋として相當に文化的設備のある處にすら、多くの場合、主婦の修養、研究、或は娯樂等の要求を充たすべき何等の「圖書室」を有つてゐない事である、記者は、一家に、共用の「圖書室」を設くるか、せめては主人の專用圖書棚に對して、婦人專用のそれを設備したら什麼ものであらうかと思ふ、勿論、之は普遍的な問題ではないが「婦人室」の設けある位な建築に於ては、婦人室を今一段優遇的設備の意味に於て、斯麼事も必要ではあるまいか。

○女中室の如きは、彼れが生活の全部を、斯の内に有するものであるが故に、現在「あらずもがな」思ひ

を懐かしむる殆むど乾燥無味な設備を改善して、彼れが生活に潤ひを有ち、其部屋に愛着せしむる低な優遇的設備を爲すとは、彼れを家族の一員とし、此の小社會の一人として、共同目的の生活を營むに於て寧ろ當然な要求である。同時に、一家に愛着せしむる方法としても亦必要である。

○若しそれ、如今漸く識者の注意を惹き、又屢々實現を見る處の「子供室」なるものゝ多くを覽るに、多くの場合、子供に對する理想が、何處まで其部屋に實現されてゐるか、寔に惑ひなきを得ざるものがある。眞に子供を理想化するには、其處に餘程 telicate な用意を要する。單に子供を隔離して、彼れに小天地を與へるだけの事では、子供室の意義が殆んど盡されてないと云つても可い。住宅改善——中流以上のそれ——は斯の點に餘程注意を要する。

○要するに、現在の住宅改善の形式なるものが單に便宜主義や文化的設備にのみ偏傾せず、思想的或は精神的方面に改善問題を結び付けて考慮すべき問題ではあるまいか。啻に生活の要約と文化的享樂のみに住宅改善問題が局限さるべき筈なものではない。單に住宅と云はゞ、奈何にも一小局限の問題のように考へられるが、眞に其内部に突き入つて考ふれば、一人々々の人生其ものを容れるのであるが故に、凡ての問題は此處より發生し綜錯し解決し往くのである。考ふれば家一箇は隨て大きな問題である。

○其「大きな問題」を改善しようと云ふのだから、住宅改善は、升う容易な業ざではないと考へる。徒らに新奇を追ひ、生活の要約のみを欲求するが如きは、寧ろ、眞實な改善の埒外である。茲に於て、吾人は、住宅改善を考慮する上に、思想——形面上的方面に注意を拂はれ度い事を希望する。否な是ぞ改善問題の基本であらねばならぬ。

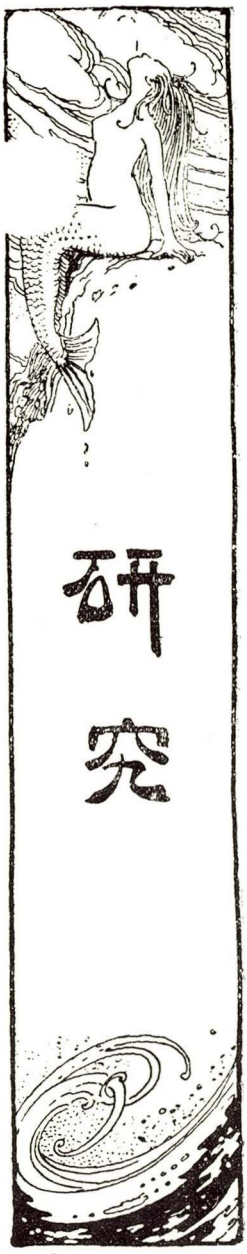
○終りに、吾人は近來、改善された住宅なるものゝ實際を屢々拜見する事を得て、少からず學ぶ處があつた。それと同時に、現代の住宅が——少くとも有識有産階級のそれが——幾微の裡に進化しつゝある處の一つの氣分を目付けた積りである。——然り確に、我日本住宅は、今や恰も氷河の何時とはなく

寸動するがように、變化の流れが動いてゐる。想ふに、茲半世紀先きのそれを懷ふて、寔に興趣を唆らるゝの感がある。

○今にしては、住宅改善の論議と實際は、種々に綜錯或は背馳して、容易に歸向と統一を看出し得ないような觀あるも、却つて這裡に歸向と統一點に向つて進みつゝある氣分を見遁してはならぬ。蓋し頗る興味ある將來を有する事實であると想ふ。

海を下る路……　……を知らざる者は

河に隨つて……　……行くべし



建築物の内外に於ける日射關係幷に「サナトリウム」建築上の應用に就いて（二）

京都帝國大學 醫學士 富永孟

第二章 建築物の園圖に於ける陰影（二）

第四節 傾斜面上に於ける陰影

6 若し周圍の土地が平坦ならずしてBなる傾斜度を有する場合には、A點の陰影は斜面上のD點に落ち、建物との距離はODとなり、從てODの長さだけ短縮すべし。卽ちかゝる斜面にありては病舍間の距離をDEだけ短縮して建つるも前方に在る病舍の棟の陰影は後者に達する事無し。

今DLの長さ幾何なりやと云ふに、

$$LODL=180-(B+h)$$

$$\frac{OD}{OL} = \frac{\sin h}{\sin\{180°-(B+h)\}}$$

$$= \frac{\sin h}{\sin(B+h)}$$

$$\therefore OD = \frac{b \sin h}{\sin(B+h)}$$

$$OD' = OD.\cos B$$

$$\therefore D'L = OL - OD' = L\left\{1 - \frac{\sin h}{\sin(B+h)} \cdot \cos B\right\} \quad \cdots\cdots\cdots\cdots(9)$$

b及びhの値は既に第三表及び第一表に掲げたり。故に傾斜の度Bを實測する時は平坦なる土地に於ける陰影の長さの幾分だけ短縮せらるゝやを知る事を得。次表はBの値を0°—30°とし、二分二至の正午に於けるD'Lの長さを示せるものなり。

第五表　土地の傾斜度と陰影の長さの短縮せらるゝ割合(平坦なる土地に於ける陰影の長さをとす100とす)

季節 / 傾斜度	夏至	平分	冬至
0°	0	0	0
5°	1.8	5.6	12.5
10°	3.4	10 3	22.3
15°	5.0	15.8	30.4
20°	6.9	20.4	39.7
25°	9.4	25.1	43.5
30°	10.5	28.8	48.4

第五節　傾斜面の應用

7

病舍の周圍が平坦ならずして適度の傾斜を成せる時は、吾人は之に依りて前記の割合を以て病舍間の距離を幾分短縮するも日光の照射に差支無きのみならず、外界の眺望を害せられざる事、自然排水の良好なる事、暗溝を設くる際自然の勾配を利用し得る事、その他建築上の應用として、地下室を一方に設くる際、工事を節約し得る事、或は二階より道に橋梁を架し、以て物品の運搬、患者の出入等は階段に依らずして

容易に行はしむる事を得るの便宜あり。

第二章　室内に於ける日射關係

8　室内に入る日光の多少は窓によりて決定せらる、一般に窓の大さと數、即ちその總面積の大小は日光の射入に影響する事甚だ大なりと雖もその總面積大なる場合必ずしも最多量の日射を受くるに非す。寧ろ他の條件に依る事大なり。即ち

1　窓の形狀
2　窓の方向

之なり、依て先づ窓の形狀と日射との關係を論じ、次でその方向に及ばん。

第一節　窓の高さ

9　太陽が同一高度を有する時は、窓の高さ大なる程日光は益々深く室内に射入す可く、窓臺低ければ益々窓際近く迄直射するは明なり。但し窓の高さ及び日の高度同一なる場合にも、窓の方向と太陽の方位との爲す角大なるに從ひ、室内の照射せらるゝ深さはその餘絃に比例して減少す。

今第四圖に於て、ABCDを窓の内側EFGHを外側とし

CD　を窓内法の高さ　＝a
NC　を床より窓臺迄の高さ　C
窓の方向を　a
日の高度　h
日の立位角　A
OL　を日射の達する深さ　l

とすれば

$$\frac{l}{a+c}=\cot h.\ \cos(A-a)\quad\cdots\cdots(10)$$

$$\therefore l=\infty\ (a+c)$$

又は　$l=\infty\cot h.\cos(A-a)$

窓の方向aは日の方位と同じく正南を0°とし西に向ひて測りしものを(+)とす。故に(A−a)の値が(+)なる時は太陽は窓の正面より右方に在り(−)なる時は左方にあり。

特に注意すべきは平分日の南窓にありては終日の値同一なる事陰影の場合と同樣なる事な

り。故に(7)により

$$\cot h.\cos A=\tan\varphi$$

$$\therefore l=(a+c)\tan\varphi\cdots\cdots(11)$$

故に同日同窓に於て、任意の時刻に窓の高さと床上に於ける日射の深さを實測する時はその地の緯度を知る事を得べし。

同一高さの南窓より射入する日光が達し得る室内の深さは上式より北緯 35° の土地の正午に於ては、

夏至　$l=(a+c)\cot 78°27'$

平分　$l'=(a+c)\cot 55°$

冬至　$l''=(a+c)\cot 31°33'$

若し夏至正午に於ける日射の深さを1とすれば平分日3.4冬至8.0と成る

第二節　窓の幅、及び壁の深さ

10　上圖に於て或時刻に於ける太陽の立位角Aと窓の方向aと爲す角は(A−a)この際窓の外下隅G點の陰影が窓臺上の一點Cに來るものとし、

窓幅　BC=h

壁の厚さ　CG=d

とすれば

$$BC'=b-d\ \text{ton}\ (A=a)\cdots\cdots(12)$$

從て、若し

$A-a$ ならば $BC'=h$

$BC'=0$ ならば $\tan(A-a)=\dfrac{b}{d}$

又は $A=\tan\dfrac{b}{d}+a$ ……(13)

(13)のAの値は通例日光が室内を照射し終る時の太陽の方位角を表す。初射時刻が日出時刻と一致せざる時も亦同じ。

(13)を吟味すれば窓幅が大となるに從ひAの値は增大し、壁の厚さ大となるに從ひAの値は減少するを見る。余は開角に對し(13)の場合に於ける $\tan\dfrac{b}{d}$ の値を特に廣角と呼ばん。

定義　廣角とは窓の外側左下隅(F)より内側右下隅(C)に引ける對角線FCとC點を過ぎ窓の面に立てたる法線GCとの爲す角を謂ふ。假にwを以て表はすべし。

通例廣角と稱するは窓臺の内側中央點より外

側の兩隅(F,G)に引ける二直線の挾む角を云ふ。余の茲に謂ふ廣角とはLFCGの事なり。兩者は同一に大さを有する事無く、LFCGは常に前者よりも小なり

若し窓幅と壁の厚さとの比を5:1とすれば、廣角は

$$w = \tan^{-1}\frac{5}{1} = 78°42'$$

11 窓幅と廣角との關係

窓幅が他の窓幅のn倍と成るも廣角はn倍とならずして

$$\tan\frac{n}{2} = \frac{nb}{d} \quad \cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots (14)$$

從て假令窓幅が2倍、或は3倍大となるも壁の厚さ不變なる場合には、廣角の增大する割合は比較的小なり。例へば次表の如し。

第六表 窓幅の增加に伴ふ廣角大の割合

窓幅と壁の厚さの比	廣角	差*
5:1	78°42′	——
10:1	84°18′	+5°36′
15:1	86°12′	+7°30′

* 但し廣角は左右兩側に增大するを以て全體より云へば其二倍となる。

第四章 角度と日射時間との關係

12 角度は日射時間に限定す

日光が室内を照射し終る瞬間に於ける太陽の方位、並に高度を考ふるに、日沒時卽ち h=0 なる場合を除き、

I. 窓の外下隅G點の影が內側の反射點Bに達する如き方位に在るか、或は

II. かゝる方位を取らざる以前に $\tan h > \frac{GH}{BG}$ なる如き高度を有するかの何れかの場合に限る。卽ち終射時太陽の方位と窓の法線との爲す角の最大値は、(13)より

$$A - a = \tan^{-1}\frac{b}{d}$$

にして、日光が室内を直射する間は日の高度は少くとも次の値以下の場合たるを要す

$$\tan h = \frac{GH}{BG} = \frac{a}{\frac{d}{\cos(A-a)}} = \frac{a\cos(A-a)}{d}$$

然れども太陽の高度は夏至の正午に於て年内の最高點に達する時と雖も78°27′なるを以て窓の高さと壁の厚さとの比が南窓にありても假に5:1なる時は既に年内を通じて窓の高さにより て日射を遮ぎらるゝ事無し。

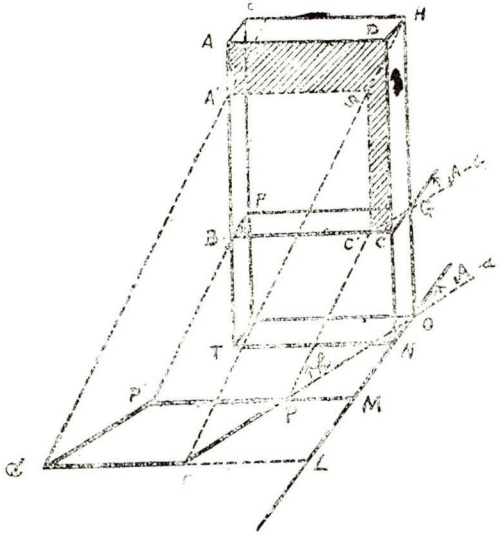
何となれば

$$\tan h = \frac{5}{1} \cos 0°$$

$$\therefore h = 78°42' > 78°27'$$

實際にありては兩者の比が5:1以上なるを通例とするを以て、北偉35°附近の地方にありては少くとも窓の低きが爲に日光の射入を遮ぎらるゝの憂少く、日射時間は多くの場合窓幅と壁の厚さとの比は卽ち廣角の大小により左右せらるゝものとす。但し日射時間の長短は1廣角の大小、II方の方向、III初射時、並に續射時の太陽の方位に關す。

13 廣角同一なるも方向を異にする窓の日射時間



暫くIIIの條件を別視し、假に日射がCFの方向より始まり、BGの方向に終るものとせんに、かゝる場合廣角同一なる窓もその方向を異にするに從ひ猶日射時間を異にするは明なり、之單位時間内に太陽の方位角が移動する速度は時刻及び季節により相違ある事に基因す。

單位時間に於ける方位角移動の速度異なるは既に第二表1を見るも明なり。猶逆に太陽が同じ大さの方位角を移動するに要する時間を見るに、假へば平分日にありては δ=0なるを以て

$$\cos h \sin A = \cos \delta \sin t = \sin t$$

$$\cos h \cos A = -\cos \varphi \sin \delta + \cos \delta \sin \varphi \cos t = \sin \varphi \cos t$$

故に兩式より、

$$\tan A = \frac{1}{\sin \varphi} \tan t \cdots (15)$$

$\varphi = N\ 35°$ の地方にありては

$\tan A = 17 \tan t$

極地に於てのみ $A-t$

即ち極地の平分日に於ては方位角の移動は時角に正比例するも、其他の土地にありては然らず。今最後の式より太陽が 15° 毎の方位角を移動するに要する時間を示せば次の如し。

第七表　平分日に太陽が方位角 15° 宛移動するに要する時間

日の方位 (Sより W へ)	時刻(午後)	上段との差
0°	時分 0	
15°	.36	36分
30°	1.15	39
45°	2.2	47
60°	2.59	57
75°	4.20	81
90°	6.	100

即ち平分日の正午、日の南中より 15° 宛方位角移動に要する時間は、最初僅に36分に過ぎざれども漸次延長し、終に 100分に至るを見るべし。

斯の如く一般に太陽が正午に近き頃は單時間に於ける方位角の移動甚しく（これは特に夏至に於て然り）從て日射の方位も亦短時間に大なる變化を呈すべし。子午線を遠ざかるに從ひ太陽の方位移動に要する時間長きを以て、日射方位の變化も亦子午線より遠ざかるに從ひ遲き理なり。故に假ひ同大の廣角を有する窓もその方向東に近き時は南に近き場合に比し日射時間割合に長き理なり。

方位と方向とは嚴に區別す可きものたるは言を俟たず。若し日の方位がAにして高度hなる時は、南よりAだけ偏せる窓の法線に對する日射の方向餘絃は壁に於ける場合と同じく

$$\cos r = \cos h \cos (A-a)$$

茲に謂ふ日射方位とは特に窓臺上の平面に投ぜる兩側壁の影の方向を謂ふ。

14　廣角の增大に伴ふ日射時間延長の割合

一般に窓の廣角を廣くすれば日射時間も亦從つて延長する理なり。されど同大の廣角を增すも之に伴ふ日射時間延長の割合は窓の方向により異なる。即ち前項に述べたる理由に基き、廣角を增せば終射の方位が益々子午線より遠ざかる如き方向にある窓にては廣角の增大に伴ひ日射時間も亦割合に長くなるも、廣角を增せば終射の方位が益々子午線に近づく如き方向を有する窓にありては日射時間の延長せらるゝ割合は前者の如くならず。

例へば南窓にありては廣角を增せば益々東西線に近づくを以て日射時間延長の割合最大なり東窓にありては益々子午線に近づくを以て日射時間增加の割合は他の何れの方向にある窓よりも少なり。東南窓にありては益々東北及び西南の方向に近づくを以て日射時間の延長せらるゝ割合は南窓の如く大ならずと雖も東窓よりは大なり。

15

初射時及び終射時に於ける太陽の方位

初射時太陽の方位が毎常OFの方向に在りて終射時BGの方向に終る場合には廣角同一なる窓にありては東(又は西)に向へる窓は日射時間最長く、廣角を增せば南窓は他の窓に比し日射時間延長の割合最も大なる事前項に述ぶる如しされど實際にありては季節により日光が窓より射入し始むるは或は正面よりする事あり(例、平分日の東窓)或は正面の方向と一定の角度(廣角より少なる角度)を爲して射入し始むる事あり(例、冬至の南窓)。是等の場合にありては廣角異なる窓と雖も初射時刻同一なり。終射時刻に就ても同樣の關係あり、從てかゝる場合には日射時間に大差無きものとす。

例へば南窓にありては78°18′三は86°12′なりとせんに(第六表の例)、春分及び夏至にありては日出の方位はそれぞれ正東、及び東より北30°の地點に在り。從て何れの時季にありても第三の窓は第一、第二の窓に比し日光の射入し始むる時刻早し。されど冬至にありては日出は東より南30°の方向にあるを以て三つの窓共に初射時刻を同じふす。日光の窓を辭する際も亦同一の關係に在り。(つゞく)

美術工業の諸問題

——建築裝飾としての美術工業品について——

川村種三郎

我々人間の實用的慾望を充す爲めの工業と、審美的慾望を滿足せしめる美術とは全く相反對してゐる方向を取つてゐるものである。然しながら美術工業品は此の二つの要求を滿足せしめなければならない。故に、此の二つの點から、美術工業及美術工業品を定義してゐるのを擧げると、

戸田博士は

『美術工業品とは、美化したる工業品を言ふ』

とし Bucher は

『美術工業品とは美化したる工業品を言ひ、普通工業品と純美術品との中間に立つものである』

と言ひ、尙 Falke は

『美術工業品には各種多樣の種類があるけれども美術工業の製作物として、共通の特徴を持つてゐる。

一 美術工業の概念

(I) 美術工業の定義

晩近我國に於ける各種生産業經營組織の發達に共なつて、從來より最も因襲的であつた美術工業も其の經營組織を漸次改善して、次第に面目を新めつゝあるのであるが、此等美術の內木材、金物織物等を材料としてゐる美術工業は最も建築と密接な關係を保つてゐるのは明かなことである。今建築裝飾としての美術工業品を中心として、各種美術工業品の過去及現代の生産組織の狀態及美術工業の將來進むべき方向等を考へてみたいのであるが、先づ今日屢々誤解されてゐる美術工業の意義を明かにして、其の範圍を確めなければならないと思ふ。

則ち實用に適すると同時に美術的要求を滿足せしめ樣とする點がそれである』

と言つてゐる。

しかしながら以上の定義は甚だ簡單で了解し易いのであるが、それだけ美術工業の概念を限定するには充分でないことは明瞭である。茲に於て、美術工業の本質を定めて後に美術工業品の特長を論ぜんとする立場から、美術工業の本質を定義したと思はれる。

『美術工業は審美的作用を其の主眼とするものであつて、換言すれば生産の趣味ある完成及び裝飾にある』

との Bucher の考察と、

『美術工業とは外的目的の到達と共に、藝術的作用を所望しようとする、工業活動であるといふことが出來る。實際に於て進化の程度なほ低い時代にあつては、殆んど凡ての工作品は美術的性質を有してゐたことを見得るのであるが、現代に於てさへ尙審美的要素を全然顧慮しない工業的生産過程なるものは極めて稀れであると言ひ得るのである。尤も工業的勞働と、藝術とが共同して働き得る程度には甚しい差異がある。——從つて特殊の美術工業は、裝身と住居設備とに役立つ工業を稱することゝなるのである』

との Waentig の記述とを合して考へる時は、美術工業の定義の稍完全に近いものを得ることゝ思ふのである。

尙權田氏は實用と美との兩要素が併存的の關係でなく、內存的關係にたゝねばならないことを力說して、外的目的にも或る制限を加へて、

『美術工業とは日常生活の需要に應する實用の中に、藝術的作用を抱合せしめんとする工業活動を稱するのである』

と言つてゐる。

日常生活の需要に應ずる實用と特記して日常生活を高調し、此れを美術工業とは沒交涉な奢侈工業、骨董品製作と區別し美と實用との內存的抱合を述べて實用と美との兩者いづれかの發揚は、他のいづれか一方の面目をより一層發揮するものであると言つてゐる。此れは Bucher が美術工業品

について、

『ある場合には實用は美觀に、他の場合には美觀は實用に從屬しなければならない』

と言つたのより尙一層進めて論じたもので、美術工業の意義はかなり明瞭に表出されてゐるものと思はれる。

(II) 美と藝術

美と實用との融合

美とは山や川や建築や繪畫や彫刻など、凡て我々の感覺に訴ふる物象の性質である。

そして我々は我々の美的評價の根據がその物象の中に與へられてゐるとき、始めてそれを美と呼ぶのである。換言すると、我々が對象に自己の生命を移入する——即ち我々の感情を對象の世界に移入する時初めて成立する物象の價値である。かくの如く對象の美は、凡て我々の美的觀照によつて始めて意義を生ずるのである。

そして藝術の美的意義は、此の如き美的觀象を準備するところに——我々にむかつて此の如き觀象を要求するところにある。

そしてただ一つの美の在り家は藝術である。尙此の藝術美觀照の場合について言つても、受用者の側にも多少の製作的能力（廣義に於ける）が必要である。若し藝術品の要求に應じて、形象を現實より切り離し、此れを獨立した觀念的の世界として構成する能力を欠くならば、我々は藝術品の受用にさへ堪へ得ないのである。

（此れは美術工業品を美的對象として觀象する場合にも亦同樣である。）

我々の美的態度に對して準備するために、換言すると對象に觀念性と、分離性と、客觀性とを與へるために、藝術は或特殊な手段を用ゐる。此れは表現すべき生命をその現實關係から切り離してこれを全く異なつてゐる世界に——その現實とは全然異なつてゐる官能的對象の中に放つことである。我々は此れを特に藝術的表現と名ける。かく表現されることによつて、生命はその現實の關係から離れ、しかも又新しく官能的形体と結合することによつて諸他の觀念世界と區別されるのであるが、かくの如くにして藝術の世界は、徹頭徹

尾獨立した纏まりの完全な世界である。自立して他に待つところのない世界である。そしてかくの如き世界を構成するものは表現である。故に表現は藝術の本質となるのである。

こゝに於て藝術は官能的なものの中に生命を封入して、これによつて官能的なものを現實の物質的關係から切り離し、又封入せられてゐる生命を他の觀念世界から獨立させて、兩者の間に新しく直接な結合を創造するものである。そして我々はこの官能的方面を形式と名け、その中に表現されてゐる限りの生命を內容と名けるのである。故に藝術品の內容と形式とは、必然的に一致する。內容はそれが形式中に表現されてゐる限りに於て、藝術の內容であり、形式はそれが內容を表現してゐる限りに於て藝術品の形式である。內容とは官能的對象の中に形成されてある限りのものに過ぎない。形式とは內容の官能的存在方式に過ぎないのである。故に內容に於ける微動さへもその存在方式を——その形式を變化さすものである。さうして我々は同時に其の內容から何物かを創ることなしには藝術品の形式から何物をも創ることが出來ない。同時に其の內容に何物かを附加することなしには藝術品の形式に少しのものも、附加することが出來ないのである。

凡そ何事をも語らない形式といふものは存在することが出來ない。物象の形式とは我々の形式活動が產むところのものである。故にどんな簡單な形式でも、それが我々にとつて形式として成立してゐる限り、其處には我々の形式活動が——一つの內容が移入されてゐるのである。まして美的觀照はこの形式を純粹に生命の象徵としてのみ見ようとするのである。故に其處に形式がある限り、常に何等かの意味がこれに結合してゐなければならない。我々の美的態度にとつては何事をも意味しない、何等の生命の必要に迫られない物質の集まりは死を意味してゐるのである。(阿部氏著の美學參照)

美術工業品の場合にも亦同樣に考へ得るのである。

尙 Kant は美を論じて、

『美とは我々の二能力、即ち純理性と實理性との調和である。この兩者の調和するものは則ち美であつて、然らざるらのは非美、もしくは醜である。

そして美、非美、醜を判斷せんとするには、趣味なる能力によらねばならない。趣味とは畢竟美的判斷力にほかならないのである。これを詳しく言へば、一切の關心を脫して快もしくは不快を詮穿することによつて、物象を觀照するところの能力である。

故に美觀なるものは此れを無關心な快感と言ふべきもので、非美や醜は不快感といふべきである

それ故に美には目的なく、美は美自身が目的である。其のもの以外には目的を持つことがない。又美はその標準を絶對においてゐるが故に均等であり、普遍であり、個人に超絶し、關心を超脫してゐるのである。無目的と無關心とは美の特質である』と。

かくの如く美意識について論ぜられたものを見ると、其の本質については其の特徴として無關心無目的のものである。無目的といふのは超目的の意で、排目的の意味ではない。(此れは美術工業を論ずる場合等に最も誤解し易いものである。)尙其の形式については、美の自然性について考察せねばならない。則ち材料に關しては其の性質に對する適應性を考へねばならない。則ち材料の性質に對する適應性とは、材料の自然性を發揮せしむることである。これについての Gottfried Semper の見解は

『藝術形式は主として使用目的によつて何等かの第二義的目的(例へば宗教的、社會的象徵的意味)によつて、材料及過程並ひにその加工の法則と、技術から、氣候及文化の如き環境の影響から、最後に創作するところの藝術家の個人的感覺から影響されるものと見ることが出來る。從つてこれ等の凡ての觀點はまた藝術品の美的判斷に察しても考察されねばならない。またその形狀の單なる外觀から、美的判斷を下そうとしてはならない。人々はこれ等を美的に評價しようとする爲めには、それらの目的それらの使用の種類を知らねばな

らない。そしてそれらが、如何に立派にその形狀のまゝで使用するに適合してゐるかを知るものがそれ等の形狀を美的に理解し得るのである。』と言ふのである。

Semper の動因の影響を則ち如何に目的、材料加工技術などが使用物品の形狀を限定するかを示した此の方法は、美術工業に適用する場合には又重要な意味を持つてゐるのである。則ち

1 内容に關しては無目的。

2 形式に關しては材料、使用の性質に適應する技巧。

を兼ね備へねばならない。

此の兩者が互に相融合し合つて眞箇の美術工業品が形成されるのである。

Muthesius が

1、特殊目的による成形。

2、材料の性質による成形。

3、製作に於ける鋭さ。

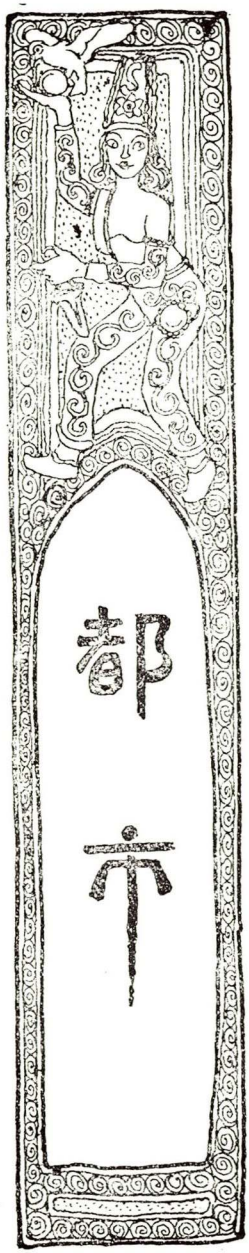
を美術工業品の製作に關する三大法則としたのをみても明かである。

一脚の椅子を見ても實用の爲めに美を損じ、美の故に實用を害することなく、材料の性質を最も自然的に發揮し、其の目的に最も適應したる上、製作者の個性の閃きを窺ふことの出來るものは、眞に生命ある椅子であり、眞に價値ある美術工業品である。一八六〇年代の獨逸の美術工業界の狀態の樣に、硝子を陶器の如く、陶器を木材の如く木材を皮革の如く假裝して材料の自然性を無視したのは一つの畸形と見ることが出來る。

美と實用とが融合された時、眞に生命のある美術工業品が生まれ出るのである。我々は此平凡な事實を徹底的に了解しなければならないと思ふ。

（未完）

× × ×



亞米利加の都市計畫（畢）

本譯は尙ほ完結までには多少の紙數を要するのであるが既に余りに長きに亘りしが故に一先づ打ち切りとする（譯者）

ウオルター・デイ・ムウデイ著
Z Y 生譯

市俄古市の精神的感化の續き

市俄古デイリー・ニュースは既に十六年間も續けて學校延長講演を市のあらゆる方面につゞけてゐる分けても下町から遠隔の地域に於てより多く開いてゐる。一年間の其講演數は三百七十五回に及んでゐる。かくして多忙にして十分の勉學をなし得ない男女をして新なる訓練を受けしめ、又外國生れの兒童等をして、此國の言語や、風習を學

前號をのみもつて終るは餘りに尻切の觀あるが故、今一回の揭載猶豫を乞ひ、數號より引續き來つた、市俄古市に於ける精神的感化の稿に、尙ほ數言を附加してこれを終り、更に原本が力說せる主要の諸點が、原本の結論の項に見ゆるが故、これを譯述して、從來辿り來つたる道程を今一度び回想し、本譯稿の終結を計らんとするのである餘りに長き譯なるが故、讀者の倦怠を虞るゝも、今一度の忍耐を願ふものである。

ばんとするを援助してゐる。これがデイリー●ニュースの此企の目的なのである。此處に講演さるゝ題目はあらゆる方面にわたつてゐる。科學上の新發見、米國歷史上の題目に就て、外國の歷史上の大なる事件此國及び外國の大人物に就て、又時には詩人の詩を朗讀する時もある。特にセークスピーアの詩が多く研究される。而してそれ〳〵の題目にわたつて、幻燈を用ひわかり易くしてある。彫しい數の講演者が、此企を聲援し、或者は講演の材料を得るために廣く旅行をする時もある。

他の重要なる講演局は市俄古都市計畫講演部である。市俄古市の都市計劃に就て、又他の諸外國の都市計劃に就て說き明かすのである。市俄古都市計劃委員會は此講演部の事業を完全ならしむるため、幾千弗を費してゐる。之れは廿四ケ國の諸大都市を含んでゐる。說明のための繪は、第一流の幻燈畫家が書いた、幻燈板畫を用ひてゐる。而して講演は無料で市の各所に開かれてゐる。

醫學協會も又毎土曜日夜に、衛生その他これに類似の講演を無料で開き、多くの講演者がこれに從事してゐる。又心理協會も一月一回、主として旅行に就ての題目で、美術館のフーラートーン●ホールに於て講演を開いてゐる。アライアンス●フランカイスは、フランス語を宣傳し佛國と他の諸國との關係を密接ならしむるために建てられし協會である。隔土曜日にフーラートーン●ホールに於て自由講演、朗讀會を開いてゐる。その他多數のクラブや協會が、(特に婦人の組織したる)一年中正確にその講演會を開いてゐる。それ等は凡て廣い最も良い世界的の範圍にわたつてゐる。教育的文化的題目に就て講演をしてゐる。

市俄古市クラブは市の生活に對し最も有效なる感化を及ぼしてゐる、教育上の力であるが、更に市以外に地方の調査、改善に關する點に就ても力を盡してゐる。よく整つた圖書室、立派なクラブをもつてゐる。自由講演局を支へ、都市問題に關する講演の講演者を供給してゐる。

婦人市俄古市クラブは、市の福利に關し、婦人の興味を養ひ彼等を共に結合して此問題のために當らしむる目的をもつて造られてゐる。街路や空

地や小路を清潔にし、公立學校の狀態を改善し、煤烟の害を妨止し、監獄や遊戲場を見舞つて幼兒の幸福に就て看視を怠らぬ樣に組織されてある。この會員數八千五百五十六人を有してゐる。こういふ組織として、これ丈けの會員數を有することは著しいと言はねばならぬ。市にはかゝる婦人によりて成る立派な團體が多くあるが、市の婦人がかゝる組織を通じ市のために働いてゐる市俄古市の婦人の働きは異常なものであると言はねばならぬ。

市を向上せしむる點に於て、無比なる獨創的の最も有効な影響を有するものは、サンデー・イブニング・クラブである。一九〇七年著名な事務家書記社會學者たるクリツフォード・ダブルウ・バルチスの指導の下に、事務家の一群によつて組織されたのである。それは下町の教會のない區に、非教派の夕の禮拜を開き、旅客やホテル宿泊者や、未だ適當なる教會を撰ぶに至らない、市の假住ひ人や、區附近にある寄宿舍の青年男女や、市の到る處の教會のなき區域の人々のために、設けられたのである。集會所はオーケストラ・ホールであつて、禮拜の擔任者は事務家その他普通の職業に從事してゐる人が從事してゐる。而して此れを支ふるの費用は個人の自由意志による献金により、年々凡そ二萬一千弗の費用を運用してゐる。辯士は市の各方面の——實業、教育、宗教、文藝、工業、學界——等の著名なる人々、及び他國より旅行し來つた著名なる人々に依頼してゐる。此協會の主宰者たるバルチスが禮拜の一時間前に聖書講義をしてゐる。各禮拜ともに秀れた音樂のプログラムあり、百人の唱歌隊が歌つてゐる。此の唱歌隊は米國に於ける有名な唱歌隊の中に加ふ可きものであるとの批評は、外國から來た之の道の權威者によつて認められてゐる。一年中十ケ月間に行はるゝ禮拜の來會者數平均二千四百人、一九一七年の全來會者數六萬五千人である。此クラブは世界中に於けるかゝる類の組織の中で最も成功してゐるのみでなく、此說教擔任者の一人が言つた如く『世界的の感化を有する』ものである。世界各國から此市に來つて、此禮拜に列した人は、右と

同樣の賞讃を加へてゐる。宗教、愛國の言葉の聞かるゝ此講壇は、眞に市に對し有力なる道德力の源泉となつてゐる。その主宰者であるバルネス氏は、イリノイス州の戰後××局の總裁であつた。希臘伊太利の救濟を擔任してゐる赤十字支部の××であつた。

宗教的感化は市俄古市に、强い道德的の力を推し及してゐる。市の有名なる教職者等が、如何に市を向上せしむるために、與つて大なる力があるかは、神の聲の聞ゆる所、キリスト教の力の感せらるゝ所、人類の善が保存せらるゝ所世界中に知られてゐるところの國際的の說教者ロバート・コルリア・ドワイト・エル・ムウデイ・ピー・エス・ヘンソン博士、ダビツド・スウーング教授、チヤールス・ピー・ヘンダーソン・ラビー・エミール・ヒルシユ・フランク・ダブルウ・ガンサウラス博士その他多くの有名なる人々の姓名を擧ぐればよい。

回想

既に從來長き考究を續け來つた樣に、民衆の都市集中の勢は、こゝに新なる又煩しき幾多の問題を生じ、如何にもして都市の改善を計らねばならぬ狀態となつたのである。今日米國に於ては百人の中五十四人が都市に住んでゐる狀態となつてゐる。國民の生命は人民の生命である、公衆の健康は國民最大の財產である。然るに民衆の都市集中は、國民の躰格を低下せしめ、國民的性格を變化せしめ巨額の經濟的損失を招いてゐる。南北戰爭の頃には剛毅健康正直能力ある田舍漢によつて米國は養れて來つたのに、今は都市も田舍も等しき程度に國民の指導者、政治家、陸海軍人、公人を供給するに至つてゐる。民衆の生活が廣大になりて發達するか、又は劣等となりて矮少となるかによつて、國民生活も又大きくもなり、又萎屈もしてしまふ。

世界の將來が平和の支配する處となるにせよ、又は今後更に恐る可き爭鬪が繰返さるゝにせよ、兎に角國民として卓越するには、各個人が强くなければならぬ。個人を强くするには、今後は健全なる休養、人格の文學、あらゆる人々が容易に手

をのばし得る處の音樂、容易に近き得る藝術と科學との聯盟、商業運輸の便利等の設備は、都市にほどこすことによつて、都市民を養つて行かねばならぬ。若しも國民生活の崩壞低下頽廢を妨止せんと欲するならば、以上の敎養的方面の設備を完全にし、職業上の敎育機關と機會をも容易にし、心理上からも衛生上からも完全なる都市たらしむ可きである。殊に此必要は大戰以來一層切實に感せられて來た概して米國諸都市の發展は偶發的のもので、この勢を善導せし何等の計劃も曾てあらず、先見を欠ぐの結果はその成長に隨つて悲しむ可き欠陷を曝露しつゝある。單にそれのみでなく我國民の國民的習慣たる遷延、因循の性は、民衆の肩に巨大なる重荷をおはするに至つてゐる。何れの都市でも左樣であるが、疾病、死、變事を防止するための設備のためにしかも全體としての適當なる健康上の用意は欠げてゐる。市民は耐え難い重稅を負擔せしめられてゐる。而して此點は市民各方面の業務事業上に於ても同樣なのである。腸窒扶斯病から起る死を防止するためには、合衆國はその設備に六百萬弗を失つてゐる。洪水、流行病、火災、鐵道汽船の變事等數へ上ぐるならば莫大の額に達してゐる。これを考ふればよしその失費が一時如何程を要するにせよ、此等の欠陷を除き去る根本的の設備をなすことは、結局後になつてその失費を取返すことになる。

今我等は從前の經驗によつて十分に學んだ。米國諸都市を改善し、市民隨つて國民の保健を計らんには遷延、不準備の舊い惡習慣をふるひ落してしまはねばならぬ。而して科學的都市計劃の基礎をなすものは、一層空氣の流通をよくするために街路を廣くし、汚塵その他凡て不潔なるものを容易に取除いて淸潔ならしめ、喧騷、混亂を除き去り、周圍に引着力をもたしめ、交通機關を完備し健全なる休養の機關を改善進步せしむるにある。

さて都市計劃なるものは、既に今日に始まつたのでなく既に古代の諸都市に於ても行はれてゐたので、バビロニア・アゼンスの都市にその例をあげることが出來る。併しそれは彼等の時代の計劃であつた。その時代の民衆の福利を計ることは出

來たが、併し今日の必要に應ずるわけに行かぬ。現代は現代の特別なる事情要求がある。我等は我等自らの力でこの問題を解決せねばならぬ。このために第一に必要なるは妥當なる理解である。より多くの經驗より拵き理論。これが必要である。經驗は智識を生み、智識はこれを建設し分類すれば科學になる。

更に考ふ可きは今日殆ど二百個に近い米國の諸都市が、都市計劃に關して八釜しく論議しつゝあるにも拘らず、先づ眞に進歩を見つゝあるのは十二個にも足りぬ都市のみである。これ何に原因するか。拙くとも二つの原因があると思れる。その第一は大抵の都市が都市計劃の科學的振興上の努力に就て正しく理解しこれを實現することが足りぬ點。第二は精力の誤れる使用のためである。公衆は己の理解しない目的物のために、巨額の投資をなすものでないことは言ふ迄もない。故に何よりも先づ彼等の理解と贊成とを得ておかねばならぬ。此等の運動、都市計劃の宣傳の方法を正しく賢こくすることが、その成功の秘訣である。

米國民には都市計劃とは、都市の美觀を計ることであるといふ先入主があるが故に、これを除き去り、總合的都市計劃の根本は更に實際的の理想をもつてゐることを理解せしむるには、長い忍耐を要し又煩しいことをも忍ばねばならぬ。又更に都市計劃の專門家を養成することも、勿論都市の發達を計る總合的都市計劃に必要なることであるが、併しこれは事務家の智慧と經驗とをもつて補はれて始めて一人前のものになることを承知せねばならぬ都市計劃はその專門家に關する問題事業であると共に觀察と常識に關することである。然るに專門家は批評的な無關心な懷疑的な説服し贊成せしむる實際的方面を等閑にふしてゐた。市當局者の公の裁可を得、黨派間の偏見を除去し、個人の利己心を一掃し去ることの如何に困難なるものであるかといふことを豫め知るの明がなかつた。唯之の計劃は紙上に描れたものに止つてゐた。市の黨派間の勢力爭ひ、反目嫉視のために、財產家の所有する家屋、土地の利害から、又之の計劃のための資力を得る困難のために如何に之の計劃が阻害され

遷延せしめられたかを、彼等が早く悟つたならば之の事業は一層の伸長を見たことであらう。近世都市計劃は豊富なる常識が之の中に加らねばならぬ。專門上の智識、能力は勿論根本的のものではあるが併し同時に之の中には——建築家機械工業家宣傳者雜誌新聞記者教育家講演家法律家就中外交上の手腕ある人等、此等の人々の力を集合して專門家を補ふものでなくてはならぬ。先づ本論に入る前の準備と民衆の教育とが必要なのである。

都市計劃に從事するには、二の問題を十分注意しておかねばならぬ。二の問題とは財源、科學的計劃、之の計劃の振興に對する組織を如何にして得るかてふことが第一、之れ等のものが既に得られたならば、如何にして結果に到達するかてふことが第二である。

稀に米國に於ても都市計劃事業が、市當局者によつて創められゝ時がある。ではあるが普通は眞に公共的精神に富む市民等によつて始められるか又は商業界或は公人の一團を發端として始められる可きである。といふ譯は計劃の豫備事業として輿論を喚起するにしても、又計劃に着手するにしても、兎に角資金が最も必要になつて來るが、右の類の人達でなければ此資金を調達することが困難であるからである。市當局者によつて着手されたのでは、資金の調達が困難ではあるが別して振興事業が彼等には到底不可能であるからである。資本金は先づ何よりも第一に必要な要素である。之れなくしては目に見ゆる仕事をあげることは難つかしい。都市計劃の發端、研究、宣傳、遂行何れにしても資本金が直に必要となつて來る。計劃を立てる前に先づ專門家の奉仕が必要であり、計劃は振興的努力の前に必要であり振興的努力は、好き輿論を得るに先き立つて必要であり、輿論の後援なくしては市當局者を動かすことは困難である。かく何事をなすのにも、何れの階段にも必要になつてくるものは金である。併し概して市當局者によつて資金を設くることは困難である。故に第一に必要になつてくるのは、市民個人からの寄附によるにせよ、又市の公共組織の金を流用するにせよ兎に角適當なる基金を得ることが第一に必要となつ

て來る。此資金を得られたる上は、能力ある都市計劃の專門家をしてこれに從事せしむ可きであるかゝる專門家の力によらずして　此事業が遂行された例を見ない。

かく一度この計劃が發足し始めたならば、第二歩としては、公衆の感情を喚び起すことが必要になつて來る。此の輿論、公衆の理解贊成が得られたならば、市當局者の該計劃にたいする認識を求む可きである。

而して此都市計劃事業の振興は、計劃委員會とも稱す可き、適當に構成せられたる、半公共團體に委任してしまふことが、最良の策である。かゝる委員會は絶對に何れの政黨にも、何れの宗派にも屬せざるものでなくてならぬ。併し政治上の信念は、その團體の政治生活に比例して表現さる可きであり、別して議長は一の政治上の信念を有し、副議長は他の政治上の信念を有す可きである。

計劃委員會の權能は、單に助言に止まつて、遂行的であつてはならぬ。凡ての時に於て民衆も市當局者の中介者たることを心懸けねばならぬ。市によつて委ねられた計劃を研究し、市によりて採用され遂行さるゝためかゝる計劃の特別なる方面を推賞す可きである。而して凡ての場合に必要なる金は、これを寄附金に待つ可きである。

都市計劃の振興者にとつて、更に重大なる仕事は、その都市にあるもろ〳〵の要素を皷吹し揃へることである。それ等の諸要素はその都市の大さ地理的の位置。その住民の性質等の違によつて、性質範圍も違ひ、樣々ではあるが、併しどの都市でも皆此要素をもつてゐる。此諸要素——地力偏見、個人又は團體の貪欲、宗教、傳統、階級の差別、政黨勞働組合、外國人種、改革者、公共奉仕者。公共、商業、社會上の團體、婦人參政權論者、無頓着、專門的偏見——此等凡てを全體の調和の中に入れ、都市計劃のプログラムの中に消化しつくさねばならぬ。公の事業の失敗は、主として此公衆とその事實を輕視し、又は全然誤解する處より生ずる一の問題はあらゆる方面より見、凡ての要素を調和し、全市を一列に並ばしむるにある。その何が惡いことであるか又は何が正しいか

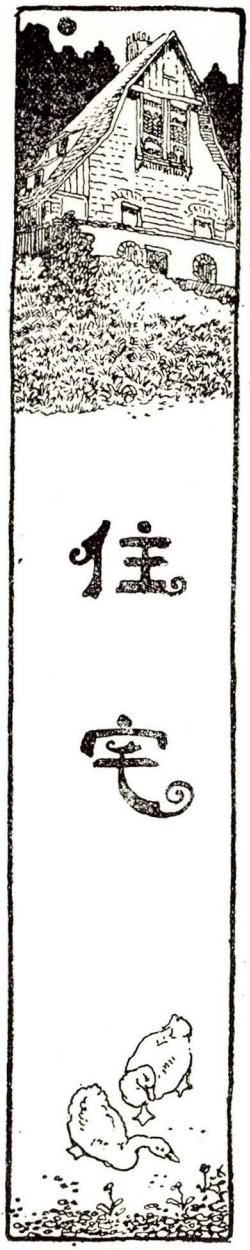
を正しく理解するを要する。

又公衆への宣傳の方法も、之の計劃とその都市との大さに比例してなさる可きである。若しも之の計劃が小範圍のものに限られたものであるならば、隨つて敎育的宣傳の方法も小範圍に止まつてよい。ではあるが計劃全體を、之の計劃の着手の始めから公衆に知らしめておくことが必要である。不斷に又統一的に市のあらゆる方面の人々に知らしむる方法をとらねばならぬ。そのために最も善い中介を取る者は新聞記者である。計劃者は限られた己の經驗にのみ頼らず、新聞記者の忠言と援助とを求む可きである。事物の欠陷を看る鋭き眼を備へてゐる點に於て、彼等にまさるものはない世の中の重なる出來事を取扱つた廣い經驗は自然彼等をして此力を得さしめたのである。

かくの如き次等なるが故に、先づ第一に必要なるものは正くあらねばならぬことである。次に必要なるは之の計劃の背後にひかふる人々が、强固なる人、智慧あり無私の精神の人で、令名ある人でなくてはならぬ。新聞や市民の好意を得る點から言つてもかくあらねばならぬ。

右の如き方法によらざる時は、事業は決して成功するものでない。多くの失敗は精力を誤り適用してをる處より生じてゐるは明である。しかも此點に於て失敗してゐるならば、他人の輕驗に鑑み己の欠點を補ふにしくはない。

自重は品性の大要素



住宅と色彩（五）

會員 工學士 建築士 葛野壯一郎

五室內壁の色

建物の各部に就て、色彩並に裝飾の最主要な場所となるのは無論內部の壁で有りますが、其方法に至つては、其れが寺院で有ると劇場で有ると、音樂堂で有ると集會室で有ると、或はまた住宅其他私用の室で有ると、其用途性質の異なるにつれて、自ら各方法を異にするのは當然で有ります。また其構造如何によつても、自然其方法を異にせざるを得ないので、柱たのパネリングの多い公共的建築の大きな室と、住宅の如き小規模のものとは、明らかに其趣を異にせざるを得ない結果となるので有ります。また等しく住宅の壁としても、腰羽目だの小壁のある場合と無い場合、小いさなパネルに仕切られる場合と然らざる場合、壁面に繪畫其他の裝飾物を掛ける時と然らざる時、窓掛敷物家具裝飾品の大小有無如何によつて、亦種々の相異を生ずる筈で有ります。なほまた其配色の根本方針として、務めて同似の色の取合せを主とするハルモニーオフアナロジーか、務めて反對の

色の取合せを主とするハルモニーオフコントラストによるか、其方針如何によつても一層複雑な變化を生ずるので有ります。成る可く似よりの色を取合せてハルモニーを作る方法は、方法としても最容易で有り且つ結果に於ても無難では有るが、一面平凡に流れ易い欠點が有ります。務めて反對の色を取合せる對照によるハルモニーの方法は、實際非常に困難で熟練を要するのでは有るが、結果は面白い生々したものが得られる點に於て優れて居るので有ります。

更らにまた室内壁の色彩として問題となるのはそれが何れの方向に向つて居るか、アスペクト如何によつて方法を異にするや否やといふ事で有ります。理論としては、北向の室も南向の室も全然同樣に取扱ふ事は不合理で有り、窓の大小室の明暗、其度合に應ずる配色並に濃淡の變化が當然の必要となるので有ります。併し斯の問題は國により地方により、住宅其物の敷地並に建物の構造如何に由り必ずしも左程重要問題とはならない場合が多いのが普通で、其れが北向で有らうと南向で有らうと、大した變りは無いといふ有力な論者も有るので有りますが、吾が邦の如き、比較的四季の變化の多い地方では、ヤハリ私は相當考慮するのが至當だと考へます。北向の薄暗い比較的陰氣な室に藍色だの灰色がゝつた、鈍つた色を主とする配色が全然不適當で有ると同じく、南向の明るい陽氣な室に、黄色だの赤味がゝつた、餘りに明るい色彩を濫用するの不可なる事は論ずる迄も無い事實で、一面室の用途によるは勿論、其向方如何によつて配色の撰別按配を適當に考へる事は氣分のよい住宅としては是非必要な事だと云ひ得るので有ります。

次に問題となるのは、其室が晝を主とするか夜を主とするかといふ事で有ります。劇場の如き建築ならば、夜を主とする事に於て、其内壁の色彩裝飾の如き、夜の効果に就て最多の注意を拂ふ必要は有るので有りますが、住宅の如き種類のものでは、必ずしも左樣いふ嚴重な晝夜の限定が有る譯では有りません。無理にいへば寢室の如きは夜を主とすると云へば云ひ得るかも知れませんが左

様とのみには限らないので有りますから、この問題は理論としては兎に角、實際問題としては餘り重要ではない。寧ろ婦人の服裝、殊に夜會を主とする服裝の如きに就て、甚だ必要な事かも知れないので有ります。室内裝飾としては、一般に晝間に觀て良いものならば、それは夜分電燈や瓦斯の光で觀ても、ヤハリ良い結果が得られるのでは有るが、然し色の種類如何によつて多少の變化は有るので有りますから、夜光による色彩の變化を一應考へて置くのも、必ずしも無用の事ではないので有ります。凡の瓦斯の光は紫と青の種類の色に著しく影響し、電燈の光は黄色に關して變化が多いので有ります。一般に燈火は其何たるを論ぜず黄色味を與へる結果、黄色並に黄色がつた色が一層光りを增すと同時に、青色、青味勝の綠色、菫色がゝつた青色等を鈍らす、即ち暗く觀せるので有ります。青色と綠色(青味勝)が、夜の光には最強く影響するので、鈍い灰色がゝつて觀え、綠色は一層青味を增し、黄味の多い綠は割合に變化少なく、青味の多い綠は一層黄味を增して觀えるので有ります。また菫色は紫色に觀え、紫色は一層赤味勝となり、黄色は一層青白く光り、黄味勝の橙色は赤くなり、赤色はヴアーミリオンからカーミンに至るまで、一層光りを增し、殊に瓦斯の光りではコバルトとかアルトラマリンの樣な明るい青色は稍紫色を帶びるので有ります。若し瓦斯燈の下で青色を欲するさらば、晝間の日光では稍綠がゝつた青色を選ぶ必要が有るので有ります。すべて斯の如き晝夜の變化は、室内裝飾といふよりも婦人の服裝の如き、殊に青味の多い吾が邦婦人の眼裝の如きには、相當考慮する必要が有るやうに私は考へて居ります。

また室内の壁について模樣附の壁紙を使用する場合は別として、無地の壁紙、或は水ペンキの如き種類のものを使用する場合に當り特に注意す可きは、凡て無地のものは其効果が單調で、甚だ平面的のものとなる事で有ります。何となく落付いた奥床しい氣分の有るものとするには、單なる無地ではいけない。壁紙ならば何か共色で地模樣或は點々の有る種類のものを選み、普通のペンキ或

ば水ペンキを使用する場合ならば、豫定の色を塗つた上に、更らにそれよりは一層濃い色或は淡い色を今一層塗りつけ、それの充分乾かない前に奇麗なボロでふき取つて、地色に點々を附するような方法を講じたいので有ります。斯の意味に於て我邦の砂漆喰は甚だ理想的で、其粗面な事が色合に面白い落付きと變化を與へて面白い樣に考へられますが、色の種類が少ないのと、さえた明るい色を得るに困難な點は遺憾で有ります。茶色や鳶色黄色灰色掛つたものはよいが、明るい紫とか青色又は綠色のものは得難いので有ります。

額面として繪を壁に掛ける場合、不適當な壁の色は繪を著しく害するもので有ります。住宅ではないが陳列館の樣な種類の建物では、其陳列品に對する壁の色か、重要な研究問題となるので有ります。住宅としても壁面に大小額面等を掛ける關係上、ヤハリ此點に就ても考慮を要するので、普通の灰色を帶びた薄い綠色、鳶色を帶びた赤色等が最適當だとされて居りますが、中にも鳶色が最良いと云ふ事で有ります。是れは額綠が金色で有ると黒色で有ると、また中の繪の調子にもよる事で、決して一概に論ずる事は出來ないので有ますが、住宅の如きに在つても、多少其點に注意し、額綠の選擇、壁色と繪との關係等もよく考えて見度いものだと思ふので有ります。（未完）

白雨に跡かたもなし雲の峯

藤井厚二氏の新邸

戰史を飾る大山崎「天王山」を背景に

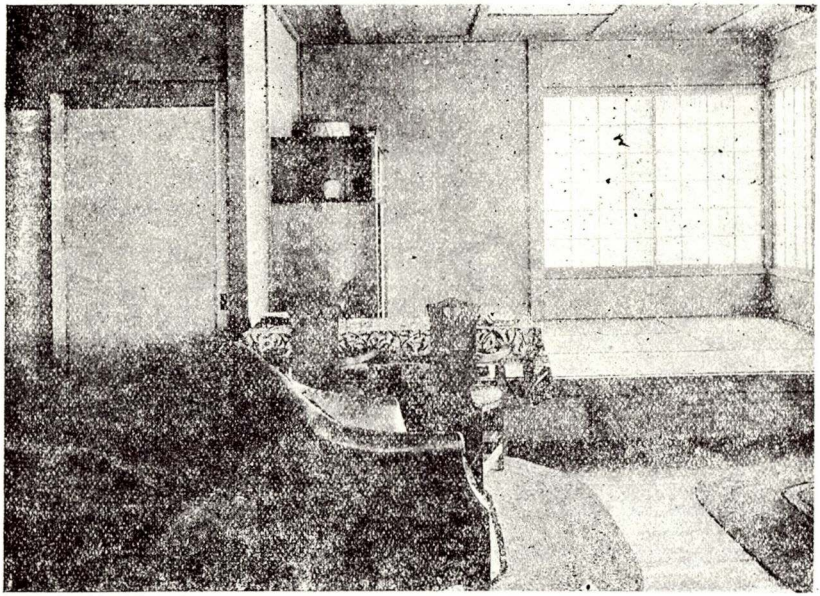
澱江の流域と攝城の平野を眸裡に展開せる絶勝の地を擁して

一新機軸を出せる日本式建築の時代相

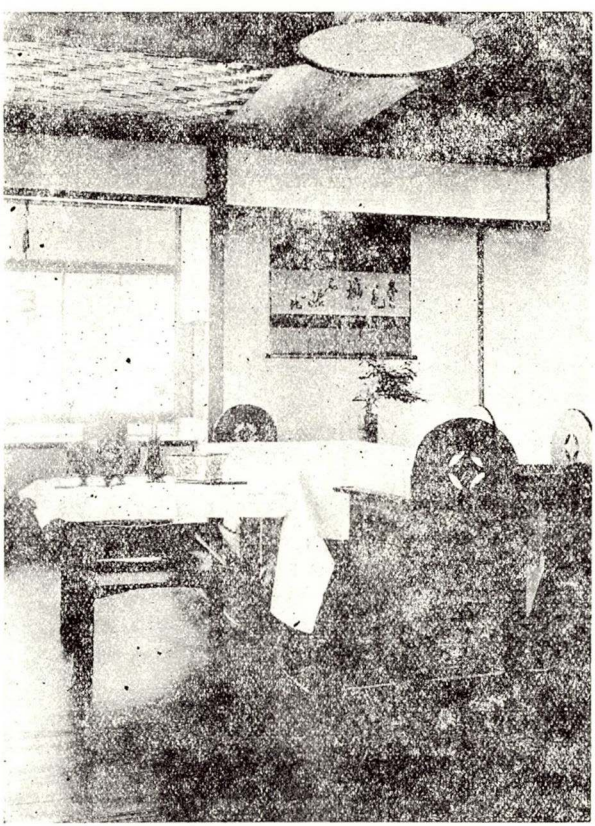
それがし

……東海道本線……の一角に立つて四顧すれば、その……「山崎驛」……かみ、豊明兩雄山崎合戰の關ヶ原なりし『天王山』に『洞ヶ峠』、扨ては八幡の嚴しらずと名たゝる『石清水八幡』に、吳竹の里「伏見」の郷、淀川三十石の昔噺も今更らに、觀來れば、古跡と史傳に、今も尙ほ思ひ出多き斯の地一帶、文化の嵐は、凡ゆるものを更新より更新へと吹き卷れるも昔偲ばる幻境と、自然の山容水態は、今も昔も渝らざりけり——と斯う美文もどきに並べ立てゝ扨て是から書き出さむとする藤井厚二氏の新邸は眞實く斯の古典と勝景の懷ろに在つて、直上『天王山』と、直下『山崎驛』の中腹、遠く近くそれ等の史境と自然を眸裡に收め得る絶好な位置に營まれてある。之を不粹に云はゞ『京都府乙訓郡大山崎村字山崎三十番地』と出るのだが、要約すれば、山崎驛の直ぐ上だ、と云つた方が解りよい。云ひ後れたが、藤井厚二氏とは、現京都帝國大學工學部——建築科——助敎授でゐらつしやることを、未知の讀者に斷つて置く。

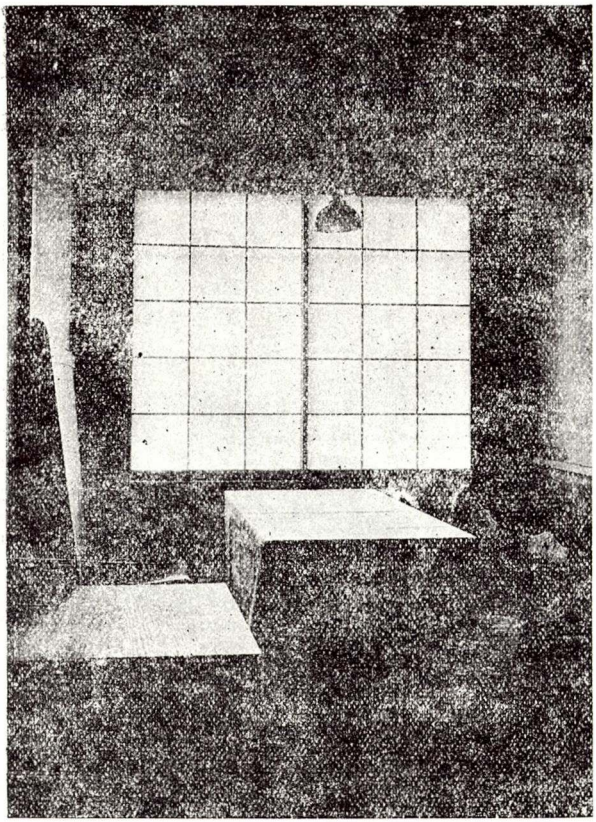
……氏は木造建築に……である。而して日本式住宅を、時……就いての一權威……代の趨向に順應して如何に改良すべきかに就いても、傾聽すべき意見を抱懷してゐらつしやることは、過般來、『住宅に就いて』と題するパンフレットを同好間に頒つて、氏の謙遜な言葉を籍つて云はゞ、『どんなものでしよう?』と問題を提供してゐられる其思想を如實に現化され



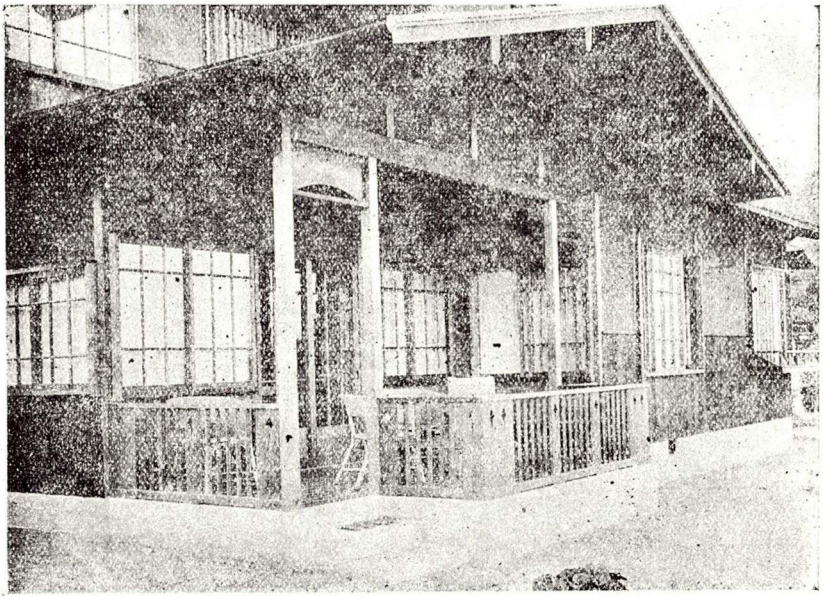
『翔雲莊』應接室



『翔雲莊』茶室兼食堂



『翔雲荘』小食堂



藤井厚二氏新邸『翔雲荘』居間

たのが、實に、斯の新營の住宅である。何處までも研究的良心に生き、そして謙遜容易に肯定を容さない氏としては、件の住宅を以て、或は、一つの創作に非ずして習作に過ぎない、と云はれるかも知れない。けれども、記者は、確に現代住宅改善問題——然り日本住宅の時代的順應案ともいふべき改善問題に就いて、多大なる具案が示されてゐる事を信ずる。それと同時に、如何にも成功ある創作なることを肯定せずにはゐられない。仍て、以下記者の素人觀を書き綴つてみよう。

一言にして盡さば純日本式に椅子と卓子……怎う按排して其處に時代に順應する生活を看出され得るかといふ事が其焦點である樣に想はれる。換言すれば、勿論日本式を西洋化したのではない、さりとて日本建築へ西洋建築を取り入れたのでもない。純日本式建築へ、凡ゆる文化的設備——主としては煖房、炊事、浴槽等の給熱設備から、照明、ベッド其他排泄物の處分等の文化的設備を、椅子及び卓子生活と共に取り入れて、其處に依然純日本式建築の分圍氣を維持し得るか、といふ點を試みられたのが、斯の新邸である。——但し言葉の少々足りない氣持ちがするも、ざッと斯ういふ風に記者は直觀した。

外觀の純日本式なる事は云はずも内部のそれ……に到つては、疊生活から離れて而も各室ともに日本座敷の氣分を失はないとする努力の跡は、歷々窺ひ得られた。先づ居間に就いて云はゞ、十八疊程の處へ座敷の一角を一尺一寸餘り上げて、それに六疊程の座敷を拵へた、といふよりも、寧ろ、日本座敷の一角拾二疊程をそれだけ床を下げて其處に椅子と卓子を配したと云つた方が適當する。而して記者の第一印象は、其處に何等の不調和を看出さず、却つて上下の均勢が取れ、統一ある變化を覺へて、兩棲的生活——座すると腰掛けると——しッくり合ふて、ふさわしく思ふた。何んと云つても、是から或る比較的永い期間は、依然疊生活と絶緣出來得ないであらうから、斯る過渡期に處する住宅改善としては、蓋し、餘議ない事である。或人の評として、上は床と下床——疊の間と椅子式の間——との間に襖でも建てゝ、それを間仕切

りにしたら、とのことを聽いたが、それを全然隔離するのは、結局、疊敷の部室と、椅子式の部屋を別々に設けることになるのだから、現代の我住宅を如何に改善すべきか、といふ問題の中心に觸れないことになる。換言すれば、現代の日本人が容易に脫離し得ない疊敷をも尙ほ存じて、生活樣式を椅子式とする其調和と按排に、改善上の苦心と問題が生ずるのである。然らざるに於ては、最早問題の埒外だ、とわたくしは想ふ。

序だが多くの日本人の生活上に附きもの……である處の、日本人固有の宗敎的徵象と住宅改善との關係も、何んでもないようで、實はちよッと問題である。例へば、佛檀や神棚。其儘椅子式の部屋に据へ附けて、伏座以て拜するのも變なものである。殊にそれ等のものとの調和が極めて拙いが、或は取り附け樣の奈何によつては、一種の骨董氣分即ち西洋人の居間抔に佛像を飾る樣な氣分がして、竟に生活中樞の對象たる宗敎的尊嚴を打ち壞すの嫌ひがある。餘程考へものだ。藤井氏も斯の點に相當苦心を拂はれたらしい結果は、居間の一隅にボックスを拵へてそれに佛檀を納め、拜時其扉を披かば、金光燦爛たる佛檀を現じ、常時は只一つのボックスに外ならぬ、そして氏の特案に成れる一基の椅子を其前に配されありて、是に倚りつゝ禮拜し得るようになつてゐる。神棚も略ぼ同樣に階段室の一角に安置されてある。

居間に續いて八疊程の茶室兼食堂を設け……られてある。斯の室は勿論純日本式であつて、正面の床と地袋に先づ日本座敷の氣分を充分味ひ得られるが斯の場合にても、やはり椅子と卓子を取り入れられてゐる。併し床の面と卓子のそれとが並行して殆むど水準を成してゐるから、要するに、日本座敷に置きテーブルして跪座するのと何の異ひもない。但し其處に新奇な氣分の淡いものを感ずるのは、決して Construction や Design の奈何でなくし、所詮は、新しい樣式だから、といふ點に在るとあたくしは考へる。何にしても、此處にも調和に就いて餘程な苦心があつた事を見受けた。斯の室は、本來、茶室と成つてゐるのだが、家族達と落ち付いて、土曜日の夕餐抔を囲る場合とか

又は來客に食事を供する場合に用ひられてある。若しそれ、茶莚を催される場合は、斯の茶室に隣れるヴェランダを『待合室』に用ひられる、とは思ひ付きである。蓋し、何處迄も日本趣味を維持して、而も時代に順應の改善を見むとするのが、斯の建築の心核であること、斯の一事を以ても推知され得るのである。

……殊に斯の建築に創意的な……る一つは「照明」の設備……

である。一言にして云はゞ所謂間接照明の方法を用ひられてゐるのであるが、其構圖に到つては氏獨特な創意的なものだと想はれる。即ち居間も茶室も天井の中央に圓を畫ける障子を通して、電燈の光が奈何にも穩かに柔か味ある線を拋げてゐる。茶室の床は、眉間の內方に取り付けられ在る電燈の光が反射的に照してゐるように見受けた。要するに、日本座敷といふ氣分を成るべく動搖さすまいとする苦心が斯の照明方法となつたのであらう。そして斯の建物の凡てには、雨戸を用ゆる代りに保温や盜難等に供へる爲二重に硝子戸を用ひられてゐるが、其內側は、悉く障子を用ひられてゐるのは、斯ういふ建築として爾あるべき事と想はれる。

更に『寢室』と『書齋』であるが、兩室者共二階に設けられて、寢室は家族用二室と客用一室を拵へそれが悉く寢臺を用ひられてゐる。そして斯の室も日本座敷とはなつてゐるが、殊に意を用ひられた處の一つは、雨戸用の硝子戸の內側に設けられたる障子を悉くどうさ刷きにして、光線の射入を鈍からしむるようになつてゐるから、室內に這入ると、奈何にもたそがれ前のような氣分が爲て、靜に睡を催すように出來てゐる。若しそれ、日光消毒を欲するならば、其障子を排して、直接に陽光を受け入ることは申すまでもない。後に誌す通り、藤井氏は寢室を悉く寢臺設備にした事を稍失敗かのように話されてゐるが、それは、畢竟習慣上の問題に過ぎないので、ベッド設備其ものが必ずしも不合理ではない、跪座生活から立ち上る事が住宅生活改善の一つならば、寢臺生活は當然な事で、それよりも寧ろ習慣を轉回させる事に、或る期間の自制を要するのである。只、斯る習慣に

非る親戚や知友抔を宿泊せしむる場合、其處に多少な不便を免れないかも知れぬが、さりとて、それが故に豐敷の寢室を特更ら設くる程、爾く重要な問題ではないと思ふ。

……其他所謂文化的設備は……例へば、暖房、炊事、浴湯等……よく採入れられてゐる……熱を要するものゝ殆んど凡ては、就も電熱を利用されて居る。給水は附近の溪流を引いて、濾過槽を通じたる清冽な水を、何處でも栓を一捻りすれば得られる樣になつてゐる。其他、排泄物は、氏の考案に成れる處理裝置によつて、水洗式を用ひられてゐる。以上の外、細部に亘つて所見を誌し度いのであるが、素人の所觀寧ろあらずもがな、であるから、ざッと此の位にして措く。

……そして藤井氏自身の……談話を此處に掲げて……斯の建築に對する說明の一つに致し度い。斷つて置くが、記者は、斯の建築に就いて、氏の理想又は抱負の一端をもと請ふたのであつたが、謙遜なる氏は、何としても之を容れられなかつたのである。けれども記者の强つて請へる儘に、然らば斯の建築に就いて失敗？と感じた處を話さむとの前提を以て語られたのが、以下誌す處の談話である。蓋し記者はそれを以て必ずしも失敗？だとは思はない、寧ろ氏のヨリ良き理想の一部面たる事を斷つて置く。

『何んですッて?! 『翔雲莊』建築に就いての理想を話せッて？……理想抔あるものですか。……說明をしろッて？、說明の致し樣もありませんナア、寫眞をお出しになるのなら、說明代りに○○でも附けて置いたら怎うです？、わたしが『翔雲莊』を拵へるのも、又他の場所へ二三建てゝみたのも、是れだ、といふわたしの考へを現はしたのでなく、「是でよいでしようか」と皆さんに敎へて頂く積りで建てたのです、それを說明する事は自畫贊になりますから好みません。……開き强ッてのお尋ねならば『翔雲莊』を建てた後に感じました失敗とでもいふ方面をお話してみましよう。——私の方の家族は、私共夫婦と、私の母と、子供が一人に、家內の弟で中學校に通ふてゐる者と、そして子守と、約り六人住むで居ります

が、今度建てたのは、建坪がメートル坪（六尺六寸）で、三十七坪二合五勺、約り延坪にして五十三坪になりますが、實際住んでみて、どうも廣過ぎた、もちッと小さい家を建てたらば、と思ひました——是が先づ遣り損いの一つかと思ひます。

其次に、しくじッたと思ふた事は、居間を腰掛ける部分と疊の部分とにして、疊の部分を約一尺一寸五分上げて居りますが、是は今から三年許り前に遣つた折には隨分嗤はれましたものです。併し今では隨分と歡迎されて居りますが、約り居間を腰掛けにしたといふことは、田舍から來た年寄りや其他種々な人達にも歡迎されてゐるようでありますから、是は先づ可かつたと致しましても、寢室に寢臺を用ひた事は、縮尻ッた一つだと思ひます。一体日本人の習慣と致しまして、夜具は、どうも、暖いといふよりも、寧ろ、重いといふ感を與へるようなものを掛けなければ承知しない傾向があります。そして、習慣にも依りますが、日本人はよく寢返りを遣る癖があります。

から、寢臺でも、冬分などでは毛布を掛けた上に重い布團を掛けなければ、どうも寢心地がよくない。そして屢々寢返りを遣るから、布團がおッこちるといふ様な事で、初め一晩や二晩は、寢臺の氣持たら、非常に身柄の當りが良くていゝ氣持ちだ、と褒めて居りますが、扨て三晩四晩となりますと、布團がおッこちていかないといふような小言を聞きます。ですから、寢室には一部分に疊又は疊様なものを敷いて、從來の習慣で育つて來た人達にも差支へないようにしなければならぬ、と思ふて居ります。殊に着物の方から考へましても、寢臺の上で着物を疊むといふことは、始末の惡いものですから、矢張り現在の風俗習慣では、居間、食堂、應接室、書齋抔は腰掛けにしても、寢室抔は尚ほ少々考へなければならぬと思ひます。ですから、『翔雲莊』に寢臺を用ひた事も、失敗の一つではないかと思ふて居ります。

次に是は失敗といふ言葉を用ゆる事の必ずしも妥當でないかも知れませんが、『翔雲莊』建築が出來上つて後に初めて氣附いた事、とでも申しましようか、兎に角豫期しなかつた事でありますが、

それは、便所を洗滌式に爲た事です。洗滌式な便所の非常に氣持のよいものであるのは申すまでもない事ですが、『翔雲莊』に用ひてゐるのは、獨逸で遣つたのへ私の考案を加へたもので、非常に具合がよろしい、けれども、唯木造の我々のような小さい家ですと、夜分抔は其洗滌する時の音、例のザア——ッといふ音が反響して喧しい。隨つて其近くへ寢臺を取つた場合、他の人が便所へ住く度毎に目を醒す、といふ不便があります。

今一つは泥棒の事ですが、泥棒には怎うも硝子は取扱ひ惡いと見へます。そして窓が地面よりも非常に高くなつて居りますから、斯ういふ所へは遣つて來ないらしい、隨つて、斯ういふ建物に對しては、先づ最初に襲ふて來るのが出入口の樣であります。私の方も一番初めに浴室の掃除口へ來たのですが、それが開かないので、今度は臺所の出入口へ來て、それも開かないものですから、玄關へ來たのです。其内に家人の目が醒めたといふ樣な事で、前後三回ですが、彼樣な譯ですから、臺所の出入口だと云つても、粗末な錠前抔を使はないで矢張り相當な錠前を用ゆる必要がありはしないかと存じます。

それから『翔雲莊』の熱の設備は一切電氣を用ひて居りますが、遣つて見ると成程非常に便利で、氣持が良く、少し位値段が高くても、皆な電氣で遣つて了ふ事は、大層宜しい事だと思ひます。唯實際使つてみますと、從來日本出來の電氣器具が非常に不完全——Construction も Design も大に改良を要すと思ひます。是は前から承知してゐたものゝ實際使つてみて、豫期以上に不完全な事を實驗したのです。それから電氣の開閉器抔も「オン」とか「ミデアム」とか「オフ」とか「スロー」とか「フアースト」とかの符合によつて、それを廻轉するに隨ひ電熱が周波するのですが、それは英字で書いてありますから、女中抔は殊に私方のは子守ですから幾ら敎へて遣つても解らない儘、唯字の格搆で遣るのですから、餘程能く敎へて置かなければならぬ不便があります。是は日本出來ですからもう少し誰れにでも解るやうにしたらばと思ひます』と。

記者は、尚ほ此の上に記者自身蛇足を加ふるの寧ろ無要ならざるなきかを思ふ。尚ほ詳細を知らむとする讀者は、牡鹿青葉に谺す山崎の郷、涓涘の溪流青嵐に碎くる『翔雲莊』を訪はれたい、但し莊主の御迷惑なるは保証の限りでない。序に書き加へて置くが、氏は住宅建築と氏の意見を物されたる冊子『住宅に就いて』を同好に頒たれて、既に第二輯に及び、更に近く其第三輯を頒たれるようである。氏の住宅建築に就いての高見は恐らく是れによつて充分窺い得られると思ふが、氏の謙遜なる是を載する事の許容きれざるを、記者は遺憾に思ふ。（畢）

×うしろから馬の面出す清水哉

×骨痩の我骨探る寐覺かな



大阪ビルディング細見（上）

華城閑人

總數と種別と坪數と構造

大阪市に於ける、ビルディングに就いては、本誌第五輯第四號に其概要を紹介せしと、讀者各位の尚ほ記臆に新なる處ならむと思ふ。斯る盡さゞりし記事も、幸に、讀者の歡迎さる處なりしものゝ如く、爾來其反響とも觀るべき事實に接したる事は、記者の望外とする處である。而して、爾來、三四ケ月内にビルディングの續出せるもの、及び前回に調査資料を得ざりしもの等を合せて、今や、大阪都市に於けるビルディングは、尚ほヨリ以上の多數と成つてゐる仍て、記者は、此處に再びビルディングを大觀上より紹介すると共に、其細見をも併せて誌すことゝした。

先づ、ビルディングの總數より云はゞ、本年五月現在に於て、既設のもの三十六、建築中及び設計中のもの各二といふ實況である。之を所在地別にすると、既設のもの、東區十三、西區十一、北區十、南區二、建築中のもの北區二、設計中のもの東區二、といふ分布になる。但し、等しくビルディ

ングといふも、是には幾多の區別があり、單純に貸事務所としてのみ觀ることの出來得ない關係がある。即ち、概括的に云はゝ『專用』と『兼用』の二つに分け得るが、專用は、申す迄もなく、全然貸事務所としての目的を以て建築——否な寧ろ供給されたもの、と云つた方がいゝ。兼用は、建物の或部分を貸事務所として供給せるものである。而して、是には、更らに二種の區別を見ることが出來得る。即ち、建物の一部を自家の事務所用とし、他の部分を貸事務所用とする目的を以て建築されたもの、其二は、全部自家用として建築されたものなるも、或時期より、諸種の事由例へば業務の縮少等にて、其幾部を貸事務所に供給せるもの、斯の二つである。殊に前者即ち當初より自他併用を目的として建築されしものゝ內、殊に面白き現象は、『大阪商工社』附屬のビルディングと、(大阪商工社)ユニオンビルディングである。前者は、證券交換所の營業時間中、其組合員たる有價證券賣買業者に限りて使用され、後者は、二階の六坪程なる一室を共同事務室に供し、室內に事務用卓子六脚を据へ付け、其卓上毎に卓上電話を備へ、それに婦人事務員を附して、卓子一脚を一事務所として貸附ける樣になつてゐる。以上を計數的に觀れば、專用十二にして、東區三、西區三、南區一、北區五。兼用二十四にして、東區十西區八、南區一、北區五、といふ割合になつてゐる。而し、其所有主別に觀む歟、會社十五、個人七、倉庫一、組合一、といふことになつてゐる。

更に、其坪數と構造の奈何を觀るに、其全體、即ち三十六箇所のビルディングの坪數合計は、敷地八千九百六坪四八五、建坪五千七百八十七坪七三八、延坪一萬九千百四十二坪五三にして、最大のもの、敷地一千百三十四坪八七五、建坪九百四十九坪六、延坪三千六百九十七坪にして、最小なるものは、建坪二十五坪に過ぎざるものがある。構造は、鐵骨、鐵筋コンクリートを主とし、煉瓦、石造のもの是に次ぎ、木造建築に到つては、勿論其構造の關係からでもあるが、孰も小規模のものに過ぎない。

階數と高度と室數と室坪數

階數に於ては、『堂島ビルディング』の十階(地下室共)を最高とし、坂下ビルディング及び他四個のビルディングの二階を最低とするが、其高サに於ては、野村ビルディングの九階百二十三尺五寸を最高とする。之を階數及高サ別に列擧せば、十階(一〇〇尺)九階(一二三尺五)八階(九九尺)六階(一〇二尺、九一尺五、七八尺、七五尺、五九尺九)五階(八〇尺、六九尺九、六四尺、五八尺九、五七尺)四階(五一尺、四五尺、四四尺五、四二尺四、三九尺三、三六尺)三階(七八尺、七七尺、七〇尺、四五尺、四四尺五、三九尺四、三八尺、三七尺、三五尺、三五尺、三三尺、二三三尺)

次に室數奈何を觀む歟、合計七百十室七千三百三十九坪四四六にして、平均一室當坪數九坪三一而して、最大七十九坪一六、最小二坪、之を各區別に觀れば、東區十三箇のビルディングにして、二百四十二室、二千七百九拾坪六二二、西區十一箇百八十室千六百二十六坪六六六、南區二箇五十室五百三十九坪〇九〇、北區十箇二百四十二室二千三百八十三坪〇六八である。

建築費は、三十六箇のビルディング中、種々な事情に由りて算出し難きもの八箇を除き、殘り二十八箇のビルディングに就いて觀れば、建築費總額八百二十五萬九千十九圓にして、平均一箇所二十九萬四千九百六十四圓、平均坪當り二千一圓となる勘定である。

ビルディング各箇別細觀

記者は尙ほ誌すべき事の多くを有してゐる。けれども、以上は、大觀的に誌したのに過ぎないから、ビルディング建築としての實際を知らむには素より箇々のそれを詳にせねばならぬ、仍つて、先づ、左に二三の表を擧げて、箇別的に概念を掬へ、而して其他の記事に進む事としよう。

(A) 既設ビルディング

竣工年月	名稱	所有主又は經營者	區別	所在地
二年十一月	百三十銀行曾根崎支店貸事務所	株式會社百三十銀行曾根崎支店	北區	曾根崎上三丁目一五五ノ六
十二月	大阪株式取引所附屬館	大阪株式取引所	東區	北濱二丁目一
三年六月	三井銀行貸事務室	三井合名會社	同	高麗橋二丁目一
四年三月	西垣貸事務所	西垣重之助	北區	安治川上通一丁目三、四
六年七月	浪華倉庫ビルデイング	株式會社浪華倉庫	同	堂島濱通三丁目三
七年八月	四ツ橋建物株式會社	同 上	南區	鰻谷西之町一二
十一月	範多商店	範多竜太郎	西區	川口町一二
八年一月	泉ビルデイング	泉商事株式會社	東區	北濱四丁目一三
五月	南海晒粉ビルデイング	南海晒粉株式會社	西區	京町堀通一丁目五四、五五
十月	加島銀行船場支店貸事務室	株式會社加島銀行	東區	北久太郎町二丁目一五
十一月	福徳館	福徳生命保險株式會社	北區	堂島濱通一丁目一五
九年一月	日支合商棧(一名百番館)	村井徹四郎	西區	川口町乙一七
三月	川口ビルデイング	宮下宅平	同	同 八
五月	大阪證券交換所ビルデイング	株式會社大阪證券交換所	東區	高麗橋一丁目一
同	中之島ビルデイング	山口幸太郎	北區	宗是町一〇
七月	愛國貯金銀行ビルデイング	株式會社愛國貯金銀行	南區	長堀橋筋一丁目二三ノ一
同	大阪鐵商倶樂部	株式會社鐵商倶樂部	西區	新町通四丁目五
八月	吉田ビルデイング	吉田作次郎	北區	北野高垣町
十一月	阪急ビルデイング	阪神急行電鐵株式會社	同	北野角田町三二五
同	黒川ビルデイング	黒川幸七	東區	北久太郎町二丁目四三
十二月	増田正雄商店	増田正雄	西區	江戸堀南通四丁目一一
十年一月	梅田ビルデイング	柴清治郎	北區	曾根崎上三丁目一七八
四月	淡路町ビルデイング	株式會社住友銀行備後町支店	東區	淡路町三丁目二〇

六月	阪上ビルディング	阪上常吉、阪上伊太郎	西區	幸町	一丁目七
九月	大江ビルディング	大江ビルヂング株式會社	北區	絹笠	町九
十月	北濱ビルディング	株式會社北濱ビルヂング	東區	北濱	三丁目八〇ノ一
	住友銀行川口ビルディング	株式會社住友銀行	西區	本田通	一丁目四九ノ七
同（引繼）	神田ビルディング（大正九年四月茂木ビルディングとして一部開始）	神田合名會社	東區	今橋	二丁目一九
十二月	北濱野村ビルディング	野村本店地所部	同	北濱	一丁目六七
同	安土町ビルディング	株式會社伊藤萬商店	東區	安土町	四丁目八九
同	岡橋貸事務所	岡橋治助	西區	北堀江	三番町五二
同	日本海事工業株式會社	同 上	同	江戸堀上通	一丁目一九
十一年一月	大阪商工社ユニオンビルディング	濱口明三	東區	大川町	三
四月	大阪毎日ビルディング	株式會社大阪毎日新聞社	北區	堂島裏町	二丁目三六
同	報德銀行ビルディング	株式會社報德銀行	東區	今橋	二丁目七ノ四
五月	日本海上保險株式會社	同 上	西區	江戸堀上通	一丁目二一二五

（B）建築中のもの

落成豫定	名稱	所有主	區別	所在地
十一年六月	梅ケ枝ビルディング	岡田萬次郎	北區	梅ケ枝町八六六
十二年五月	堂島ビルディング	株式會社堂島ビルディング	同	堂島濱通一丁目船大工町

（C）設計中のもの

名稱	豫定地
株式會社大阪染料倶樂部	東區北久寶寺町一丁目四三、四四
株式會社ナニハビルディング	同　北濱一丁目三五

以上によつてみれば、大正八年頃より漸次ビルディング建築が殷と成り、大正二年より六年までは一年箇の建築を見しもの、大正七年には二箇と成り、八年には四箇、九年には一躍十箇と成り、十年には更に十一箇、十一年は今半にして竣工のもの四箇既建築中のもの二箇設計中のもの更に二箇を有するに至つてゐる、蓋し斯の狀勢を以てすれば、我大阪都市に於けるビルディング建築は益々多かるべきを察するに難からない。

（D）ビルディング各箇階數及高度

區別	名稱	階級	高さ尺
北區	東區ビルディング	地下室共九階	一二三、五
西區	日本海上保險會社	六階	一〇二、〇
北區	ビルディング	十階	一〇〇、〇
東區	ビルディング	八階	九九、〇
北區	ビルディング	六階	九一、五
同	德　館	五階	八〇、〇
同	ビルディング	六階	七八、〇
同	倉庫ビルディング	三階	七八、〇
同	俱樂部	地下室共六階	七七、〇
西區	ビルディング	阪急ビルディング	七五、〇
北區	ビルディング	三階	七〇、〇
東區	ビルディング	五階	六九、六
西區	銀行會社	地下室共五階	六四、〇
東區	事務所	六階	五九、九
同	ビルディング	五階	五八、九
同	ビルディング	五階	五七、〇
北區	ビルディング	四階	五一、〇
西區	ビルディング	四階	四五、〇
北區	ビルディング	三階	四五、〇
同	ビルディング	四階	四四、五
東區	ビルディング	地下室共四階	四四、五
同	ビルディング	四階	四三、四
北區	ビルディング	三階	三九、四
東區	事務所附屬館	地下室共四階	三九、三
西區	貸事務所	三階	三八、〇
東區	ビルディング	同	三七、〇
西區	事工業株式會社	地下室共四階	三六、〇
東區	貸事務室	三階	三五、〇
北區	ビルディング	同	三五、〇
同	貸事務所	地下室共三階	三三、二
南區	建物株式會社	三階	三三、〇
東區	銀行會根崎支店	三階	百三十

（E）建築費

西區					
日本海上保險株式會社	七九二、〇〇〇円				
住友銀行川口ビルディング	五〇〇、〇〇〇				
大阪鐵商倶樂部	一二〇、一五〇				
南海晒粉ビルディング	一〇〇、〇〇〇				
岡橋貸事務所	四三、〇〇〇				
增田正雄商店事務所	三五、〇〇〇				
日支合商棧(加工費)	一三、〇〇〇				
阪急ビルディング	一〇、〇〇〇				
計	一、六一三、五〇	一八三、一三	三、二三二、五〇六	九四九、六〇	
南區					
愛國貯金銀行ビルディング	七〇、〇〇〇	七一、四〇	大阪毎日ビルディング	約二、〇〇〇、〇〇〇	
東區			大江ビルディング	五七三、二〇〇	二二八、六一
北濱野村ビルディング	八五〇、〇〇〇	一一五、〇九	福徳館	三五一、一六三	一六一、〇〇
神田ビルディング	七二〇、〇〇〇	二一三、三〇	阪急ビルディング	二〇〇、〇〇〇	八三、一九
黒川ビルディング	六〇〇、〇〇〇	二三三、五七	百三十銀行曾根崎支店	六五、〇〇〇	九六、〇〇
北濱ビルディング	四四九、七九三	四五、七一	中之島ビルディング	五〇、〇〇〇	六五、〇〇
報德證券ビルディング	一七五、〇〇〇	七七、〇〇	西垣貸事務所	四五、〇〇〇	二〇二、〇〇
安土町ビルディング	一二九、〇〇〇	六二、二五	梅田ビルヂング	三六、〇〇〇	九四、〇三
加島銀行船場支店貸事務室	一〇九、七二七	一一、三三	吉田ビルディング	二三、〇〇〇	二五、〇〇
株式取引所附屬館	一〇八、九八六	一三〇、六四	計	三、三四三、三六三	一、九〇四、四三
大阪證券交換所ビルディング	五〇、〇〇〇	二九五、〇〇	合計	八、二五九、〇一九	、〇九八、二七八
泉ビルディング	四〇、〇〇〇	四三、一六		×	×



東京建築だより（二）

三菱ケ原の高層建築―帝國ホテルの新築―大船の田園都市

鵬心生

口前號の『大阪建築だより』を讀んで、東京と比べて考へてみたが、東京でも大抵同じ事が云へるやうである。尤も東京では宮城があり、諸官省があり、山の手の住宅地域が比較的廣いので、商工業地域や工場地域の比例は小さくなり、從つて耐火耐震高層建築の百分比は、大阪に比べて一層少くなるであらう。

口併し丸の内三菱ケ原を中心とする會社、銀行、事務所の建築と、日本橋を中心とする會社、商店の建築とは、今や驚く可き勢で發展しつゝある。試みに三越の七階テレースの南端に立つて眺めると、先づ丸の内ビルディングを始めとし、日本郵船會社、日本石油會社、東京會館、三菱銀行、日本興業銀行、保善社、横濱正金銀行、朝鮮銀行等何れも多くは五階から七階の鐵骨鐵筋混凝土建築が見える。中で三菱銀行と朝鮮銀行とは既に竣工し、丸の内ビルディング、日本郵船、東京會館、日本石油等は外壁既に成つて其の雄姿を現はして

ゐる。

□實は今回は竣工せる二銀行を始めとし、他の諸建築の寫眞を掲げて、一つ〳〵感想を述べたいと思つてゐたが、多忙の爲め撮影の暇なく、次號に讓らざるを得ないのは、遺憾である。次號では必ず之れを掲載する御約束をして置く。

□三菱村を去つて、南日比谷公園の傍まで來ると注目すべき工事中の一建築がある。其の材料樣式手法ともに頗る珍らしい建築である。これ即ち米國建築技師フランク●ライト氏の設計監督に係る帝國ホテルの新築である。此の建築は、非常に變つてゐるので、今から衆人の注意を惹き、專門家にも素人にも批評され噂され、善惡種々の言が下されてゐる。

□之れを非難する人は、都會の中央のホテルとして其の色や形が相應はしくないと云ひ、又地價高き所に三階建を建てるのは勿體ないと云ふ。何れも理窟はあるが、日比谷公園に沿ひ、公園に正面を向けてゐる建築であるから、三菱の高層建築の間に建てられたのとは譯が違ひ、全然場所に適しないとも云へないと思ふ。唯あの場所で三階建は如何にも勿體ない。低くも四階位にはしたかつたと思ふ。尤も中央の本屋は四階になる筈であるから、これに對して兩翼が三階なのは、比例上面白いかも知れない。

□細部の手法は中々面白い。近頃の高層建築が多くは裝飾のないプレーンの外觀を有するのに比べて、之れは裝飾の多い、美術的感じの豊かなものである。詳細の批評は、後に寫眞を掲げて述べたいと思ふが、兎に角面白い建築である。猶未完成であるから本當の批評は竣工の後に讓るべきものであらう。

□郊外住宅地、田園都市の如きものは、大阪の方が東京よりも發達してゐるやうである。これは市外の住宅に大阪の方がより缺乏してゐる爲めでもあらう。又市外に住宅好適地が多い爲めもあらう之れに反して東京では、市外の住宅が比較的多く、市外に新たな住宅好適地が少い爲めであらう

□然るに東京市外に於ける田園都市が、先頃來そろ〳〵企てられてゐる。其の一つは大船田園都

市株式會社のもので、二つは玉川の田園都市株式會社のものである。前者は目下地均し工事中で、之れに建築すべき住宅の設計圖案が懸賞で募集されつゝあゝ。土地も此の夏頃から希望者の申込に應ずるさうである。藝術趣味豊かな渡邊六郎氏を專務とし、藝術殊に建築にも趣味深き福原信三氏を取締役としてゐる丈けに、藝術的にも立派な田園都市が出來上る事と思ふ。玉川のは澁澤子爵の令息等によつて經營され、やゝ遲れる樣である。口大船は省線が電車となつた曉には可なり便利となり、日曜などは江の島鎌倉逗子箱根等に遊ぶ便もある。玉川のは目黒驛の所まで新たに該會社で電車を布くさうである。

口大船の方は、全部外觀を洋風に限るか、少くとも日本風の外觀のものは一部の區域内に制限するさうである。これも相率ゐて文化生活を營まうとするには必要な制限であらう。垣の如きは、六尺以下に限り、相互に前庭も後庭も見えるやうにしたいと渡邊氏は語られた。百坪位の地所で、氣持よく住むには必要條件である。これは今でも實行したいと思ふが、私の家一軒丈け實現しても効果はないから、是非とも多くの者が一致して實現する外はない。それには會社の規定として、豫めこれを承認して貰ふのが最上の方法である。猶此の田園都市についても、進捗するにつれて實現を見て感想を述べたいと思つてゐる。（六月十五日夜）

我宿は
下手の立てたる
暑かな

田園都市への憧れ

太田寛吾

趣味性と實際と

最近田園都市の建設がしきりに提唱され、これに伴ふかなりの研究と注意を拂ふやうになつたことは、まことに結構なことであります。いふまでもなく、理想的田園都市が實現するならば、生活の愉快と簡易とを計ることが出來て、近頃やかましく論議されてゐる、生活改善も、簡易生活も、ともに解決されることは明かです。

いつたい、現代文明はあらゆる方面において破壞を試み、そして新しく建設しやうといふのであります。けれども私はその一面において、舊きを慕ひ原始時代に歸らうとする、多くの人々の存することゝ、その努力を認めずにはゐられません。土を排し地を斥ける現代文明の反面に、土を憧れて田園に趁らうとする都會の人々がそれなのですそこに人類としての美はしい性情が發露し、不滅の趣味性が窺はれるのです。田園都市は反物質文明の一つの現象であります。

これを實際生活の上から見ても、社會が次第に複雜になつて、生存競爭が劇しくなつて來ると、同じ働くにしても能率的に働き、より多くの効果を收めることに努めねばなりません。それにはどうしても適當な休養時間と、慰安の途を講ずることが肝要であります。それに今日のやうに住宅も事務所も雜然混然として、常に働くでもなく働かぬでもないといつたやうな狀態にあつては、人間の幸福、勞働能率からいつても實に不利不經濟なことであります。

されば田園都市の建設は、いづれの方面から見ても、我國においては急を要する問題であります

語原と都市運動

田園都市といふ語は、英語のガーデン・シティか

ら來たもので、一八六九年米國において、アレキサンダー・テイ・ステワルトが紐育から二十哩ばかり離れた、ロングアイランドといふ所に新都市を造り、これにガーデン、シテイと名づけたのが嚆矢だらうといはれてゐます。尤も英國においては一八九〇年頃、エベネザー・ハアワアードとセンネット兩氏が專ら提唱した理想的新都市運動があつて、十九世紀の中頃から急激な發達を遂げましたが、これは遂に行詰つた近代都市に對する救濟運動となつたのであります。

ガーデン・シテイの最も世人の注意を喚起したのは一八九八年倫敦でハアワアードが小冊子『明日』を出版して、一理想的新都市の建設を叫んだことです。それと前後してセンネットも『田園都市』を著して、非常に世間の注意を惹きました英國に理想的田園都市を見るに至つたのは、全くこれ等が與つて力があるといはれてゐます。

各國の田園都市

彼の有名なレッチウオースはハアワアードの主唱の下に、一九〇二年資本金二十萬圓で創立された田園都市先達株式會社においてレッチウオースに三千八百エーカーの土地を購ひ、各種の設備を整へて、第一田園都市株式會社（資本金三百萬圓）に讓り渡したものです。

レッチウオースは倫敦から三十五哩北方、大北鐵道の支線に沿ひ、ケンブリッヂには一日五十二回の汽車便があり、僅かに四十二分間で行くことが出來るのです。人口は三萬人を限り、中央に都市區域を設け、周圍には全面積の約三分の二に當る農業地を劃し、永久に田園趣味を維持する設計になつてゐるさうで、都市は勿論工業地區と住宅地區に分けてあります。一九二〇年の調査によると人口八千、建物は既に二千四百戸出來上り、その內住宅二千二百八十二戸、商店八十二戸、工場會社八十二戸、公共建築物二十九戸に達してゐます。

この外英國にはレッチウオース建設前に出來たもので、ウ井リアム・レバー卿のポートサン・ライトを始めジョージカドバレーのボルンビル、イーリング、ウツドランド、ハムステット、オールド

ハム、アルクリントン、イーアウイック、ワーリングトン、オンスローなどがあります。また最近には第二の田園都市ウエールウイーンが建設されつゝあります。これは一九一九年成立したウエールウイン田園都市會社の計畫でありまして、倫敦から二十一哩ヘルトフォードシヤイアールにありウエルウイールとハットフィールドの間にある二千三百エーカーの傾斜地に、四萬乃至五萬人を收容しやうとする極めて大規模なものです。

斯くの如く急激に進展した英國の田園都市運動は、遂にその餘波を歐洲大陸に及ぼさずにはゐませんでした。先づ獨逸ではドレスデン郊外のヘレラフ、伯林近郊のフロナウ、ミエンヘン附近のベルラなど、何れも有名なものです。そしてその規模の最も宏大なのと設備の完全な點からいふと、エッセンのクルップ會社經營のハアワアードを擧げねばなりません。運動の提唱前一八五六年から經營されてゐることゝ、理想的職工住宅であることは異數とされてゐます。

米國にあつては、彼のロングアイランドのガーデン・シテイを始めとして、紐育に近いものにフオレスト・ヒル、ボストンに近くビリリーカ・ガーデン・サブーブ・ブルマン車輛會社の住宅地、ミネソタ鋼鐵會社のもの、桑港郊外のものなど枚擧に遑がない程です。

その他佛國のムニエー氏のノアジル、瑞西のセクエールなども相當知られてゐるものであります

田園都市の特徴

田園都市の最も特徴とするところは、現代都市のやうに人家の密接してゐないことであります。土地その他の關係もあつて、各國各地一樣とは申されませんが、原則としてはその住宅において、一エーカー（四反二十四歩）に對して五軒か六軒、多くても十二軒ぐらゐに制限されてゐます。

そして一例としてレッチウオースの設計をあげると、その建坪の如きも住宅の場合において敷地面積の六分の一より多からざること、倉庫や商店などの場合において同じく三分の一より多からざることに規定されてゐるのです。住宅地區には勿論各戸に氣持の好い前庭があり、殊に蔬菜園や果

樹園まで設けられて、四時自然の美しさを眺むることが出來るやうになつてゐます。工場地區は風下の地に離れて、あくどい臭氣も煤煙の飛來も充分防ぐことが出來ます。その他都市の中心地から一歩踏み出すと、そこには農業地帶がひろごつてゐて、空氣の清淨自然の調和は人の幸福を齎さずにはゐません。從つてレッチウオースそのものは宛ら一大公園のやうな感があるのです。

健康と田園都市

田園都市は眞に人類の創造し得る樂園であります。かゝる樂園に居住する者は常に平和であり、愉快でありますから、いきほひ健康に幸せずにはおきません。試みに兒童死亡率について見ると、

一九一二年の乳兒死亡率は千人中、

英國及ウェールスにおいて　九五人

レッチウオースにおいて　五〇・六人

であつて、その差の著しさに驚くでありませう。なほボートサン・ライトのレバー卿の調査したところによりますと、ボートサン・ライトの幼年勞働者は、リバープールの富有の同年輩の學童よりも丈高く體量は遙かに重いといふことです。

更に大人の死亡率について見ると一九一二年に同じく千人に對して

レッチウオース田園都市　八・八人

英國全體の平均　一三人

倫敦を含む五萬以上の英國五都市平均一四・一人

二萬乃至五萬の同國一四六小都市平均一四・六人

といふ數字を示してゐます。即ち田園都市にあつては、何れの地方の死亡率よりも小であることが判ると同時に、如何に田園都市がその居住者の健康を助けつゝあるかを知るに足るではありませんか。

我が都市と近郊

田園都市の建設は、ほんたうに喫緊な問題であります。その提唱は單なる理想ばかりではありません。殺風景で無秩序きはまる現代都市は、今日全く行詰つてゐるのです。これを救濟するには僅かに一途、田園都市の建設にあるばかりであります。

我國においても東京、大阪その他の大都市の近

郊に、近年變則ながら極めて小規模なものが出來かゝつてゐます。けれどもそれは名こそ郊外住宅であり、田園住宅であるけれども、實際は商工業の殷賑發展に追詰められて、やむなく街の中央から遙かな郊外へ避難したといふに過ぎないのです文字や名のみの美しさで、實質のこれに伴はないものは未だ私どもの滿足するところではありませぬ。

いつたい我都市の近郊は、發達の程度においてまことに遲々たるものがあります。それには種々な理由がありませうが、概して無秩序無成算に範圍が膨脹する儘に任せてゐることに、大なる原因をなしてゐることは見逃すことの出來ない事實です。この點において、最近著々その歩を進められてゐる都市計畫事業に、私は甚大の望みを囑するものであります。それと同時に田園都市の必要を一般に徹底せしめ國家も團體も個人も共にこの問題について、充分に研究し理解して、近き將來その實行を容易ならしむることに努むることが肝要であります。

現在の郊外生活

私は最後に我都市の郊外生活について一瞥を與へて筆を擱きます。

それは東京にしろ大阪にしろ、郊外であるかぎり、田園と都市の溶合地帶であつて、人工美と自然美と接觸した美しいところに相違ありません。けれども都會の中心から追出された底の中産階級殊に俸給生活者の居住地としては、あまりに懸け離れた沒理想的なものであります。農夫や富豪など祖先傳來の土地住宅を持ち或はあり餘る金を以てある限界以上の生活を營み得るものは、勿論この限りではないのです。

最も甚しいものはその住宅の粗末なことであります。僅かな家賃で全然理想的な家を得ることは無理としても、せめて『氣持の好い家』は造らねばなりません。家賃の都會地より三四割以上も高いといふことは、如何にも一顧を要さねばならぬことです。衞生設備も全く缺如してゐます。水道や瓦斯や又は下水溝なども殆んど敷設されてゐない爲め、傳染病流行時の危險は想像以上であります

更に居住者を最も脅威せしむるものは、諸物價の著しく高率なことです。これには交通の不便が最大因をなしてゐます。郊外電車は間斷なく往來してゐても、その料金の高率は延いて諸物價に影響するのです。その他娯樂機關のないこと、人情の輕薄なことなどかなり缺點が多いのです。

これは未だ過渡期にある郊外として幾ぶんやむを得ないとしても、その經營者の無自覺にも多大の責任があります。自己の利益以外何ものもない土地住宅經營者に、何時までも放任しておくことは、眞の理想的郊外地を建設する所以ではありません。この意味においても田園都市の建設は急務でありまして、一日も速かに實現されんことを希望する次第であります。（一九二一・五・一〇）

附記　記事中各國の實例などは、主として高橋卯三郎氏の所說を參考にしたことを斷つておきます。

簡明なれ、直截なれ　——サルデエン——

行脚の跡

建築士　津田鑿

桑港（一）

桑港の金門公園の中央小高き丘上に一九〇五年の地震前まで圓柱を建て連ねた廻廊風の車廻しがあつた其時分別に驚く程の美的又は廣大　る建築ではなく隨つて單に其の一角にある狹苦しい石の廻り階段から陸屋根に出で眺望を肆にする位のものであつた同年の大地震は此の建物の一部を崩毀した幸か不幸か偶然にも之れが鐵筋コンクリート構造であるのと同時に鐵が少しの錆を持つて居らぬと云ふ事から專門家の參考として垂涎する事になつて

同工法鐵の腐蝕に對する疑念を一掃し得た効果があつた事を當時報道されて居る自分は其破毀せざる前の建物を知つて居るので未だ眼の當りに彷彿たるものである由來十八年昨年旅行の途懷かしい又一つには貴重なる學術的の遺物がどうなつて居るかを樂みに着桑の日、直に此の丘に登つた。

附近の樣子は月變り星遷りし今日樹は依然として綠に鳥は長閑に昔に變らず樂しそうに唱つて居る併し大なる期待は全くはづれた意外にも建物の跡は餘り手際よく片付けられて僅か一部分と三尺位の壁が取殘されて居るに過ぎない。

之れとても階段石を据付けた位で破毀した形跡又は何等參考となるべき何物をも見出す事が出來ない。

自分は必ずしも羅馬の劇場の跡に見る如き無暗に古物を強ゆる物好きではないが鐵筋コンクリート構造に關したる實例の參考として、もう少し意義ある保存がしてある事を祈つた無頓着なる米人の腦裡に毀れた物は片付ればそれで濟むと云ふ簡單なる所置には自分は反對である、せめて其一角を其儘に地震の恐る可き且つ之れに抵抗し得る新し

き構造の偉力を示す生きた標本を殘したいものである、自分は當時を追想し轉た今昔の感に耐へず、暫らく去るに忍びなかつた、僅かに殘された一塊の壁から地上に投げられた影を無心に見詰めながら無量の感に打たれ靜かに丘を降つた。

華盛頓（二）

著盛頓市は米國中稀に見る樹木の多い所で建物と良く調和された美麗な都市であると云ふ事は周知の事である、そうして自分が時に感じた事は觀光の爲め乘合自働車の說明者が有名な建物を紹介するに之は何々館で建築家某の建てられたものであると云ふ事を附け加へる、其場合甚だ嬉しい樣な又我身に引き較べて責任を感ずる樣な氣がする。尤も之は單に日光や芝の東照宮で繪は狩野欄間は左甚五郎の彫刻と云はれると同じ理由ではあるが夫れはほんの一局部分の事に過ぎない、大小を論せず一つの建築物に對しては之れは何々氏の建てたものと紹介さるゝ光榮は其れ程に建築の理解が一般にあるかと思ふと鼻が高くなる樣な氣がする東京市中の鐵橋に設計者の姓名が出て居るが建築物には吾々の姓名を物によりては顯はし得ない、且つ現在でも二三の大建築物を除いて誰の設計やら本職以外知らない樣な狀態である、之れは別に賣名と云ふ次第ではないが一般に建築の理解せらるゝと共に知らしめ又知りたいものである。

華盛頓の乘合自働車の案內人が齒切の良い發音で大きな『メカホン』から迸り出で來る建物の名と設計者の姓名とは未だ耳に殘つて回想の種である。綠の鄕華盛頓忘れられぬ處である。

バークレー（三）

加州バークレーの大學構內に最近出來た圖書館がある設備完全であり、入間でさへあれば誰でも出入自由で別に切符を買ふ世話もなければ館番が見張るでもない廣間は丁度ホテルか俱樂部の樣な賑かな事である、外套や所持品を預ける處もなく勝手な處に掛けて相當に距離のある讀書室に行き何等の間違がないのに驚いた。

如何に公開自由でも吾々の習慣で氣愧しながら讀

書中に所位品の事が氣にかゝる案内の勞を執られた知人に國の狀態を話して笑はれた、圖書館に入場料を出さず出入して且つ必要の書物は無斷で出して歸りに又棚に入れてある樣な手輕な處を一ヶ所位は造り度いものである。

紐育（四）

歷史の新しい處丈けに無暗に何んでも早く錆を附けたかるがそうは問屋で卸さぬ、あれでも歐洲にある樣な時代のついた古い物があつたらそれこそどれ位威張出すか際限がない事であらう、月日は一足飛には經たぬ、時は金でもどうする事も出來ぬ、百五十年位前のものを無理に三千年も前の物に見せようとしても駄目である、其代り又汚れるとワシントン議事堂の外壁をペンキで塗替て白く見せて喜んで居る處だから稚氣滿々で却つて罪がなからう。

羅馬（五）

羅馬の町は京都と云ふ具合である、城跡や古い殿堂又は凱旋門毀れ殘りの柱や見る物何れも幾千年の昔を追想の種である、此處には新らしい目立つ建築をする必要はない、折角の古い都に最近出來上つた金ぴかの紀念堂や新築中の銀行の如きは餘りに派手過ぎて、却つて落付きのある都をめちや〳〵にして仕舞ふ殘念な事である、丁度京都の四條に西洋建築の安物が出來たと同じ事で實に情ない世界の文化を誇つた此舊都名物は名物で置きたい羅馬の町は古道具屋らしい處に價値がある建築家は心得可き事である。

ロンドン（六）

倫敦の煤煙に灰色をした建物は落付きがあつて惡い感じはせぬ、併し何となく陰氣らしい處がないでもない保守的を誇ると云ふ譯でもなからうが極めて地味である、其れが建築にも顯はれて堅實とでも云ふか、どつしりとした點は慥に窺はれる。テームス河は隅田川と同樣餘り水は清くないが此河邊には到る處に名所舊跡有名な建物は枚擧に遑あらずと云ふ次第である、名物は俗に云ふ蛸壺で即ち各戸の煙突の頭部の土管の事で林の樣に立つて居るのは又壯觀である。

支那の木賃宿（七）

上海の町外れに一軒の安宿があつた、間口は僅かに九尺位奥深い家で入口を右に片寄せて左側に船の三等客用寢臺によく似た蠶の棚を幾段と重ね其處に木賃宿よろしく數十人の客が宿泊して居る、朝丁度僧侶らしい老人が起上つて是れから托鉢に出掛る樣子で頻りに身仕度をして居る上の棚には未だ白河夜舟の人があるらしく、こうした暢氣な具合が窓から用捨なく見え透されて一向平氣なものである、深川や芝邊の安宿を想ひ比べて知つて此の方が同じ狹いにしてもごろ寢より遙かに泊り心地は惡くなさそうである安い人間を詰め込むには疊の上に轉かすより此方が得策であろう、南船北馬旅から旅へと流れ行く人々の如何なる夢を此處に結ぶであろうか。

米國の博覽會場（八）

市俄古や桑港の大博覽會の跡を見て歩くと毀し殘されたる建物が慘な姿をして立つて居るのを見て感慨無量である。何故なれば開會中は世人の眼を引き定めし相當の賛辭を受けた事であろう閉會後風霜幾多甚だ見苦しい形をして殘されて居るどうせ假建物の性質から何れの博覽會でも無暗に金をかけて半永久的の建物を造る譯はないから自然年代を經るにつけ錆の附く道理はない、寧ろ毀れ荒されほうだい塗り物は剝げ日一日と美觀を失ふは當然である。何故に當局者は御祭り騒ぎの跡を無責任で濟まして居るか甚だ疑問で會場特に建築に對する跡仕末の無責任は免がれぬ譏は確にある。流石は巴里や倫敦は大博覽會の跡は整然と殘す可きは殘され毀す可きは毀され或るものは一つの建物の中に保存されて居る、斯くある可きものである。

歐洲大戰に急造の木造船の跡始末にホドソン河口に列べて爆發して之れを活動寫眞に撮影しようとするヤンキーの仕事としては博覽會の建物の跡始末は意外の感に打たるゝは自分計りではあるまいと思ふ。

凱旋門（九）

同じ凱旋門又はマーブルアーチ到る處に澤山見らるゝ新らしいものより古い方が優づて居る、若い國程何んだか御粗末になる樣である、羅馬は古臭くとも確かに立派な御手本で何處でも大低此の眞似である、巴里のは大さに於ては頗る雄大であるが感じは前者が良い、ロンドンのマーブルアーチ一向面白くない、又チツポケなものだ殆んど本場と比較にならぬ、紐育に行くと尙貧弱極まるミヂメなアーチ恥しくもなくヨクあんなものが建てられたものである。世界一を誇る米國に此種の計畫がありそうなものだ、歷史としては今迄其機會がないからでもあろうか歐洲戰爭を紀念するに思ひ切つたドエライのを建てゝ一ツ鼻息の荒い處を驚かして貰ひ度い。

ベルサイユ宮殿と田舍家（十）

ベルサイユ宮殿、庭園の一隅に田舍家がある粗雜らしく見ゆるが其の實却々凝つた建物で幽雅な田園趣味を味ふに充分である、華麗雄大巨匠が魂を打ち込んだ宮殿に對して態と之の意匠は確かに良作である、對照の妙何處にか狙ひ處の當つて居る誠の藝術の妙味を遺憾なく發輝して居る、歐洲戰爭最後の幕に一層箔を付けた佛蘭西の得意思ふべしである、同時にベルサイユ宮殿の名は益々歷史的に輝き田吾作が驚かさるゝ鏡の間皇帝の居間色々の調度品に至る迄何れも勿体ない程の曰く付きで制服の案內者は旅人の袖の下を公然の利得と心得顏に色を付け根には一足飛びに花を咲かせて說明して居る。

深川岩崎邸內にも之れと同じ意味の百姓家が建てられてある廣大な邸宅の一隅に畑や畦道を造つて田には稻を植へ秋の收獲を偲ばせて居る此の着想は恰度ベルサイユ宮殿の田舍家と同じ筆法で東西趣味の一致と謂ふべき證據である。

自分は淸楚な田舍家を見た時に不可能を嘲つた英傑が日夜歡樂の巷に待女の進むる淫蕩生活や舞踏室の喧騷に飽き果てた曉、靜なる此の田舍家に獨り濁茶を味ふ時如何なる迷想に耽つたであろうかを追想しつゝ名殘り惜しくも巴里に去つた實に偉大なる藝術の力である。

生活の整理

實業家　外山捨造氏夫人

外山春子

世の中が多忙になればなる程私どもの生活は複雑になつてきます。文明の世――は私どもに進んだ科學のいろ〳〵を示し敎へてくれました。いゝ機械の發明、便利なものゝ考案、不明なものゝ證明、なほよりよきものゝ研究など。それに依て私どもは何の位の文明の恩澤に浴してゐるか知れません。殆んど昔の人の夢想だにもし得なかつた諸種の有難い恩惠を大方は何の氣なしに平氣で當然な思ひで使用し享けてゐます。それで私共の生活は勿論きのふよりも今日、一年前よりも來年に、と進歩し最善の改良、改造を計り實現されなければならないのは云ふまでもありません。然るに事實は、私ども大抵の人間の日常は改良、改善はおろか、改惡されつゝある事が實際だと云へるのです。便利な、簡單な、文明の利器を與へられながら、事實は一層それに依て人間の生活は複雑化しつゝあるものと云へませう。之は何に因るのでせうか。無論便利な機械、いゝ發明それ自身に以上の罪――人間生活を惡く誘ふところの原因があるものとは思へません。それは直にこの文明の利用者、即ち人間當人にあることを思はねばなりません。

世の中が益々複雑化し、形式化するに惱まされた人間は、漸く生活改善の理想を叫び出しました彼等は餘りに人間同志の面被りな生活の過重に厭きその弊に苦しめられました。結果は漸く私共の眞實を取返すべく當然『むだせぬ會』などが生れたのです。それは誠に當然な事でなければならないでせう。私どもは、今日出來る丈自分の生活――精神的にも物質的にも――を整理し一層自分の尠く短い生命を自分自身のものとして、及び自分自身を取卷く周圍の必要のものゝ爲に、育て養はな

ければならない時機に至つてゐます。

生活の整理――それは勘しく私どもが心を凝らして自分、及び周圍、社會を見渡した時に、何れ程の澤山に不經濟な不必要なものを見出すかに、恐らく何人も驚く程だらうと思ひます。むだせぬ會の主張する條件の數々、それは冠婚葬祭に附隨した無精神の形式、及び社交上の虚禮虚飾、誠にそれは僅かに人と人とが禮儀の爲に盡し合ふ誠心さへもが異常に發達しすぎ初めの精神を忘れました。斯うした例は更に自分自身の日常を振りかへつた時、人々は更に以上の多い『むだ』を發見するでせうと思ひます。

私はもう今日一般の餘りに廣く淺薄な社交界に出る事すらも好みません。現在のそれには、若し混つて多少の優れたものを得るにしても、より多く失ひ費すもの、方が多い位ゐに私はそれに期待を持たないものです。私一個の意見から云へば、私は殊に大阪流の派手に元氣に過ぎた社交界の空氣を好み得ない者なのです。私は只今はたゞ只管に自分一個の生活を整理すべく、それだけでもかなりに多忙な思ひで暮してゐるのですから、必要以外の事には時間を割く餘裕もなく心にも成り得ず、而も相當私は滿足した氣持で日を消してをります。（談）

……訪問記……
低い椅子と屋根の露臺
婦人記者

春子夫人は東京音樂學校出身で二三年前頃迄は大阪のピアノ同好會の幹事として働いてゐた人である。この頃はすつかりとさうした婦人の會合などには姿も見受けず、無論前述のやうな『生活の整理』に穩やかな心の安住地を見出した夫人は、この頃は殆んど濱寺の自宅に在つてお子さんの教育とこの頃少し健康を害ねた御主人の保養を助ける事に忙しい。その内でも夫人の重なる日課は毎日令嬢にピアノを複習つてやる事と、廣い美しい花畑に出て午前中を花の手入れに餘念のない事だと。のその内でもこの頃お道樂の樂燒と繪畫は餘程もう進歩した。土の手びねりで立派な床の置物

の、動物や人物までも出來るやうになつてゐられる。

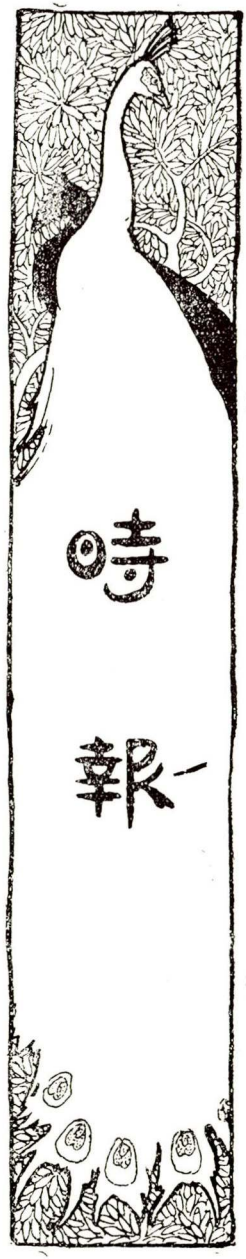
宅は殆んど奥も見えないやうな廣大な土地の中に日本風の瀟洒な建物と手輕な至つて簡單なバンガロー式の洋館と、それから純古風な茶室とが、澤山の高い大きな植込みの中に隱れて離れ〳〵に在つた。その餘の土地は大きな池を園んで全部雜然とした自然そのまゝの形を取つた庭園である。夫人の語るところでは、殊更に子供本位に又大きい庭にふさわしく、反つて日本風の凝つた趣味や洋風庭園の形式張つた技巧を採らなんだとの事であつた。又夫人の說では、生活の形式や內容も出來れば和洋兩樣の長を取りたいと云ふ處から不自由なく建築にそれを應用してゐられる。

洋風の方は成程夫人の希望にも相應しく、又御主人が至つて建築に趣味も深いところから、氣の利いた無駄のない設備と裝飾とから成つてゐるのだつた。僅かに玄間と小さな應接室と食堂と子供室と臺所と——この他に寢室書齋などを續けて建增したいとの由、『何でも質素簡單が主旨なのです』と夫人は語る。

床は全部キルク張り、壁は簡單にも只二色、白の塗壁に茶、或は青味がゝつたクロース張りの只それだけである。其處へ油繪の額が一枚に、置戶棚の上に一つ二つの飾り人形と、只これだけの裝飾が餘程氣が利いて引立つのであつた。之が記者の通された應接間であるが、夫人の手縫ひになるロシヤ更紗のカーテンも淡白な氣分を見せて、更に食堂の方は特に御主人の考案になる食卓と椅子之が日本人向に高さが適度に低くて椅子もずつと私共にはらくであつた。これは應接室のもその通りである。

なほ今一つの工夫は屋根の上を表と裏の前後に床をタヽキにしてヴエランダ代用にしてある事、そして表の方には天井に藤を這はせ、裏の方は今年植え遲れたといふので速座にヘチマがからんでゐる。如何にも野趣に富んだ思ひ付きだと思はせる。

歸りに玄間に立つた夫人は、片方の壁に据付けにして少して出張つた戶棚を開けて見せてくれたそれは下駄箱なのである。其他細々とした傘なども全部藏つてゐる。しかし外から見た處は、それは一つの只の戶棚で他方の壁の腰板と同樣美しく艶を有つて光つてゐた。



◉廳舍設計懸賞募集

大阪府は過般來廳舍及府會議事堂改築の議ありしが今回愈々具體案を決し其建築設計を懸賞にて弘く募集することゝなれり其募集規程其他は左の如く決定發表せり

大阪府廳舍及府會議事堂建築意匠設計懸賞募集規程

第一條　本規定に依り大阪府廳舍及府會議事堂の意匠設計圖書を募集す

第二條　審査の上當選者には左の賞金を交付す

壹等賞　壹個　金八千圓
貳等賞　壹個　金四千圓
參等賞　貳個　各　金貳千圓

第三條　應募者は第六條第七條に記載する如く其意匠設計圖書を嚴封して左記期限迄に大阪府廳内務部營繕課に提出すへし

大正十一年十月卅日正午

第四條　應募意匠設計圖書には左の圖面及書類を要す

一、配置圖　縮尺三百分の一
一、各階平面圖　縮尺二百分の一
一、立面圖(四面共)縮尺二百分の一
一、斷面圖(中央置間議場等の重要室を含む縱橫斷面二面以上)縮尺二百分の一
一、中央正面主要部詳細圖一個所　縮尺二十分の一
一、透視圖　ワットマン全紙大
一、略說明書

第五條　圖面及書類は次の如く作成すへし

一、圖面は總て製圖紙を用ひ日本墨を以て製圖し寸法は日本尺を用ふへし
一、文字は總て邦文を以て明瞭に記載すへし已むを得ずして外國語を使用する場合には片假名を以て記載すへし數量を示す數字に限り西洋數字を用ふへし
一、圖面は單色仕上とし陰影を施すことを得但し透視圖には色彩を用ふるも差支なし
一、圖面に記入すべき各室の名稱坪數等は番號符號等を用ひず直接其位置に記入すべし
一、配置圖に於ける建物の平面は單に外郭線のみとし本館附屬建物庭園道路等を現すことを要す
一、平面圖に於ける柱壁等の平面は墨を以て塗抹し造付の座席家具等は記入すべし
一、斷面圖に於ける壁床天井等の斷面は輪郭を太き墨線にて描き淡墨にて塗抹

し内部の構造を示すに及ばず

一、透視圖に於ける畫面（ピクチュアープレーン）は本館の東南隅と一致し且本館の直正面と三十度の角度を保たしめ其視點は建物の同一隅より三百尺の距離にして其水平線は地盤面上高六尺の位置にあるものとす

一、畧說明書は單に設計の說明に止め其意匠の要旨材料及構造の概略を簡單に記載すべし

第六條　圖面及書類には總て署名に代ふるに每葉暗號を記載し別に暗號のみを表記せる封筒内に應募者の住所職業氏名及暗號を明記し其紙片を嚴封すべし

第七條　圖面及書類は一括して堅牢なる容器に納め嚴封を施し表面には宛名應募者の暗號及應募設計たることを表示する文字の外記載すべからず

第八條　設計其他應募意匠設計圖書送付に要する費用等は應募者の負擔とす

第九條　應募したる意匠設計圖書は審査委員之を審査す審査の結果に對しては說明を求め又は異議を申立つることを得す

第十條　審査は大正十一年十一月卅日迄に結了するものとす

第十一條　審査の結果は官報を以て發表すべし

第十二條　審査に關與する者は募集に加り又は應募者に幇助を與ふることを得ず

第十三條　應募意匠設計圖書左記各號の一に當る時は之を審査せず

一、他人の意匠を剽竊し若くは摸寫せりと認めたるもの

一、不正の手段方法に因る設計なりと認めたるもの

一、第三條の期限に遲れたるもの又は第四條乃至第七條の要件を具備せざるもの其他本規定の重要なる事項に違反せりと認めたるもの

第十四條　賞金は之を本人に交付す本人死亡其他の事由に依り本人に賞金を交付することを能はざる時は大阪府知事其交付を受くべき者を決定す

第十五條　當選したる意匠設計圖書其他之に關する一切の權利は大阪府の所有に歸するものとす

第十六條　當選したる意匠設計圖書と雖實施の場合には之を取捨變更することあるべし

第十七條　應募意匠設計圖書は審査結了後暗號の儘公衆の縱覽に供することあるべし

第十八條　當選せざる意匠設計圖書は大阪府の費用を以て之を還付すべし

第十九條　大阪府は應募意匠設計圖書の保管及還付に關し注意をなすと雖萬一損害を生じたる場合には賠償の責に任せず

設計要旨

一、建築敷地は大阪市東區大手前之町（輜重兵營跡）に於ける府有地にして敷地測量圖に示したる朱線區域とす

一、敷地坪數は四千三百二十九坪〇九勺五才とす

一、敷地は粘土質にして安全地耐力は一平方尺に付約參噸半と假定す

一、建物の總延坪數を九千百五十九坪内外とす但し裝飾塔昇降機塔水槽等の屋上突出物を含まず坪數は壁眞を以て計算す

一、建物は地下室共七階とす

一、建物は東方を正面とす

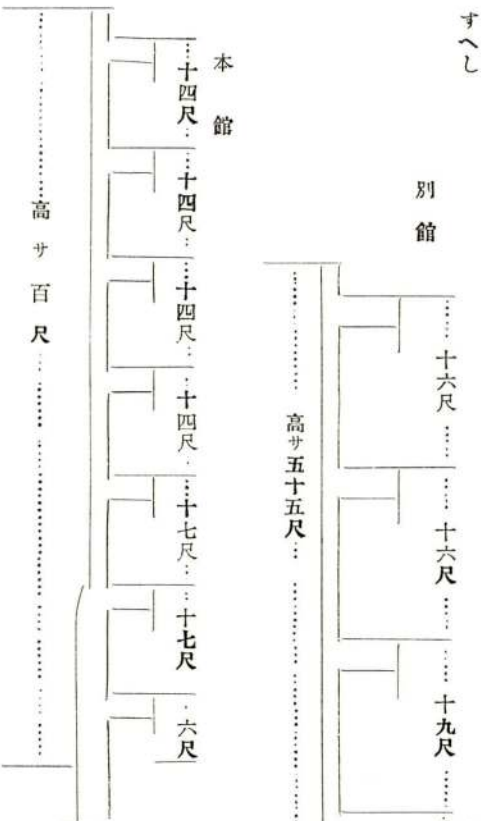
一、建築樣式は應募者の任意とす

一、建物は耐火耐震構造とす

一、建物の總工費は三百萬圓以内とす
但し構造的以外の裝飾、煖房、風通、電燈、排水、給水、造庭、地均し、假設備其他附屬設備費、事務費は之を除く
一、建物内に配置すべき各室は所要室數及坪數表に依り間取略圖を參考として適當なる考案をなすべし

應募者心得書

一、應募設計は市街地建築物法其他の諸規定に準據すべきものとす
一、敷地の東面道路の對側に大阪城の濠あり又東面及南面の道路に沿ひて敷地内に古松の並木あり
一、敷地測量圖の朱線は道路幅境界線及敷地境界線を示すものにして東面及南面の建築線は朱線より一尺五寸後退したる位置にあるものとす而して對側建築線の位置も對側道路幅境界線より一尺五寸後退せるものとす
一、建物の高は東面道路の中央より百尺以内とし裝飾塔等の高幅坪數は市街地建築物法施行規則第六條に依り規定せられたる範圍内とす
一、本館及別館の各階高は概ね左圖に準據すべし



一、各室は採光通風を充分にし議塲等は特に音響の透徹に留意すること
一、建物の南面道路に面する部分は市街地建築物法其他の諸規定による高の制限を超えざる程度に後退せしむ可し
一、電氣及瓦斯は外部より供給を受くるものとす
一、煖房裝置は熱氣式、蒸汽式等を採用し通風裝置は人工法及自然法を採用すべし
一、間取略圖は單に標準を示したるものにして應募者はこれに拘束せらるゝ必要なきものとす
一、署名に代ふる暗號は各圖面及書類一點毎に明記すべし
一、懸賞募集に關する質疑は大阪府廳内務部營繕課に書面を以て問合すべし
一、質疑は都度質疑者に回答し尚質疑應答事項は必要と認むる時は「建築雜誌」「建築ト社會」「建築世界」等に掲載することあるべし
一、應募者設計提出後住所氏名を變更したる時は其都度書面を以て通知すべし但し封筒には宛名の外(變更通知)の四字及暗號)のみを記載すべし

◎建築工事等注意事項

大阪建築課にては從來出願其他に係る建築工事及手續に就いて不法の點多く一々指示するの煩に耐へざるものゝ如かりしが這今左記注意事項を發表して工事出願等に關する參考に供することゝせり

建築工事及手續上の注意事項

(甲) 檢査に際し最も多く發見する不適合の事例

一、床下其の他木造建物内地盤に防濕方法(コンクリート叩其の他適當なる)の施してないもの(規則第十七條 建規第二十三條)

二、主要構造用木材である土臺下端に防腐方法を施してないもの(規則第四十六條)

三、建物の土臺及び敷桁の隅角に燧材を使用して無いもの(規則第五十二條)

四、外壁、界壁の床下、天井裏に關する部分に施さねばならぬ防鼠設備(防鼠材料にて構造するか又は三分目以下の金網の類を張ること)の不完全なるもの(建規第二十七條)

五、居室には其室面積の十分の一以上(特殊の場合を除き)の有効面積を有する窓又はこれに代る採光面を設けねばならぬ夫が不足せるもの(規則第十九條)

六、居室の換氣設備(開放し得らるべき窓又は掃出口「室面積の二十分の一以上の口」)の不足せるもの(規則第二十條)

七、濡縁で認可を受けたるものを勝手に内縁に變更せるもの

建築物の前面突出部の内蛇腹、軒、小塔出窓、標旗、標燈、招牌、其の他之に類するものは路面上十尺以上に在る場合に限り道路巾の境界線を超へさる範圍内に於て三尺迄は建築線より突出しても差支ないのであるが右路面上十尺以下に於て突出せるもの

同上の内出入口の階段囘庭の手摺地覆、腰石、根石、其の他之に類するものは同上範圍内に於て一尺迄は建築線より突出しても差支ないのであるが此の制限を越へて突出せるもの

右二項は制限の尺度内と雖も特に許可を受けたる場合の外前面建築線間の距離の二十分の一を超過することは出來ない(規則第四條)

九、小屋裏、床下等の通風孔の設備の出來てないもの(建規第二十八條)

十、階段、及踊場の幅、蹴上踏面の寸法其の他の構造が規定に合はないもの(規則第二十五條細則第十條)

十一、汲取便所の藁尿壺の上口周圍の構造(厚三寸以上の「コンクリート」を以て漏斗狀に作り不滲透質の材料を以て上塗を爲すこと)の不完全なるもの(規則第十三條)

十二、便所汲取口(其下端を地盤面より三寸以上高くすること且つ直接道路に面せしめざること)の不完全なるもの(規則第十三條)

十三、煙突の構造の内防火上(大屋根の軒上部へ突出(二尺)せしむること、小屋裏、床裏等の位置に在る部分は不燃材料を用ふること、木材其の他の燃質材料と五寸以上の間隔を保つこと)注意せねばならぬ點が不完全なるもの(規則第百三十六條至三十八條)

十四、炊事場の上部は換氣窓を設けてない

もの（建規第四十八條）

十五、敷地面積や建築面積が其の現狀と頗る届書類と一致して居らないもの

十六、全部竣工して居らないにも不拘其の届出をなすもの

（乙）申請届書類調査に際し最も多く訂正を要する事例

（一）建築線の關係

一、建築物の前面突出部規則第四條に抵觸するもの（檢査の事例第八號參照）

二、建築物の敷地が建築線に接せないものは法第八條但書に依つて特に許可を受けなければならぬ其の事項を記載（申請書の書式に記載例が示してある）してないもの

三、道路に面する出入口及窓の扉の開閉のときでも建築線の外へ出ない様な構造としなければならない（路面上十尺以上に在るものならば差支ない）其の構造が規定に抵觸して居るもの（規則第二十四條）

（二）建築物の高

一、建築物の敷地が二ツ以上の道路に接して居るものにして一方の道路に面する部分が切妻になつて居る場合其の部分の令第七條同第八條に依る高の測り方が間違つて居るもの

（三）建築面積と敷地面積の割合

一、建築面積は建築物の水平斷面に於ける外壁の又は之に代るへき柱の中心線内面積中最も大なるものを謂ふのである（軒庇、縁、等の突出せる部分は突出先外端より三尺退つた所が右の中心線に當るのである）尚敷地面積は其の敷地の水平斷面の面積中最大なるものを謂ふのである此二種の面積の測り方が間違つて居るもの（令第十五條）

二、建築物の敷地とは一構（長屋は各戸を一構と看做す）建築物に屬する一圍の土地を謂ふので申請又は届書式の敷地面積の欄には其の工事は一部分であつても即ち右一圍の土地の面積の全體を記入すへきであるが之を書き誤つて居るもの（令第十六條）

三、長屋は前號の如く各戸を一構と看做す結果令第十四條に依つて存せねばならぬ空地の割合（住家は四割以上其他は二割以上）は一戸毎に算定せねばならぬのであるが之を連續する一棟の全體に於て定せるものあり其の結果は戸毎に見るときは割合の不足せるものがある

四、令第十四條に依つて存せねばならぬ空地は建築物の敷地の住家は四割以上其の他は二割以上の割合であるが之を誤解し建築面積の何割となすもの

五、主として住居の用に供する建物を往々商店として申請又は届出を爲し空地の制限を不當に緩和せむとするもの（令第十四條第二項）

（四）一般構造設備

一、居室の採光面積の算定、規則第十九條の規定に依らないもの（檢査の事例第五號參照）

二、居室の床高一尺五寸未滿の場合は床又は床下に「コンクリート」叩か其の他適當なる防濕方法を施さねばならぬ其の構造を爲さないもの（規則第十七條但書）

三、汲取便所の構造規則第十三條に違ふもの（檢査の事例第十一號十二號參照）

四、階段の構造細則第十條に抵觸せるもの（檢査の事例第十號參照）

五、特別の用途に充つる作業室の床を土間の儘と爲す場合は規則第二十一條に依り

許可を受けねばならぬ其の事項を記載してないもの

六、建築面積二百坪以上の建築物には二百坪以内毎に防火壁を設けねばならぬ其の設計をしないもの（外壁、床、屋根、柱、階段が耐火構造なるとき又は用途上已むを得ないもの其の他土地の狀況に依り特に支障なしと認むるものは設けなくても差支ない此場合には特に承認を受くる爲め其の事項を記載せねばならぬ）（規則第二十九條）

（五）木構造、木骨構造

一、柱の小徑の算定を誤て居るもの（規則第五十三條）

二、建物土臺及敷桁の隅角に燧材を使用しないもの（規則第五十二條）

三、三階建木造建物の壁體に適當なる筋違を使用しないもの（規則第五十五條）

（六）石構造、煉瓦構造、及コンクリート構造

一、地階の壁厚の不足せるもの（第一階の壁厚に三寸以上を加へたる厚でなければならぬ）規則第六十三條第四項）

（七）構造の强度計算

一、鐵筋「コンクリート」の强度計算に於て柱に曲能率の考を入れないもの

二、動荷重のみの割引を靜荷重にも適用せるもの

三、正負の曲能率の生ずる梁又は柱に負の曲能率を考に入れざる計算及配筋を爲すこと

四、煙突の計算に地震を考に入れざるもの

（八）建築取締規則

一、木造長屋の兩端は屋上二尺以上に達する石煉瓦「コンクリート」又は鐵筋「コンクリート」を以て適當に構造したる防火壁とせなければならぬ但し他の建物と三尺以上の距離があらば（此但書の距離は隣地と所有者を異にする場合に於ては境界線より一尺五寸迄に減ずることを得）差支ないのであるが此場合右の距離を充分に見込まないもの（第六十二條）

二、界壁（長屋各戸の境界壁の如きもの）の構造は基礎より屋根裏に達せしめ尙界壁には出入口、窓、通風孔其の他障間を設けることは出來ないのであるが其の規定に違ふもの（第二十九條）

三、木造建物内の地盤は防水材料を以て築造するか又は厚一尺以上の砂敷と爲さねばならぬ（使用上止むを得ざる部分は此限りでない）夫れが規定に違ふもの（第二十三條）

四、住家又は公衆用建物の階段數は其の建物の構造と其の層の積面に應じ定めたる規定の標準に從ひ之れを配置せなければならぬ但し室の配置簡單にして階段の幅特に大なる場合に於ては右標準に依る階段數の遞減を認可せらるゝ場合がある然るに此の但書の事由なきにも不拘任意に其の數を遞減せるもの（第三十七條）

（九）工事執行

イ、書類に就て

一、認可を受ければならぬものと届出で濟むものとの區別を誤て居るもの

規則第百四十三條
規則第百四十四條
細則第十六條
細則第二十八條

、認可申請又は届出書式の樣式に違ふもの（樣式は各警察署に備へてある）

三、摘要書用途欄の名稱は一團の敷地内の建物全体の用途の主たる目的の名稱（何々工場、商店、事務所、住家等）を記入するのであるが一部增築、改築、等の場合其の

建物のみの用途を記入せるものがある

四、建築面積の合計欄（現存本願）の區別の判然せないもの

五、工事の要旨欄の記載方不完全なるもの（様式に詳しく示してある）

六、道路明示の年月日の記載洩のもの

七、工事の種別を誤て居るもの（種別は左の如し）

（イ）新　築　全然空地である一團の敷地内に建物を建築する場合は勿論舊建物を全部取拂つて其の跡の一團の空地に從來と異りたる用途の建物を建築すること、但建築材料は新古の如何を問はない

（ロ）增　築　現存建物に建增をする場合は勿論新に別棟の建物を建築する場合でも現存建物のある一團の敷地内に建築すること建坪を增すとも延坪を增す場合亦同じ但建物全体の容積を增さないときは增築と看做さず大變更となる

（ハ）改　築　舊建物のある一團の敷地内で一旦舊建物全部を取拂つて其の跡に舊建物と同一用途の建物を建築すること若舊建物の一部を取拂つて建築する場合は一部改築となる、建築材料は新古の如何を問はない

（ニ）移　轉　建物全体を取崩さずして其の儘引移すこと、興行場、浴場、等の特殊建物に在つては位置を變更して新築するときは移轉改築となる

（ホ）大修繕　壁体、柱、小屋若は基礎の過半の修繕又はこれに準ずる構造上主要なる部分の修繕

（ヘ）大變更　壁体、柱、床、小屋、基礎等構造上主要なる部分の變更

（ト）用途變更　住家、商店、事務所、納屋等を集會場、劇場、旅館、工場、倉庫病院、市場、其の他所令に依つて警察取締を受けねばならぬ用途に供する建物に又は右集會場以下の建物相互間に於て其の用途を變更すること尙此場合前に列記した何れかの工事を施すときは併せて同時に認可を受けねばならぬ

（チ）設計變更　一旦認可を受け又は届出受了に係る建物の面積又は容積を增さないで其の構造設備其の他を變更すること若し此場合面積又は容積を增加するときは增築及設計變更となる

（リ）圖面に就て

一、細則第二十條各項に依る記入又は明示なき不備のもの

二、圖面又は設計書と實地の現狀と相違せるもの

備考　規則は市街地建築物法施行規則、細則は同法施行細則、建規は取締規則の略

◇——◇



日本建築協會名譽賛助員莊田平五郎氏、大正十一年四月三十日長逝せらる。氏は、三菱家の事業を中心として、我邦實業界に於ける重鎭たりしことは人も識る處なり。而して、我日本建築協會の事業にも亦氏の嘖名に俟つ處少なからざりしが今や終に他界の人となる、惜悼焉ぞ禁ぜむ。茲に、氏の小照を掲げ、謹で本會の吊意を捧ぐ。



會合

○臨時幹事會

△日　時　五月二十九日午後六時－八時三十分
△會　場　本協會々議室
△出席者　片岡、葛野、波江、小笠原、吉木
舟橋、西谷（書記）大谷（書記）
△議　事　一協會出品實物住宅戸數（八戸）
件一、の件協會出品實物住宅施行に關し請負者との契約案の件、本館前庭道路施工及び其他博覽會に關する雜件に付協議ありたり

○理事會

△日　時　六月五日午後五時－六時
△會　場　本協會々議室
△出席者　片岡、舟橋、小笠原、竹腰、野呂、西谷、書記）
△議　事　一、六月十七日例會に於ける講演者の件
一、窓枠購入の件一、會員銓衡
右協議せり

○博覽會幹事會

△日　時　六月五日午後六時－七時
△會　場　本協會々議室
△出席者　葛野、片岡、舟橋、小笠原、西谷（書記）大谷（書記）
△議　事　一、博覽會前庭道路工事起工の件二、名譽賛成員依頼の件三、評議員會開會期日の件其他協議あり

○第四部及第五部出品委員會

△日　時　六月十四日午後五時卅分－九時
△會　場　大江ビルデング第九號室
△出席者
第四部委員　山中清七殿岩崎清次郎殿
池幸吉殿藪明山殿樋口彦右衛門殿
第五部委員　有山福重郎殿谷民藏殿
松尾和助殿中川辰藏殿谷口德政殿
山脇友三郎殿細原和一氏代倉橋友
四郎殿
第四部兼第五部委員　安田孝次郎殿
重枝東之殿
會長　片岡安
委員長　宗兵藏
幹事吉木久吉
幹事長葛野壯一郎
常務幹事小笠原鈅
△議　事　一、本館中央部に陳列すべき出

品物の程度及出品者の件、一、協會出品の實物住宅（八戸）內部に陳列すべき家具其他の陳列物の程度及出品者の件、一、出品勸誘に關し分擔の件、一、官公衙に對し出品勸誘の件、其他種々協議ありたり

第四部出品委員會

△日　時　六月十六日午後一時－四時
△會　場　大江ビルデング第四號（室應接室）
△出席者　岩崎清次郎殿池幸吉殿飯明山殿樋口彦右衛門殿山中清七殿幹事吉木久吉
常務幹事小笠原朔
書記西谷、大谷
△議　事　一、第四部出品物種類の撰擇をなし之を決定せり其他出品勸誘方法に付種々協議す

○例　會

△日　時　六月十九日午後七時－九時
△會　場　大江ビルデング第九號室
△出席者　久保田、波江、小林、佐藤、長澤、中川、森本、片岡、小笠原、瀨戶、野呂、西谷（書記）清川（書記）
△記　事　一、小笠原理事開會を宣し會務報告として前月例會より今日迄の新入會員に付報告をなす
二、波江博覽會幹事より博覽會準備經過に付委細報告ありたり
三、報告後博覽會に付意見の交換をなし茶菓の饗應ありて散會せり

○第五部特別出品委員會

△日　時　六月十九日午後一時－三時三十分
△會　場　大洋軒食堂
△出席者　重枝東之殿細原和一殿代倉橋友四郎殿安田孝次郎殿代奧村殿幹事長葛野壯一郎、吉木久吉
常務幹事波江悌夫、大谷（書記）
△議　事　一、本館正面（入口見付）出品者及出品物の件
一、本館內陳列配置場割の件
一、本協會出品の住宅內陳列品の程度其他種々協議せり

○博覽會幹事會

△日　時　六月二十日午後六時卅分－八時卅分
△會　場　本協會々議室
△出席者　片岡、葛野、瀨戶、吉木、波江、小笠原、西谷（書記）大谷（書記）
△議　事　一、宣傳委員會を設くる件
一、設備係委員會至急開催の件
一、博覽會活動寫眞以外に劇様の物を備すこと其他協議ありたり

○理　事　會

△日　時　六月二十日午後五時卅分－六時卅分
△會　場　本協會々議室
△出席者　片岡、横濱、內藤、野呂、小笠原、瀨戶、吉木、西谷（書記）
△議　事　一、建築材料聯合調査會より照會に係る瓦に關する調査回答案の件
一、七月例會講演者の件
一、大阪府廳舍設計圖懸賞蒐集に付會員に周知するの件其他協議ありたり

會　務

○叙任及辭令

司法技師　横濱　勉
文官分限令第十一條第一項第四號に依り休職を命ず（六月七日）

大阪府立今宮職工學校教諭
姫野　武
公立實業學校教諭に任ず高等官七等を以て待遇せらる（六月六日）

○新入會員

（會員）中村琢次郎君
（普通贊助員）佐々木正男君、辻謙君、川面萬吉君、福村庄三郎君、平野一男君

○住所移轉

佐田佐太郎君　長崎縣北松浦郡平戸町北松浦郡役所内
上野佐一君　大阪市西區春日出町北澪住宅第六一號ノ二
福見榮爾君　金澤市宗叔町三番丁清水組金澤出張所内
松室成貞君　三重縣宇治山田市川崎町六九七
伊東宗太郎君　福岡市東澪町九四福岡市廳舍建築場
竹村近衛君　神戸市葺合町二二五ノ四三
糸崎周一君　神戸市葺合町一七二ノ二七
岸田宜一君　和歌山縣伊都郡妙寺町
角尾篤彦君　大阪市外天王寺村字阿部野三〇八（通稱相生通四丁目）
宮本長治君　大阪府下豊能郡豐中北三丁目
小野政太郎君　京都市下京區今熊野夢ノ橋詰岩崎音二郎方
廣瀬恭君　東京府下蒲田村街園三三五
若林秀雄君　東京市本鄉區元町一丁目第二初音館内東京市役所建築課
長澤榮作君　大阪市西區西島町九〇北澪住宅二三三ノ一
大塚錦三君　大阪府下豊能郡箕面村櫻井停留所南角
中川彌八君　大阪府西成郡千舟村字蒲島四三
遠田音吉君　和歌山縣海草郡加太町第四師團經理部深山派出所内
加藤安彦君　京都府何鹿郡綾部町裏町三
前田菊太郎君　大阪市東區和泉町一丁目一九
小島榮二君　東京市外西巢鴨町宮仲一九九六木藤方
村上榮一郎君　京城府櫻井町一丁目九八

○寄贈圖書

住宅　六號　住宅改良會
建築雜誌　五號　建築學會會報
日本ボルトランドセメント同業會
文化住宅　あめりかや
經濟資料　六號　東亞經濟調査會
建築世界　六號　同社
工業評論　六號　工業評論社
帝國鐵道協會々報　五號　同協會
家のしるべ　五號　家のしるべ社
國民經濟雜誌　六號　神戸高等商業學校
土木建築　六號　日本實業與信新報
電氣學會雜誌　五號　同學會
工業の友　六號　工手學校
滿洲建築協會雜誌　五號　同協會
新住宅　五號　洪洋社
建築の普及　五號　帝國工業教育會
庭園　五號　庭園協會設計部
日本建築士會月報　日本建築士會
千里山學報　關西大學學報局
日本美術協會報告　日本美術協會

× × ×

役員及職員

副會頭　片岡　安
理事　小笠原釰
理事　横濱　勉（理事長）
理事　吉木　久吉
理事　竹腰　健三（編輯）
理事　中西　其作（編輯）
理事　内藤　太郎（主記）
理事　野呂長四郎（編輯）
理事　松本　禹象
理事　舟橋　喜一
理事瀬戸文吾（主計）
書記　江村　郊邨（編輯主任）
（庶務）西谷　節
（庶務）清川　伊佐

會員	二三三	會員（地方）	八一
名譽賛助員	六七	終身賛助員	五三
特別賛助員	二二	普通賛助員	三八四
合計（六月二十日現在）			八四一

臨時博覽會部（住宅改造博覽會）

會長　片岡　安
幹事長　葛野壯一郎
常務幹事　波江悌夫
常務幹事　小笠原釰
幹事　吉木久象
幹事　松本禹
幹事　舟橋喜一
幹事　瀬戸文吾
書記　西谷節

本誌及廣告料定價表

本誌	册數	定價	郵稅
十二册	一册	金五拾錢	貳錢
六圓			貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
特別頁モ料金一定シアリ御照會アリ度シ		

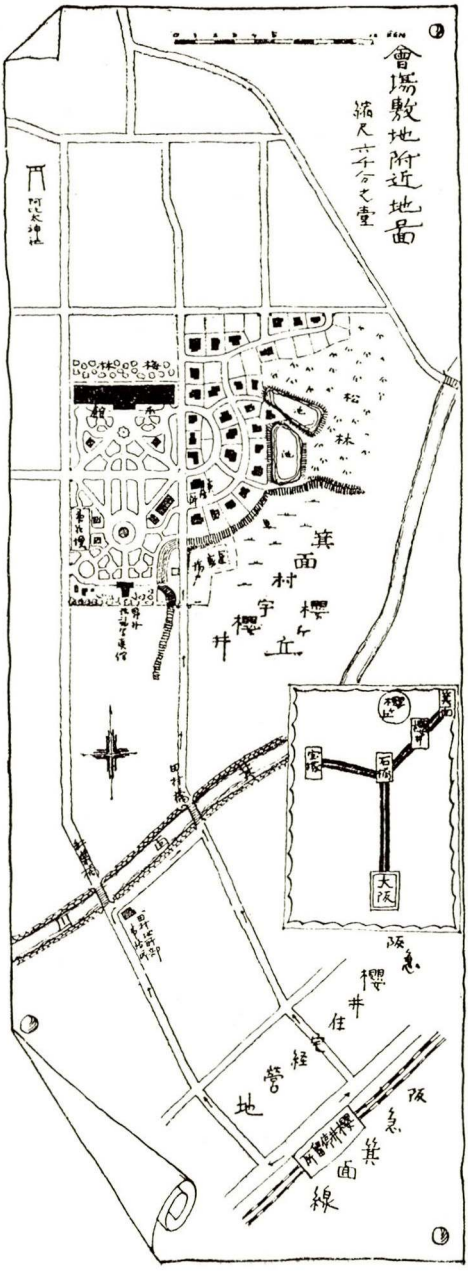
大正十一年六月三十一日印刷（毎月壹回）
大正十一年七月一日發行（一日發行）

大阪市外中津町下三番一九八番地ノ一
發行兼編輯人　江村恒一
兼印刷人
大阪市東區内淡路町一丁目卅一番地
印刷所　大阪活版所

發行所　日本建築協會
大阪市北區絹笠町九大江ビルヂング三十七號室
電話北四一九一番
振替口座大阪三九七五

特約販賣店　柳々堂書店
大阪市西區京町堀羽子板橋北
電話（土佐堀二四四〇番）
振替口座二〇八四番

住宅改造博覽會記事


會場敷地附近地圖
縮尺一千分之壹
箕面村字櫻ヶ丘
櫻井住宅経営地
阪急箕面線
大阪

住宅改造博覽會記事

本會主催に係る今秋阪急箕面沿線櫻井櫻ヶ丘に開催すべき住宅改造博覽會は爾後着々實施の準備をなしつゝあり其經過大要左の如し

博覽會開催に就ては昨年來種々企畫する處あり本年一月の例會に於て愈々本會内に臨時博覽會部を設置することゝなり續いて左の役員を決定せり

會長　片岡安
幹事長　葛野壯一郎
常務幹事　波江悌夫
常務幹事　小笠原鋧
幹事　瀨戸文吾
同　吉木久吉
同　舟橋喜一
同　松本禹象

此外尚財務委員會は瀨戸幹事設備委員會は舟橋幹事專ら其會務に當り前年來引續き各委員の努力に依り事業の進行に盡しつゝあり

本年三月に入り愈々開催地櫻ヶ丘地主田村眞策氏と敷地借入の契約を締結し尚又一方に片岡會長より本會總裁として男爵後藤新平閣下を推選し其快諾を得たり

上記の如く稍博覽會の組織具備し來りたるを以て設備委員會に於ては博覽會場内各設備に關する豫算の大綱を立て常務幹事に於て更に會務に關する一般の收支豫算を立て本博覽會の總豫算を作製し三月三十

日に至り始めて博覽會評議員會を開催し本豫算の承認を受けたり

博覽會總經費　二五八、〇〇〇圓

內寄附を仰ぐべき金額　一三〇、〇〇〇圓

（三月末寄附申込八〇、〇〇〇圓）

茲に於て別紙の如き平面圖を作製し陳列本館並に實物住宅の設計に取掛ることゝせり

三月中に會場內博覽會事務所（後日住宅地俱樂部建物に充つ）の設計を了し地主田村眞策氏と協定し四月上旬工事に着手せり

又實物住宅の敷地均し及道路工事を地主に於て起工せり

四月中陳列本館の設計を立て之が施行に着手せり

更に又四月に入り出品委員會を組織し吉木幹事專ら會務を掌り宗氏を委員長として出品の種類を左の如く大別して專ら勸誘をなすことゝせり

第一部出品實物住宅

第二部出品資料參考品

第三部出品圖面及模型

第四部出品美術工藝品

第五部出品一般建築材料及器具器械類

第一部出品は各委員數回會合の上左記の通り實物住宅を出品することゝなれり

竹中組二戶　大林組二戶　清氷組一戶

錢高組一戶　鴻池組一戶　橋本組一戶（ヤマトブロック建材株式會社一戶）

亞米利加屋一戶　横田組一戶

田村眞策一戸
片岡建築事務所二戸
宗建築事務所一戸
葛野建築事務所一戸
大阪住宅經營株式會社一戸
横河工務所一戸
眞水三橋建築事務所一戸
計十九戸

之に本會建築實物住宅八戸を加へ合計貳拾七戸建築することゝなれり

博覽會宣傳用ポスター製作の必要あるを以て先般來數次此圖案を製作し漸く最近確定したるを以て目下印刷に附し居れり

五月に入り本會出品實物住宅の設計出來したるに付き其實施方を大阪住宅經營株式會社の直營として依頼し目下實施に着手せり

六月に入り第四部及第五部出品委員會を再々開催して出品勸誘に着手せり

又地主に於ては住宅地の水道設備に着手せり

六月上旬現在寄附申込總額は拾萬壹千圓に達せり

●第五集　第七号　掲載広告一覧（掲載順）

川北電気企業社
日本輸送機製作所
浅海商店
出浦建築事務所
大阪建築所
新海建築工務所
小笠原建築事務所
渡辺建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所
片岡松井建築事務所
横河工務所
竹内建築事務所
宗建築事務所
国枝工務所
柳下建築事務所
真水工務所

真水三橋建築事務所
舟橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
茂、野村建築事務所
モリホン建築社
西原衛生工業所大阪支店
池田勘蔵
日本土木大阪出張所
大阪橋本組
大林組
竹中工務店
長瀬組
中川辰蔵
佐伯工務所
野村亥之助

久保田組
熊取谷熊次郎
松村組
小西組
藤木正一
鴻池組
駒井喜兵衛
安藤組大阪出張所
有山組
清水組大阪支店
銭高組
山縣組
清水工務店
山崎建築事務所
関西ステンドグラス製作場
久原鉱業大阪出張所
山田大理石製作所

矢橋商店
沖電気
高田商会
須賀商会
内外土木建築材料
栄進社
松尾和助本店
山本窯業商店
萩原煖房工務所
新田ベニヤ製造所
南満鉱業
砂崎
穴原商会
大野式特許品営業所
東京建鉄
河村青写真調製所
宇野沢組ステインド硝子製作所
コルク工業
鈴木製作所

大阪煖房商会
大阪電気商会
インペルメアビリット
別府ステインド硝子製作所
日本木材工芸
都市工業
大理石工業
川崎工場
北木島石材大阪出張所
ホーン
城口汚水処理研究所
吉田鉄工所
田中タイリング商会
淡陶
実野商会
日本トラスコン鋼材
大阪耐火リノリウム工業
住友製銅販売店
住友東京販売店

岩崎商業
日本工剤
ヒーリング商会
大阪窯業
横河橋梁製作所
田中源太郎商店
極東硝子工業